

長崎県県政世論調査 調査結果報告書

平成28年3月



目次

第Ⅰ章 調査の概要

1 調査概要

1) 調査目的	1
2) 調査対象・地域	1
3) 調査方法	1
4) 標本抽出	1
5) 発送数・回収数	1
6) 調査実施期間	1
7) 調査主体	1
8) 報告書の見方	2
9) 分析における地域区分	2
10) 回答者属性	2

第Ⅱ章 調査結果要旨

1 日常生活の満足度・県政全般の重要度・総合的満足度について

日常生活の満足度	7
県政全般の重要度・総合的満足度	7

2 分野別の取組について

結婚支援	7
障害者施策(障害者差別禁止条例)	7
だれもが活躍できる社会づくり	7
科学技術の活用	8
雇用対策・人材育成	8
離島との交流	8
海外の活力の取り込み	8
公共施設の整備・維持管理	8
県職員	8

第Ⅲ章 調査結果

1 日常生活の満足度

日常生活の満足度	9
日常生活の優先順位	16

2 県政全般の重要度・総合的満足度

県政全般の重要度	20
県の政策の総合的な満足度	24

3 分野別取組について

結婚支援について	26
障害者施策(障害者差別禁止条例)について	28
だれもが活躍できる社会づくりについて	30
科学技術の活用について	38
雇用対策・人材育成について	40
離島との交流について	44
海外の活力の取り込みについて	52
公共施設の整備・維持管理について	54
県職員について	56

調査票	58
-----	----

I 調査の概要

調査概要

1. 調査目的

本調査は、県の政策に対する県民の満足度や、日常生活や意識の変化などを定期的に把握し、県政運営のための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象・地域

長崎県内に居住する満 18 歳以上の男女個人

3. 調査方法

郵送による自記入式調査

4. 標本抽出

各市町住民基本台帳による等間隔無作為抽出（単位：人）

	対象人口	%	10代 (18・19)	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	対象人口	発送数
長崎市	433,514	31.7	8,038	41,760	46,824	55,440	57,066	68,157	88,810	366,095	953
佐世保市	254,901	18.2	4,978	21,974	28,958	31,066	31,128	39,327	53,065	210,496	547
島原市	45,847	3.3	811	2,709	4,586	5,474	6,399	7,248	11,119	38,346	100
諫早市	138,447	9.9	2,834	11,265	15,983	18,035	18,616	20,795	26,685	114,213	296
大村市	92,455	6.4	2,000	8,989	11,511	12,477	11,442	12,417	14,700	73,536	190
平戸市	32,311	2.4	516	1,525	2,534	3,496	4,659	5,523	9,172	27,425	72
松浦市	23,717	1.7	426	1,567	2,247	2,462	3,339	3,843	5,960	19,844	52
対馬市	31,670	2.3	328	1,649	3,221	3,444	4,695	5,402	7,952	26,691	70
壱岐市	27,495	2.0	474	1,238	2,730	2,907	3,712	4,463	7,286	22,810	59
五島市	37,944	2.8	534	1,651	3,151	4,172	5,939	6,518	10,673	32,638	85
西海市	29,220	2.2	517	2,060	2,732	2,967	4,068	4,858	7,793	24,995	65
雲仙市	44,612	3.2	941	2,777	4,352	5,073	6,662	6,851	10,733	37,389	97
南島原市	47,306	3.5	817	2,206	4,183	5,125	6,851	7,914	12,982	40,078	105
長与町	42,321	2.9	931	4,008	5,007	5,970	5,492	5,861	6,669	33,938	87
時津町	30,104	2.1	720	2,802	4,068	4,112	3,456	4,161	4,582	23,901	62
東彼杵町	8,354	0.6	176	562	748	918	1,266	1,385	2,116	7,171	19
川棚町	14,097	1.0	279	954	1,614	1,697	1,804	2,247	2,979	11,574	30
波佐見町	14,954	1.1	286	1,213	1,670	1,709	2,086	2,293	3,178	12,435	32
小値賀町	2,601	0.2	30	56	173	195	381	524	966	2,325	6
佐々町	13,589	0.9	268	1,103	1,716	1,692	1,707	2,101	2,328	10,915	28
新上五島町	20,111	1.5	282	584	1,585	2,373	3,235	3,444	5,789	17,292	45
長崎県	1,385,570	100.0	26,186	112,652	149,593	170,804	184,003	215,332	295,537	1,154,107	3,000

※平成 26 年年齢別推計人口により割付（平成 27 年 9 月抽出作業開始時点）

5. 発送数・回収数

発送数：3,000

回収数：1,698（回収率 56.6%）

6. 調査実施期間

平成 27 年 11 月 30 日（月）～平成 27 年 12 月 21 日（月）（22 日間）

7. 調査主体

長崎県総務部県民センター

8. 報告書の見方

- (1) 比率は百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。このため、百分率の計が 100%にならない場合がある。
- (2) 基数となる実数は n として掲載した。その比率は件数を 100%として算出した。
- (3) 1 人の回答者が複数回答を行う設問では、その比率の合計が 100%を上回ることがある。

9. 分析における地域区分

集計データの地域分析においては、県内を 5 地域に区分し、その地域特性等について考察を行った。地域区分については以下のとおりとした。

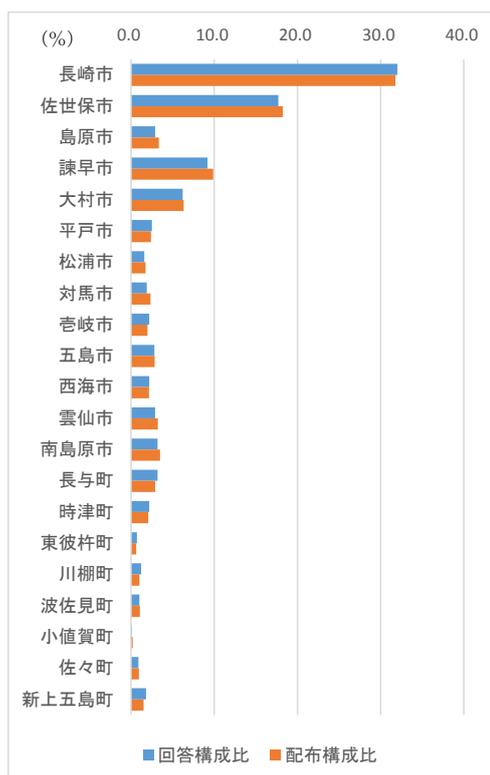
地域	市 町
県南地域	長崎市、西海市、長与町、時津町
県央地域	諫早市、大村市
県北地域	佐世保市、平戸市、松浦市、東彼杵町、川棚町、波佐見町、佐々町
島原半島地域	島原市、雲仙市、南島原市
離島地域	対馬市、壱岐市、五島市、小値賀町、新上五島町

10. 回答者属性

【居住地】

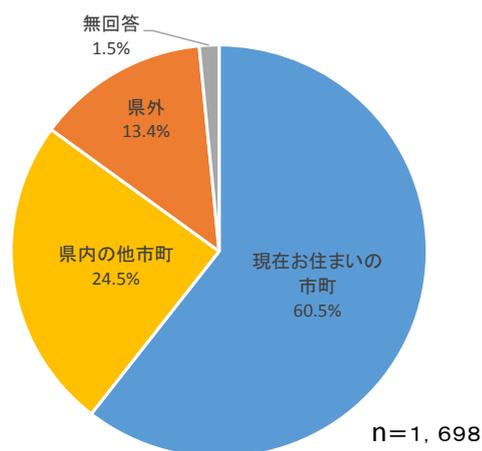
居住地は、「長崎市」が 32.0%で最も多く、次いで「佐世保市」17.7%、「諫早市」9.2%と続き、ほぼ人口割合（配布割合）に応じた回答割合となっている。

		回答数	構成比(%)
(1)	長崎市	544	32.0
(2)	佐世保市	300	17.7
(3)	島原市	49	2.9
(4)	諫早市	156	9.2
(5)	大村市	106	6.2
(6)	平戸市	42	2.5
(7)	松浦市	27	1.6
(8)	対馬市	32	1.9
(9)	壱岐市	38	2.2
(10)	五島市	47	2.8
(11)	西海市	37	2.2
(12)	雲仙市	50	2.9
(13)	南島原市	55	3.2
(14)	長与町	55	3.2
(15)	時津町	37	2.2
(16)	東彼杵町	12	0.7
(17)	川棚町	20	1.2
(18)	波佐見町	17	1.0
(19)	小値賀町	2	0.1
(20)	佐々町	16	0.9
(21)	新上五島町	30	1.8
	無回答	26	1.5
	計	1,698	100.0



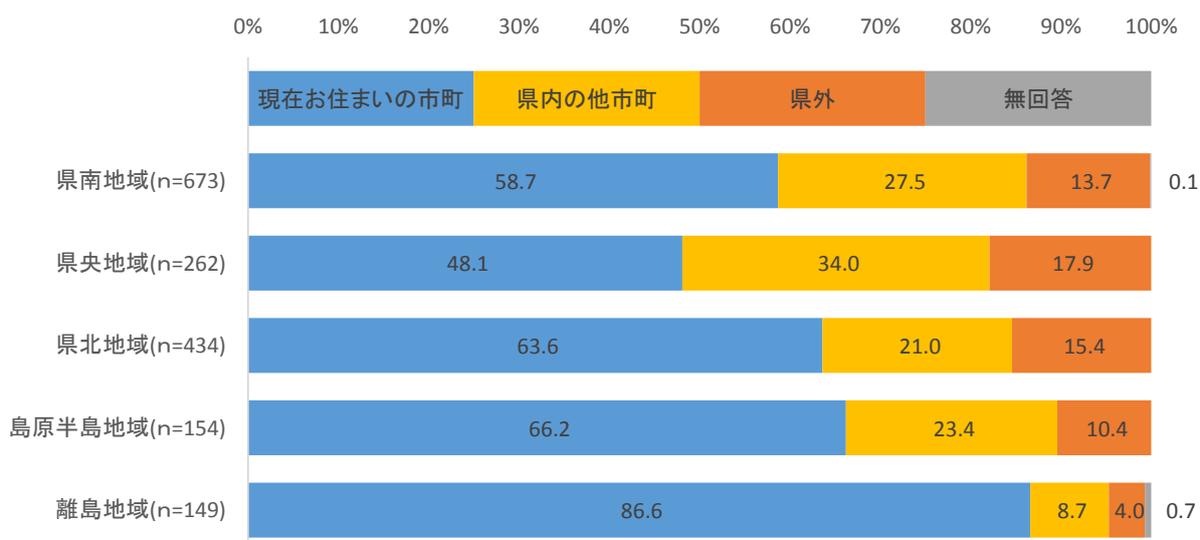
【出身地】

出身地は、「現在お住まいの市町」が60.5%で最も多く、次いで「県内の他市町」24.5%、「県外」13.4%となっており、全体の85.0%が本県出身者である。このことから県内在住者の多くが本県出身者であると推測できる。



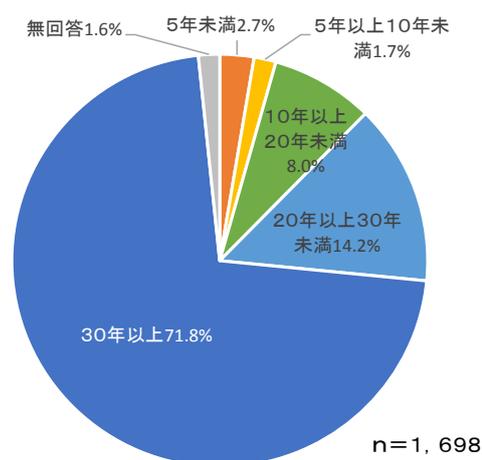
〔居住地区別：出身地〕

出身地に現在居住している人の割合をみると、離島地域の86.6%が最も高く、次いで、島原半島地域66.2%、県北地域63.6%、県南地域58.7%、県央地域48.1%の順となっており、離島地域は他地域よりも20%以上高くなっている。



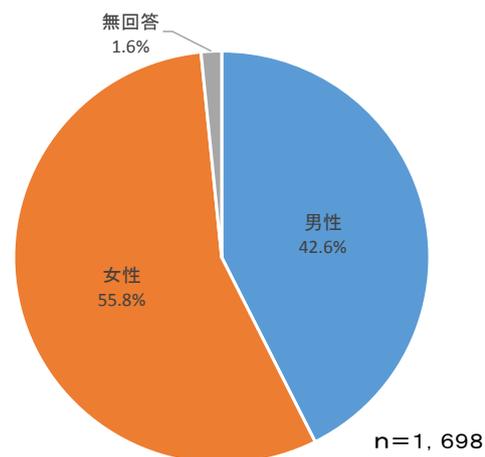
【居住年数】

居住年数は、「30年以上」が71.8%で最も多く、次いで「20年以上30年未満」14.2%、「10年以上20年未満」8.0%となっており、全体の94.0%が10年以上の居住者である。



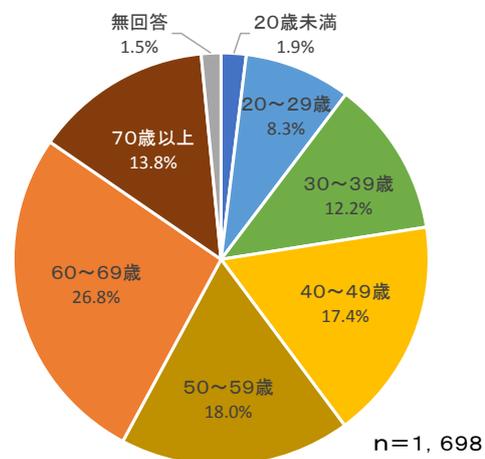
【性別】

性別は、男性42.6%、女性55.8%と女性の割合が13.2ポイント高くなっている。



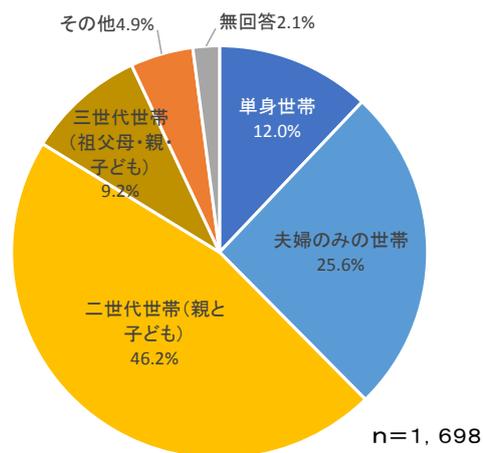
【年齢】

年齢は、「60～69歳」が26.8%で最も多く、次いで、「50～59歳」18.0%、「40～49歳」17.4%、「70歳以上」13.8%の順で続いており、50歳以上で58.6%と半数以上を占めている。



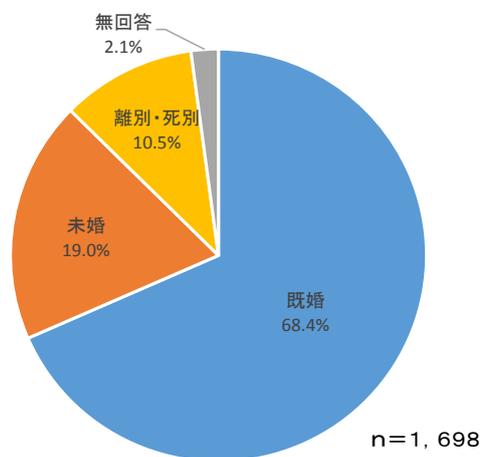
【世帯種別】

世帯種別は、「二世帯世帯（親と子ども）」が46.2%で最も多く、次いで、「夫婦のみの世帯」25.6%、「単身世帯」12.0%、「三世帯世帯（祖父母・親・子ども）」9.2%の順となっている。

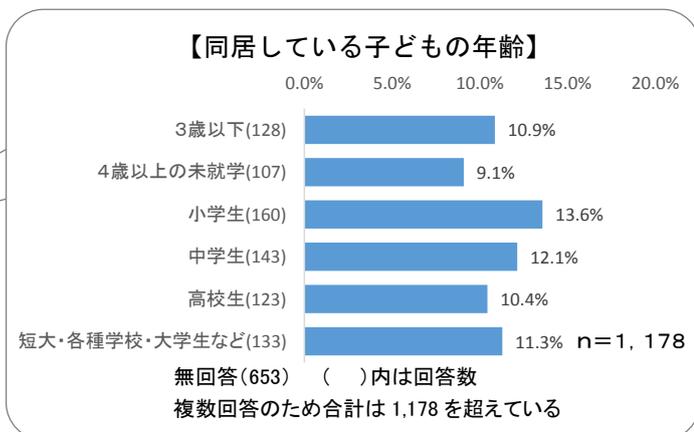
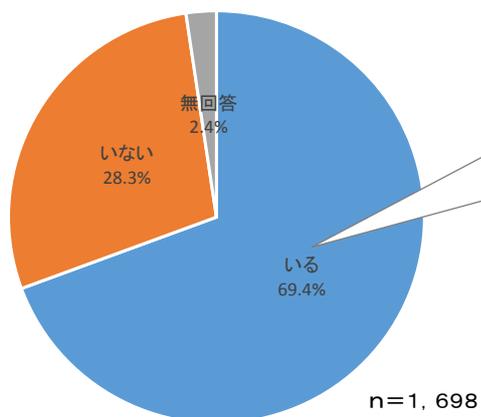


【婚姻状況】

婚姻状況は、「既婚」が68.4%で最も多く、次いで、「未婚」19.0%、「離別・死別」10.5%の順となっている。

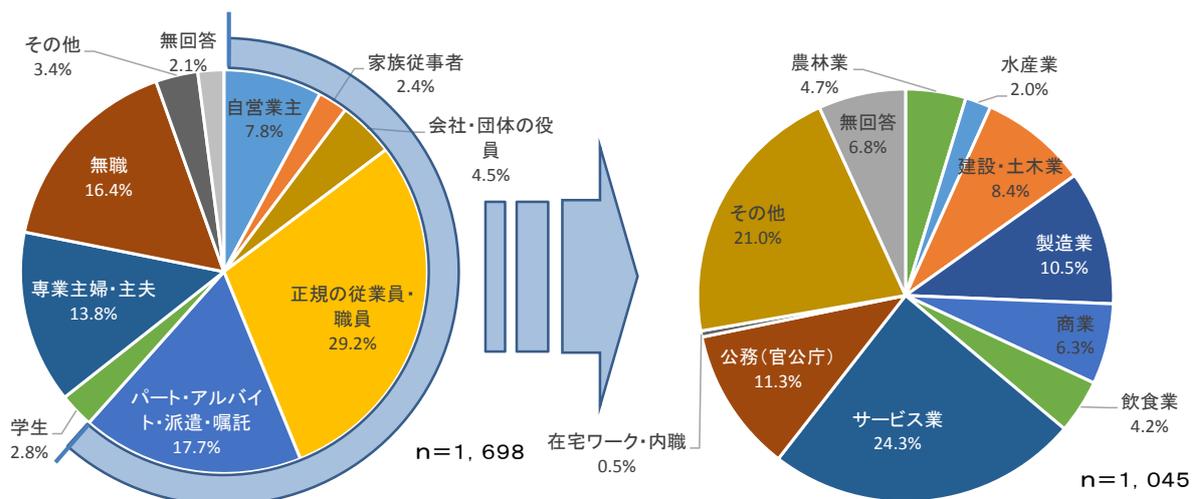


【子どもの有無・同居している子どもの年齢】



子どもの有無の割合は、「いる」69.4%、「いない」28.3%となっており、「いる」と回答した1,178人のうち、同居している子どもの割合が最も高かったのは「小学生」の13.6%、次いで、「中学生」12.1%、「短大・各種学校・大学生など」11.3%、「3歳以下」10.9%、「高校生」10.4%、「4歳以上の未就学」9.1%の順となっている。

【職業・職種】



職業は、「正規の従業員・職員」が29.2%で最も多く、次いで、「パート・アルバイト・派遣・嘱託」17.7%、「無職」16.4%、「専業主婦・主夫」13.8%の順で続いている。

また、有職者の業種は「サービス業」が24.3%で最も多く、次いで、「その他」21.0%、「公務(官公庁)」11.3%、「製造業」10.5%、「建設・土木業」8.4%の順で続いている。

Ⅱ 調査結果要旨

【日常生活の満足度・県政全般の重要度・総合的満足度について】

日常生活の満足度

日常生活の総合的な満足度は、満足度が不満度を大きく上回っており、満足度指数はプラス評価で、前回調査に比べやや高くなっている。

分野別では「住んでいる家（住宅）」や「自分および家族の健康」は満足度が高く、「老後・将来の生活設計」、「収入」は不満度が高くなっている。

県政全般の重要度・総合的満足度

県民の考える政策の重要度の上位項目は、前回調査と比べ項目の変化はないものの順位の変動があった。前回1位であった「雇用対策」が5位に順位を下げ、「福祉の充実」が1位となっている。また、政策の総合的な満足度は、満足度・不満度とも減少し、どちらともいえないが大きく増加をしている。

【分野別の取組について】

結婚支援



県の結婚支援の取組として必要なものは「独身男女の出会いの場（イベント）の増加」が最も多くなっている。

特に、結婚適齢期といわれる20歳代～30歳代は約7割が出会いの場を求めており他の年代層よりもニーズが高くなっている。地域別にみると、離島地域・島原半島地域が7割を超えている。

障害者施策（障害者差別禁止条例）

「障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例」の認知度は約5割となっている。傾向としては、年齢の上昇に伴って認知度が高くなっている。

また、「合理的配慮」についての認知度は約4割と条例の認知度より低い。

だれもが活躍できる社会づくり



高齢期を迎えたときに行いたいことは、「趣味」と「可能な限り働きたい」が多くなっている。特に「可能な限り働きたい」は30～60歳代で全体を上回っている。



「男女共同参画社会」実現のための取組は、「ワーク・ライフ・バランスの推進」や「分かりやすい広報や啓発活動」が多くなっている。特に「分かりやすい広報や啓発活動」は年齢の上昇とともに増加傾向にあり、60歳代以上では約40%と最も多くなっている。



NPO・ボランティア活動が一層活発になるための取組は、「情報提供の充実」や「担い手となる人材の育成」が多くなっている。特に、離島地域では「担い手となる人材の育成」が最も多くなっている。

地域の活力を向上させるために参加したい活動は、「お祭りなどの地域行事や歴史・文化の保存継承に関わる活動」や「福祉活動」が多くなっている。特に「福祉活動」は年齢の上昇とともに増加傾向にある。

科学技術の活用

科学技術が活用されると良いと思う分野は「医療・健康分野」と「生活・介護分野」が多くなっている。特に「医療・健康分野」はいずれの年代も6割前後と多くっており、「生活・介護分野」の項目は年齢の上昇とともに増加傾向にある。

雇用対策・人材育成



雇用対策として必要がある取組は「県内企業の職場環境の改善」や「県内企業の雇用を維持（拡大）するための企業への助成」が多くなっている。

また、産業を支える人材育成に必要な支援は、「学生の就業意識の向上」が最も多くなっている。

離島との交流

過去1年間に県内で宿泊をとまなう旅行経験者は約3割で、この内、離島地域への訪問者は約1割となっている。また、離島への観光について県民の約7割は訪問を希望しており、訪問を選ぶ際には自然景観や食が大きく影響している。

海外の活力の取り込み



海外の活力を取り込むための取組は「長崎空港から直接行ける国の増加」が最も多くなっており、特に若い世代になるほど高くなっている。また、「海外における長崎県のPR」や「外国からの観光客誘致」、「海外への県産品の輸出」も高い割合となっており、観光や物産分野も重視されている。

公共施設の整備・維持管理

公共施設の整備・維持管理に必要な取り組みとして「道路の整備」が最も多くなっており、「自然災害防止」と「住環境の整備」が続いている。

地域別でみると、離島では「住環境の整備」が最も高いなど地域により異なるニーズが見られる。

県職員



県職員が持つべき意識や能力は、「柔軟性・民間的な意識」、「県民へのサービス意識」、「問題認識能力・問題解決能力」が多くなっている。

年齢別でみると、40歳代以下の若い世代は「コミュニケーション力・交渉力」に対するニーズが高いなど、年代により異なる傾向がみられる。

Ⅲ 調査結果

1. 日常生活の満足度

県民の日常生活や意識の変化を定期的に把握し、今後の県政運営のための基礎資料とするため、日常生活の満足度と現在の日常生活の総合的な満足度についてお尋ねしました。

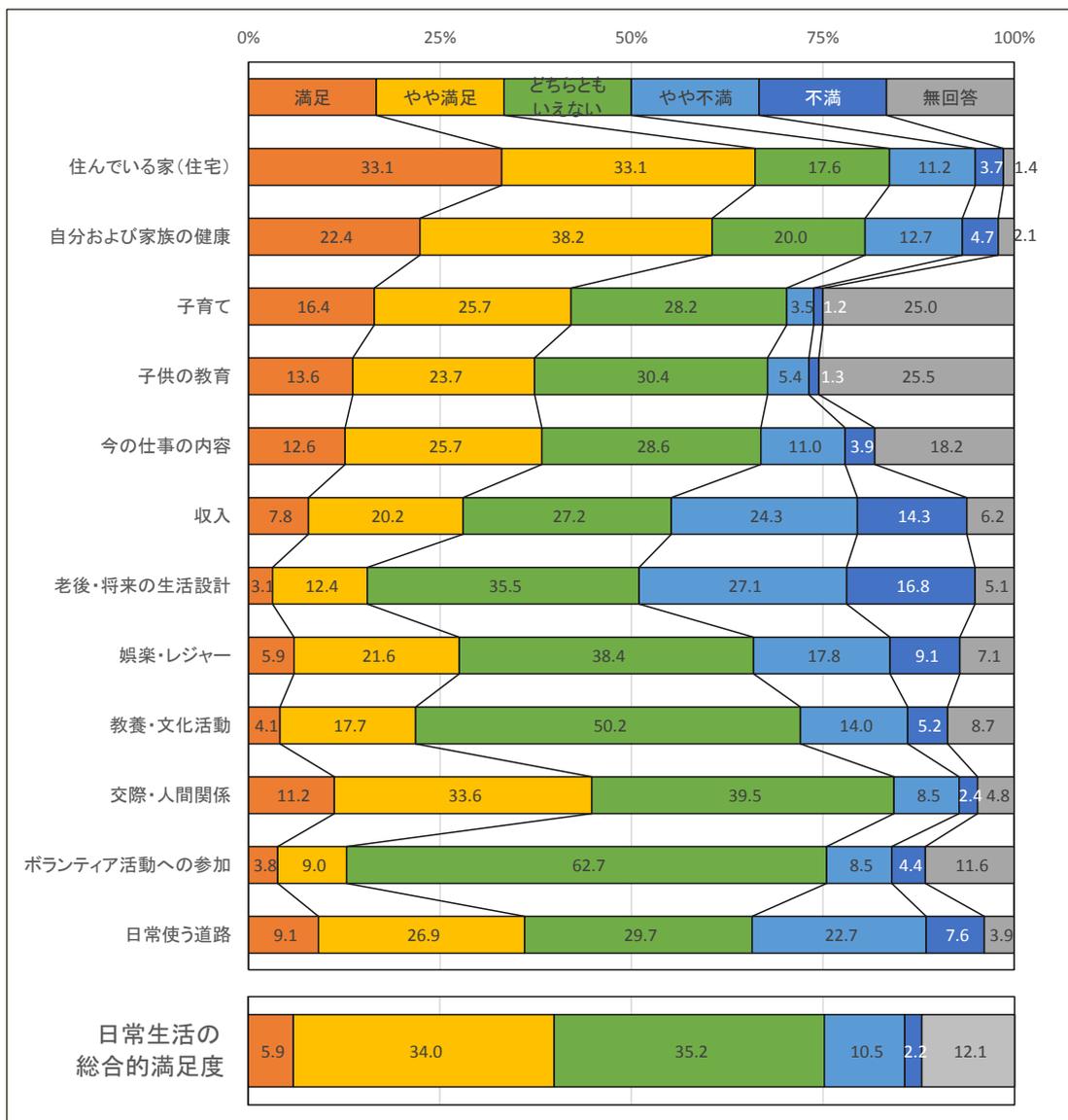
今回の調査で、日常生活の総合的な満足度は、満足度が不満度を大きく上回っており、満足度指数はプラス評価で、前回調査に比べやや高くなっています。

分野別では「住んでいる家(住宅)」や「自分および家族の健康」は満足度が高く、「老後・将来の生活設計」、「収入」は不満度が高くなっています。

〔問1・2〕

日常生活についての満足度についてお聞きします。(それぞれ該当するものに○を1つ)

〔全体：単純集計〕 n=1,698



【日常生活の総合的な満足度】

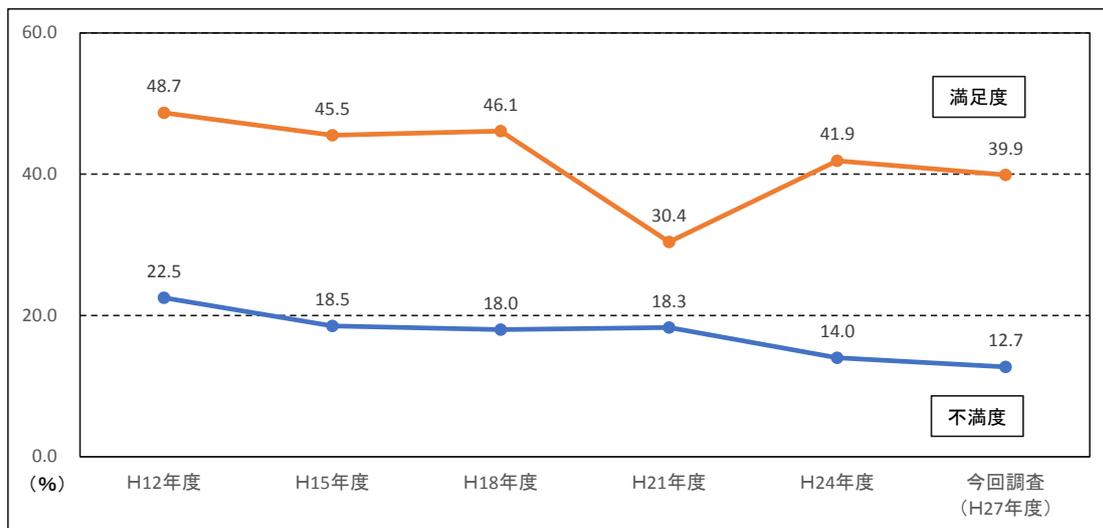
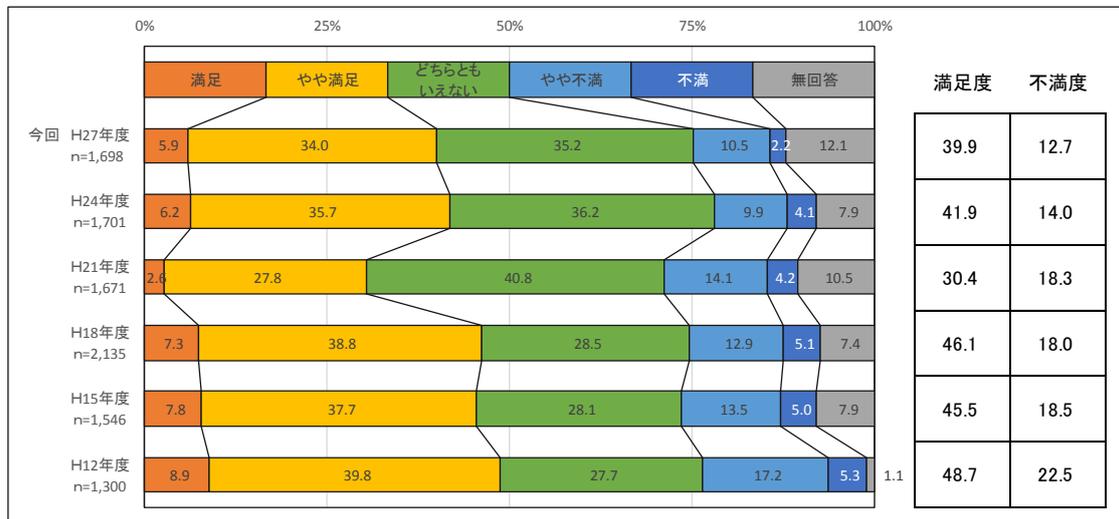
日常生活の総合的な満足度は、「満足」「やや満足」の合計（満足度）が39.9%、「やや不満」「不満」の合計（不満度）が12.7%と満足度が不満度を大きく上回っている。

〔経年比較〕

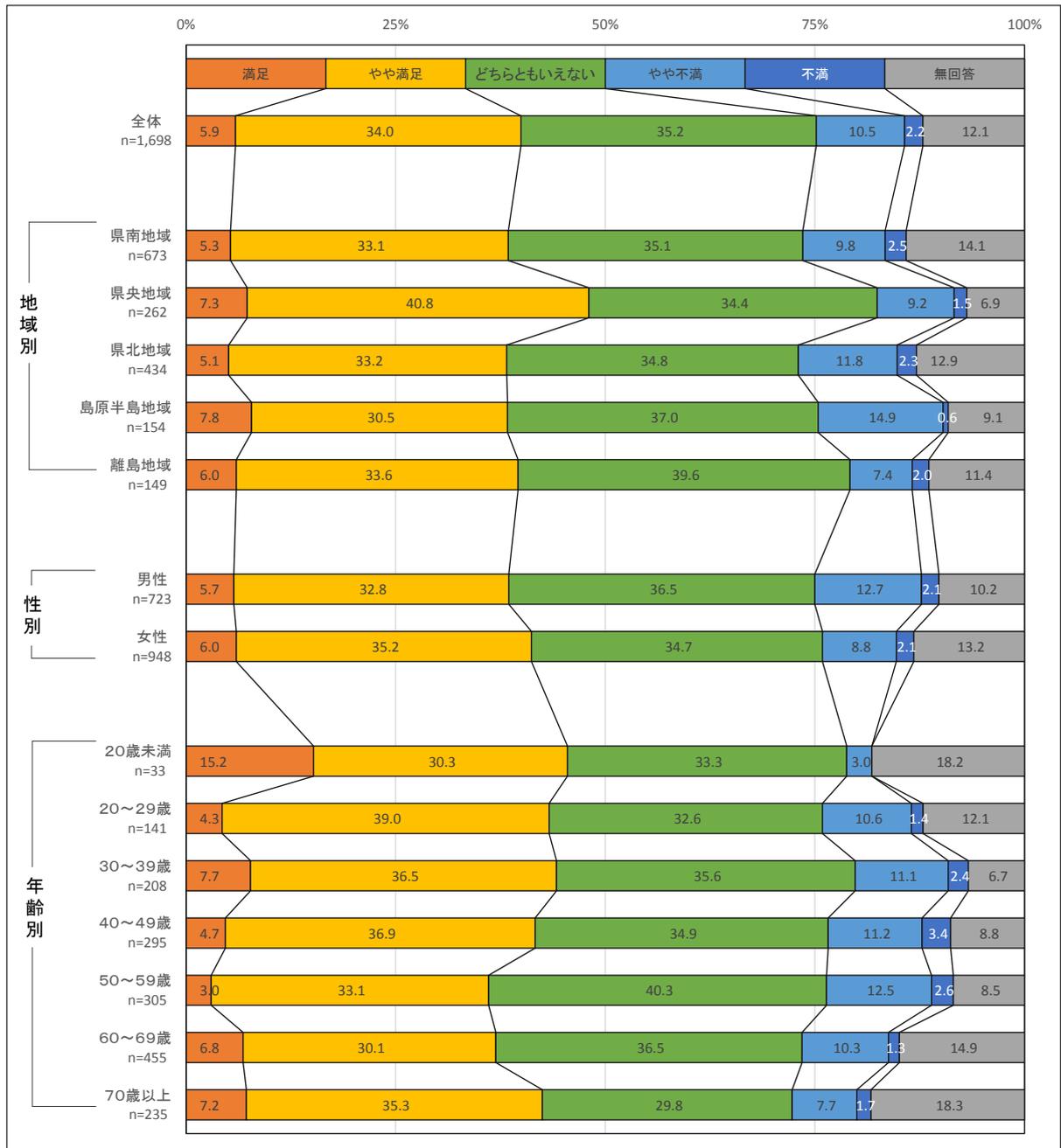
前回調査と比較すると満足度は2.0ポイント減少し、不満度も1.3ポイント減少している。また、「どちらともいえない」も1.0ポイント減少したが、「無回答」は4.2ポイント増加している。

平成12年度からの経年変化をみると、満足度は48.7%から39.9%に減少し、不満度は22.5%から12.7%へ減少しているものの、「どちらともいえない」は27.7%から35.2%と増加し、「無回答」は1.1%から12.1%に増加している。

〔日常生活満足度の経年比較〕

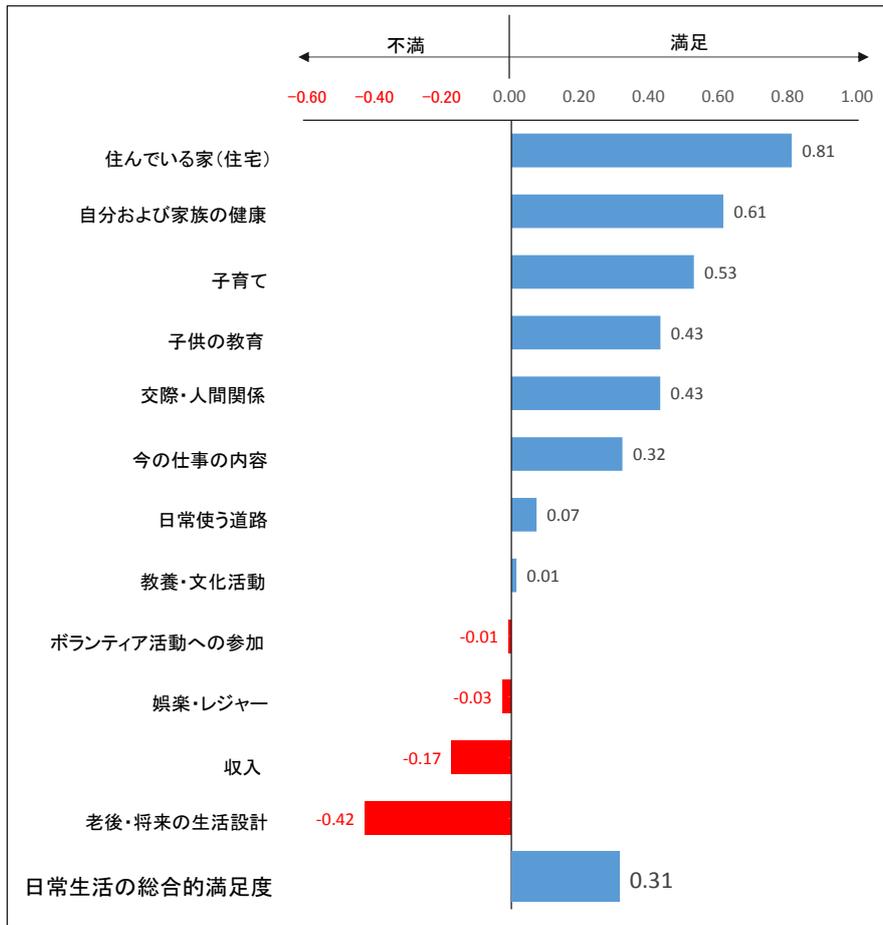


[地域別・性別・年齢別日常生活満足度比較]



[全体：指数化]

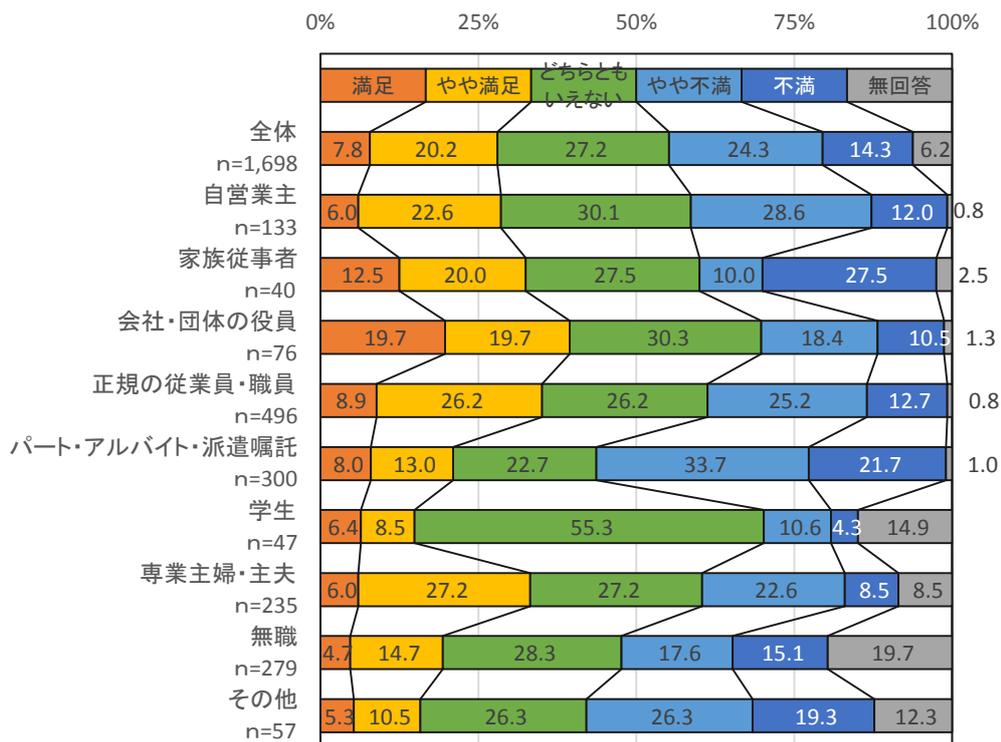
満足 = 2、 やや満足 = 1、 やや不満 = -1、 不満 = -2



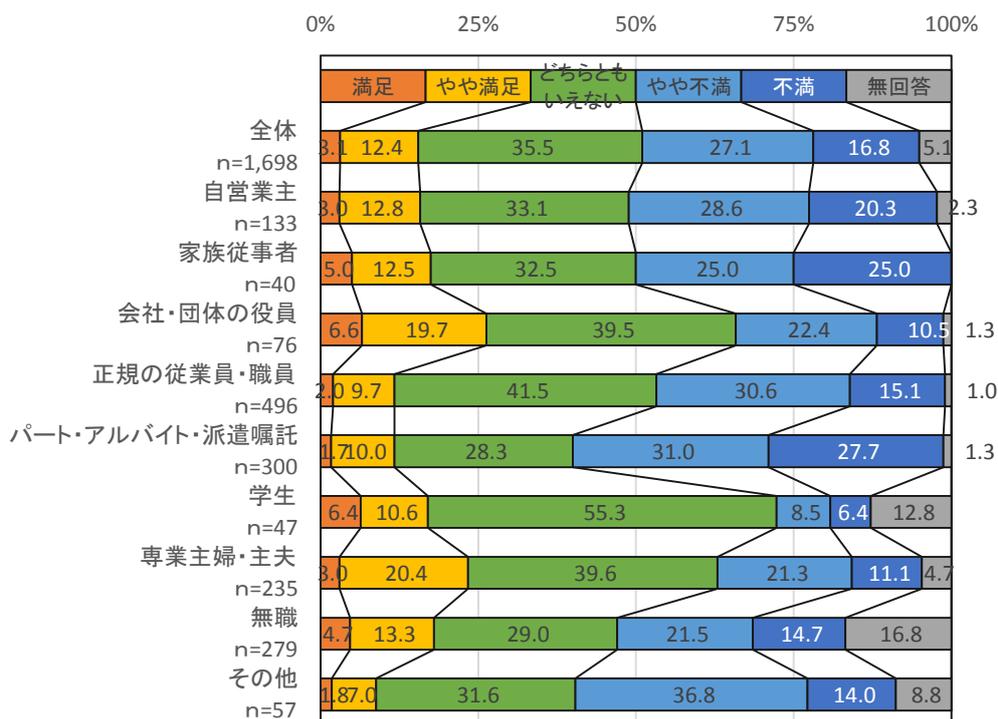
満足度指数 = 「満足」×2 + 「やや満足」×1 + 「やや不満」×(-1) + 「不満」×(-2) / 回答数

職業別の項目別満足度

[収入]



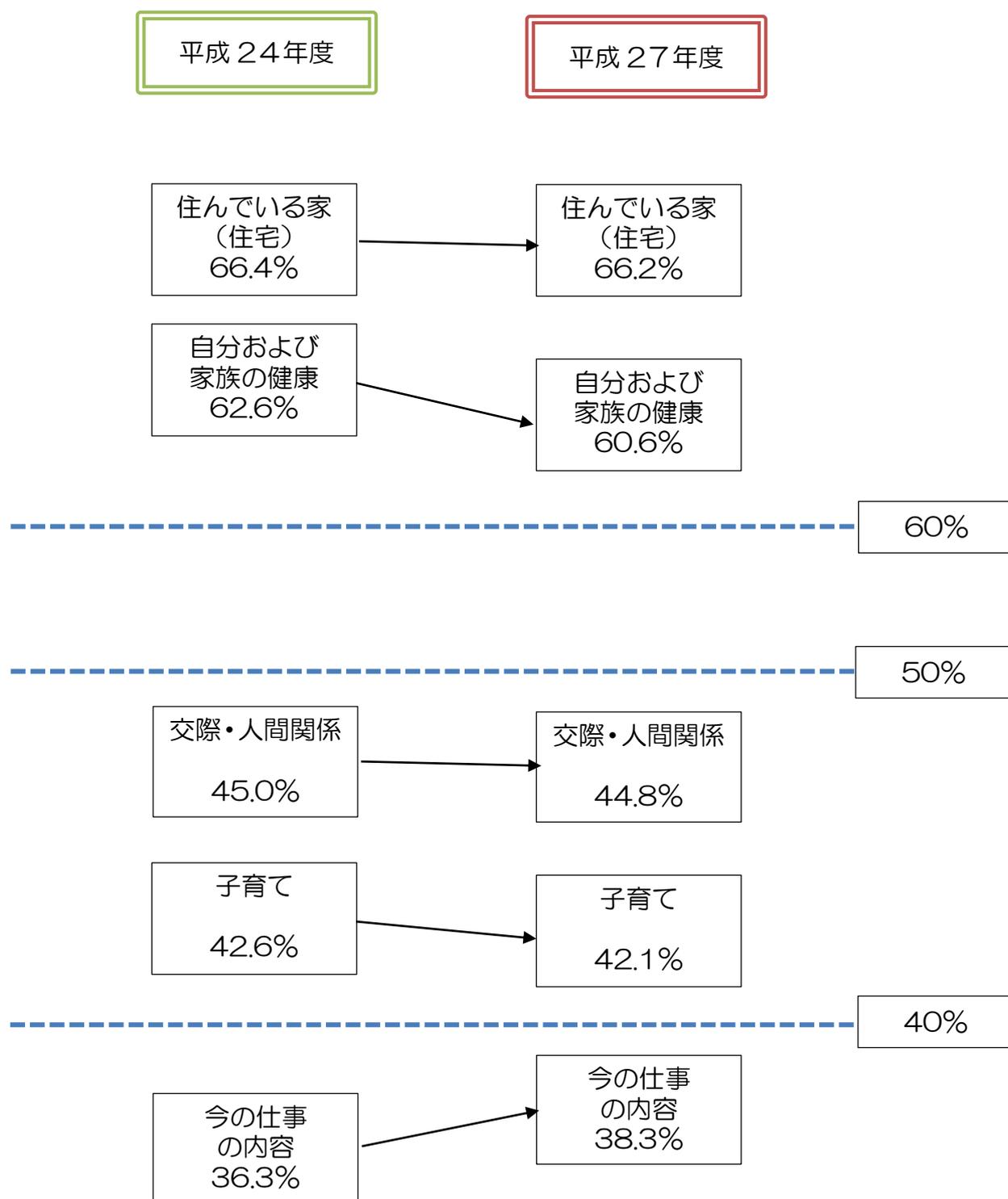
〔老後・将来の生活設計〕



日常生活の総合的な満足度指数は、0.31 とプラス評価となっており、分野別では「住んでいる家（住宅）」や「自分および家族の健康」、「子育て」が満足度指数の高い傾向が見られる。

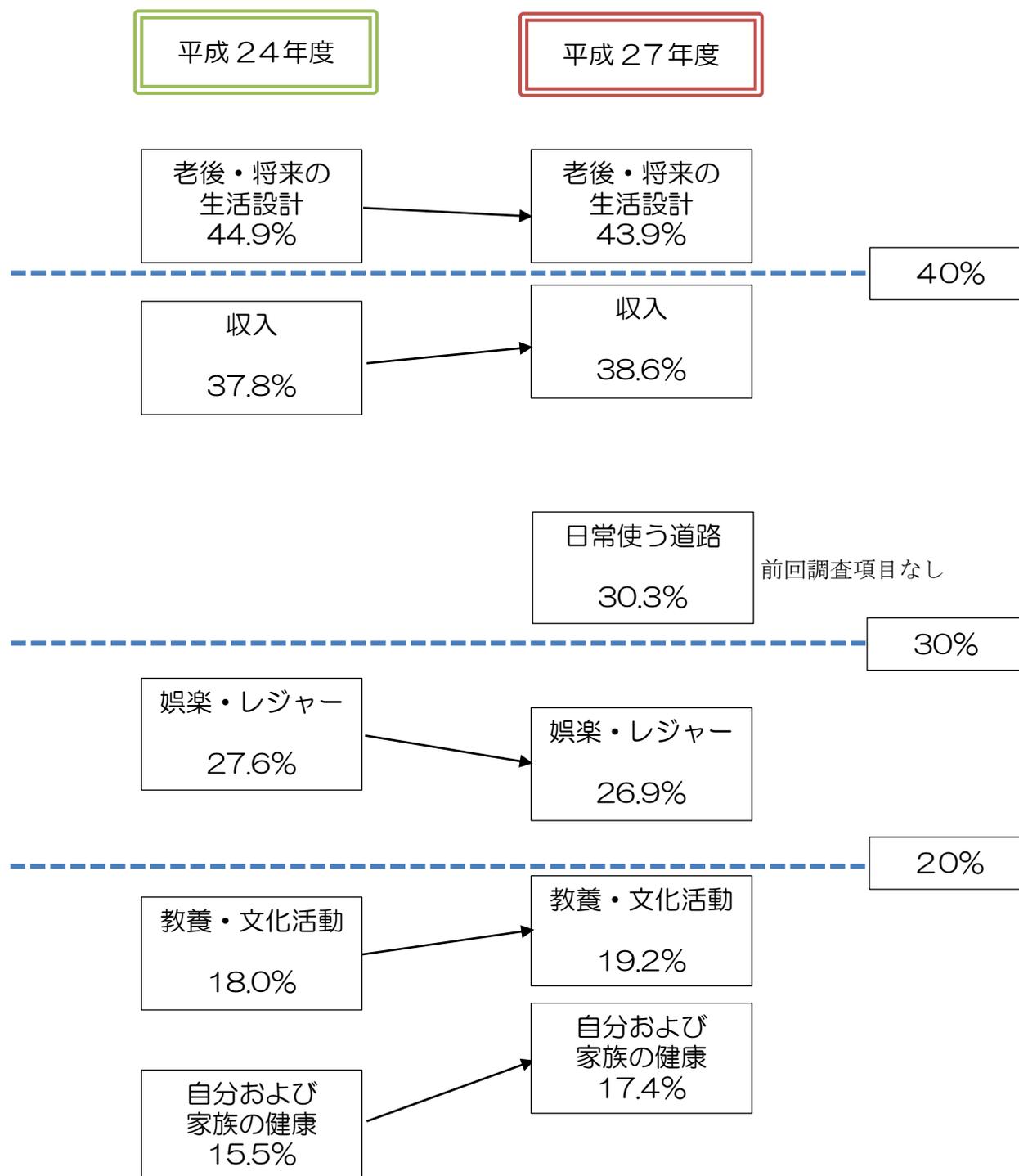
一方、「老後・将来の生活設計」、「収入」などで満足度指数が低く、日常生活の総合的満足度を押し下げる要因となっている。また、満足度指数の低い「収入」、「老後・将来の生活設計」を職業別に見ると、「パート・アルバイト・派遣嘱託」の不満足が高くなっている。

「日常生活の満足度」上位 5 項目の前回調査との比較



日常生活の満足度上位 5 項目の経年変化では、順位の変動はないものの、上位 4 項目では、満足度はやや減少しているが、「今の仕事の内容」で 2.0 ポイントの増加となっている。

「日常生活の不満度」上位 5 項目の前回調査との比較



日常生活の不満度上位 5 項目の経年変化では、順位の変動はなく、不満度はやや減少しており、不満度が増加したのは 3 項目で、「自分および家族の健康」が 1.9 ポイント、「教養・文化活動」が 1.2 ポイント、「収入」が 0.8 ポイントの増加となっている。

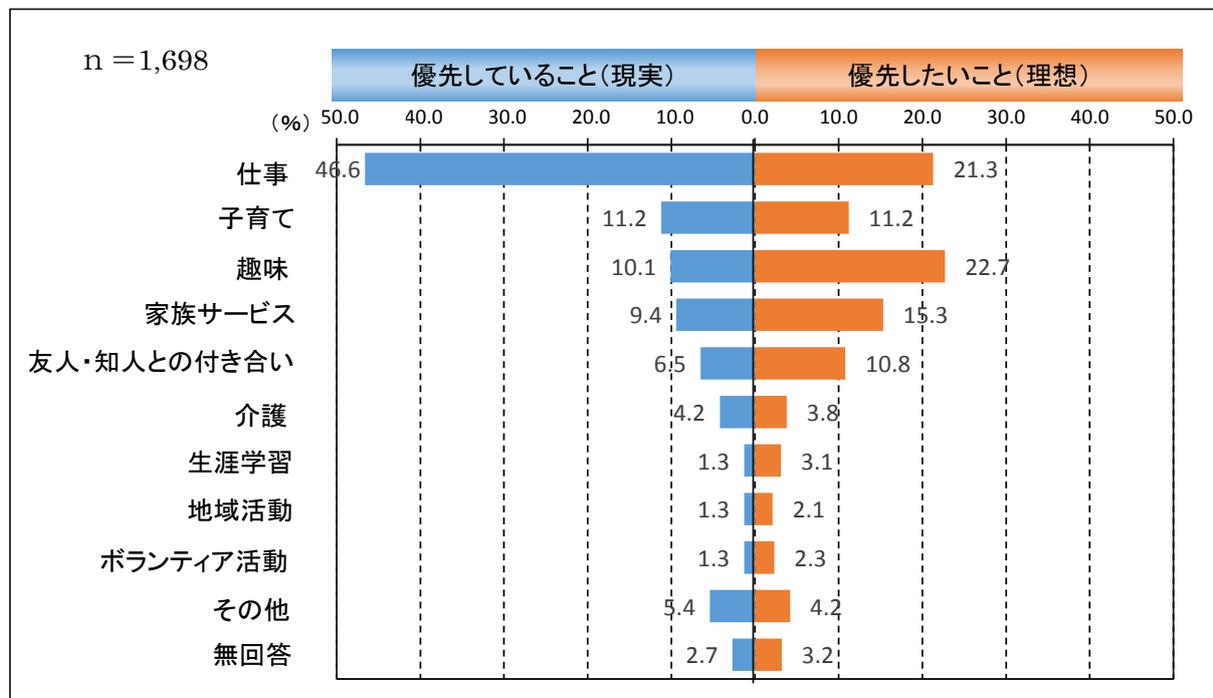
また、今回調査項目で追加された「日常使う道路」は 30.3% で不満度の第 3 位となっている。

〔日常生活の優先順位〕

〔問3〕 あなたの日常生活についてお聞きします。

3-1 現在1番優先していることは何ですか。(〇は1つ)

3-2 今後の希望として、1番優先したいことは何ですか。(〇は1つ)



〔全体〕

日常生活で優先していること(現実)は、「仕事」が46.6%で最も多く、次いで、「子育て」11.2%、「趣味」10.1%の順で続いている。

一方、優先したいこと(理想)は「趣味」が22.7%で最も多く、次いで、「仕事」21.3%、「家族サービス」15.3%の順で続いている。

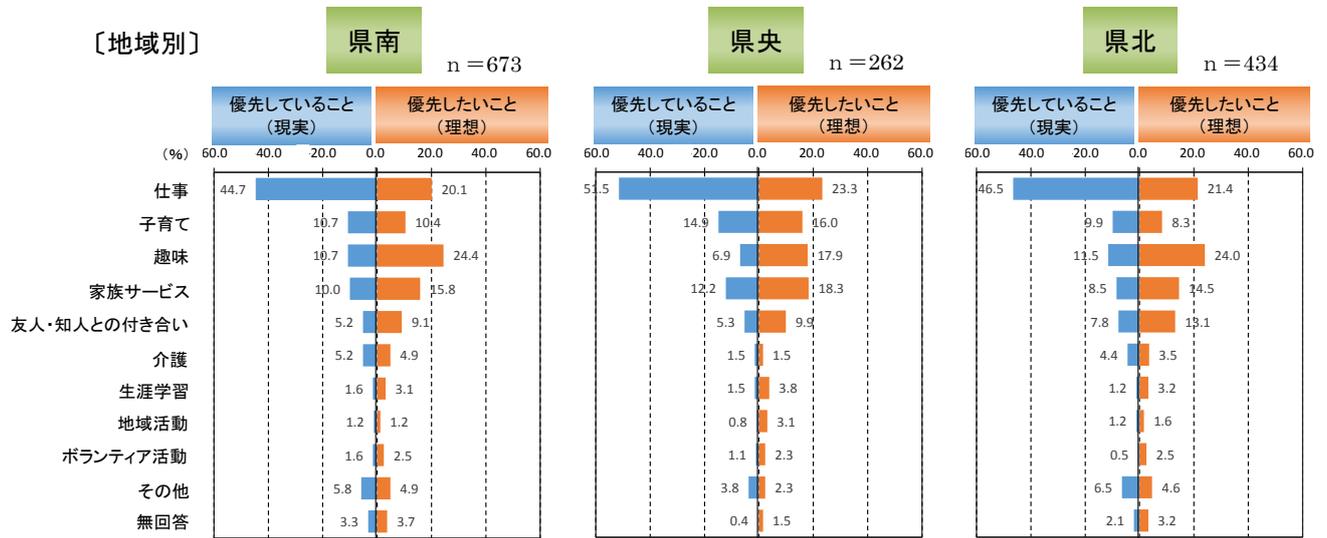
また、優先したいことの理想と現実(理想-現実)の乖離が最も大きいのは「仕事」の▲25.3%で、次いで、「趣味」12.6%、「家族サービス」5.9%の順となっており、「仕事」・「その他」・「介護」は時間を減らし、「趣味」・「家族サービス」・「友人・知人との付き合い」・「生涯学習」・「ボランティア活動」・「地域活動」を優先したいという傾向が見られる。

〔地域別〕

日常生活で優先していること(現実)では、全地域で仕事が第1位となっている。地域別での相違を上位三項目でみると、県央で、「趣味」に代わり、「家族サービス」、島原半島地域で「趣味」に代わり、「友人・知人との付き合い」が入っている。

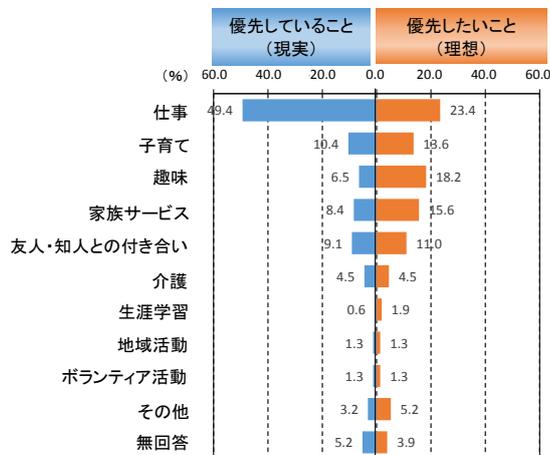
一方、日常生活で優先したいこと(理想)の1位は県南・県北・離島は「趣味」、県央・島原半島は「仕事」となっており、優先したいことの理想と現実(理想-現実)の乖離が最も大きいのは全地域「仕事」となっている。

〔地域別〕



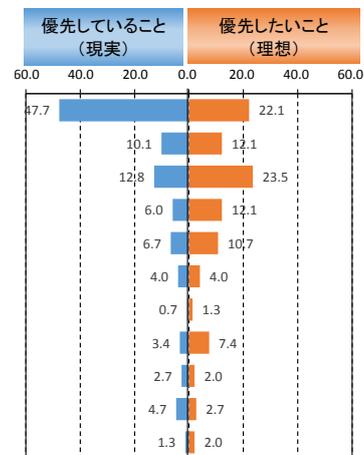
島原半島

n = 154



離島

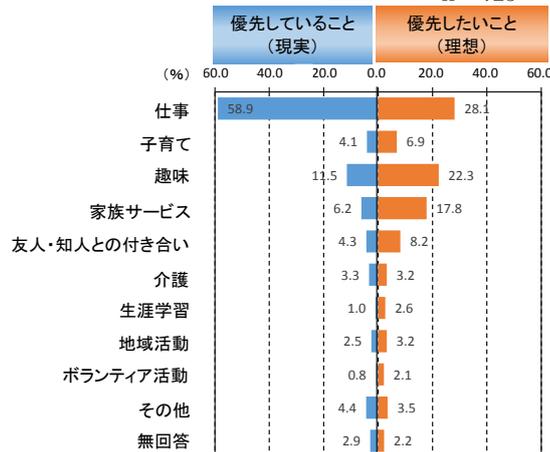
n = 149



〔性別〕

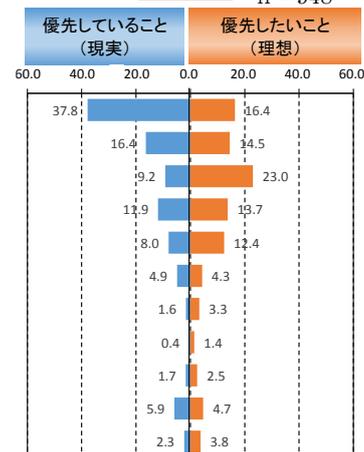
男性

n = 723



女性

n = 948



日常生活で優先していることを性別でみると、男性は「仕事」が 58.9%で最も多く、次いで、「趣味」11.5%、「家族サービス」6.2%の順で続いており、女性は「仕事」37.8%が最も多く、次いで、「子育て」16.4%、「家族サービス」11.9%の順となっている。

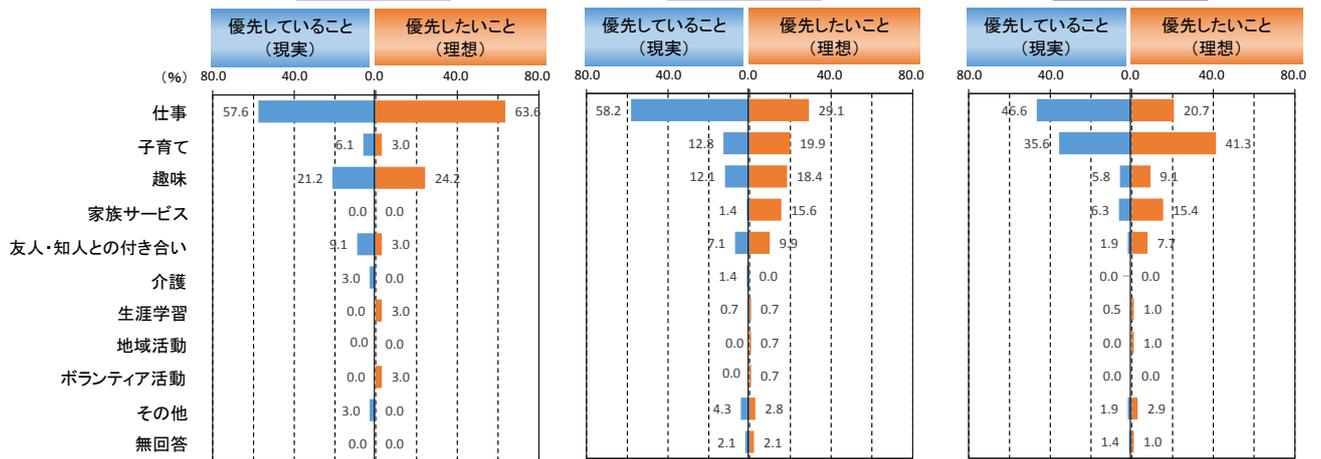
また、優先したいことで、「男性」は「仕事」が 28.1%、「趣味」22.3%、「家族サービス」17.8%の順で続き、「女性」は「趣味」23.0%、「仕事」16.4%、「子育て」14.5%の順で続いており、理想と現実の乖離が最も大きいのは男性が「仕事」の▲30.8%、女性も「仕事」で▲21.4%となっており、「男女共同参画社会」実現のために必要な取組（問 10）として、男性、女性ともに「ワーク・ライフ・バランスの推進」が多いことにも現れている。

〔年齢別〕

20歳未満 n=33

20～29歳 n=141

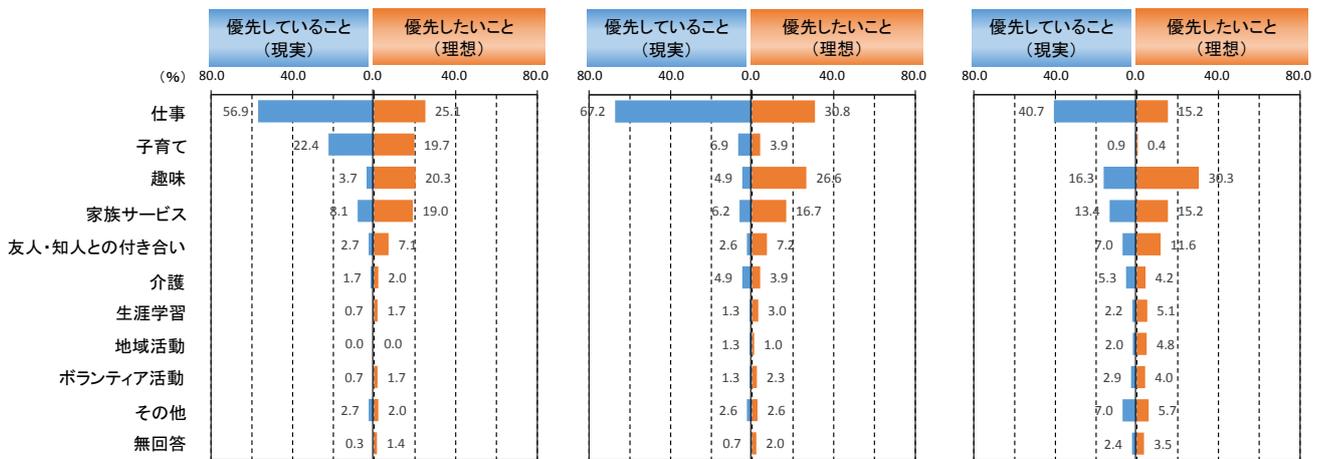
30～39歳 n=208



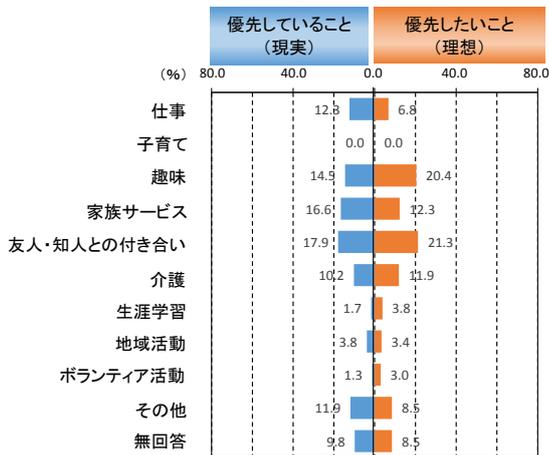
40～49歳 n=295

50～59歳 n=305

60～69歳 n=455



70歳以上 n=235



〔年齢別〕

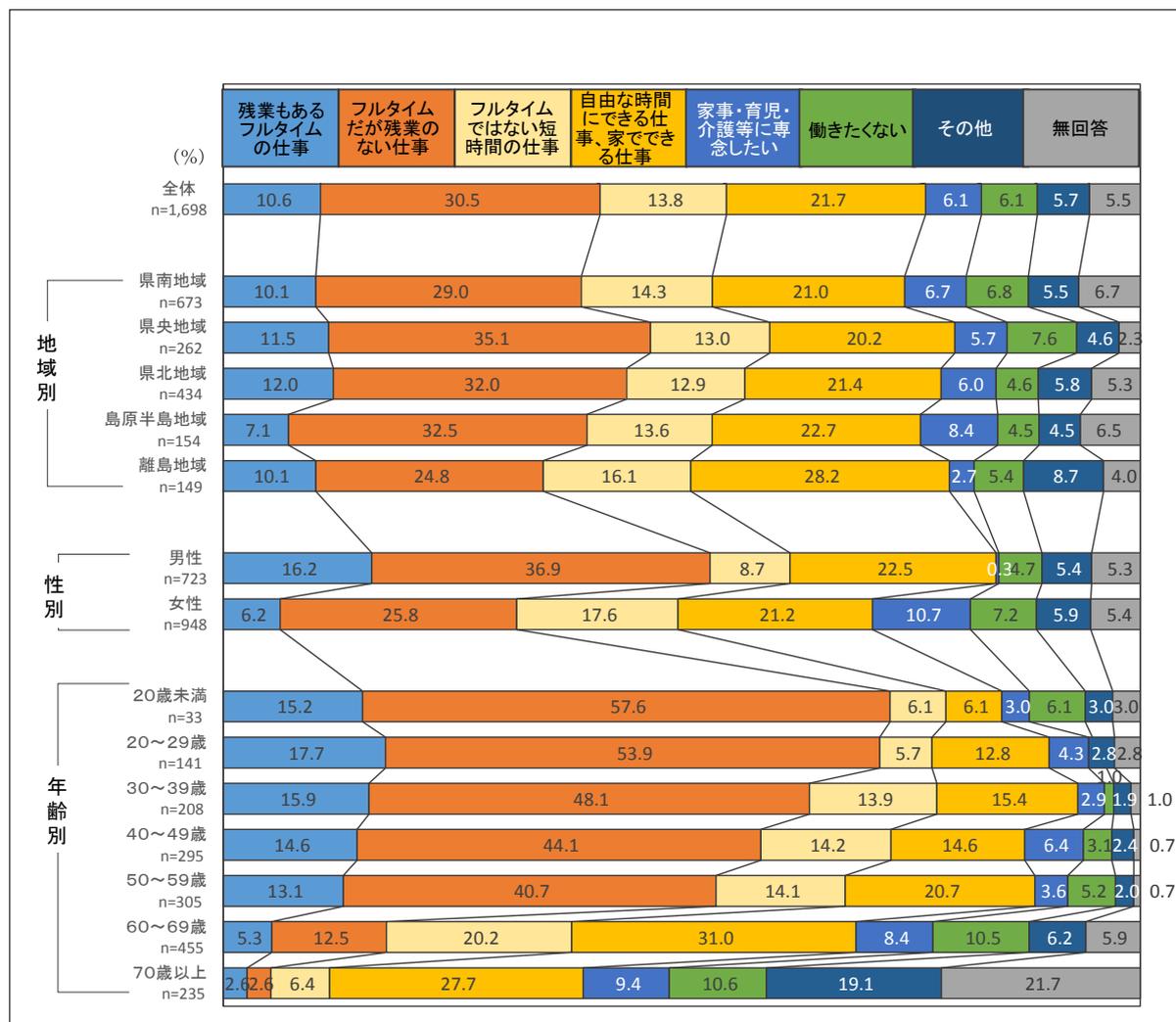
日常生活で優先していることでは、「子育て」・「仕事」の対象層を除けば、全体の傾向と相違は見られない。

一方、日常生活で優先したいことで、全体との傾向の大きな相違は見られないが、「30～39歳」は「子育て」が41.3%で1位となっている。

また、ほとんどの世代で「仕事」において「理想」を「現実」が大きく上回り、仕事を減らして他の活動を優先したいと考えているが、「70歳以上」では現実と理想の大きな乖離は見られないが、相対的に「趣味」や「友人とのつきあい」を優先したい傾向が見られる。

〔問3〕 あなたの日常生活についてお聞きします。

3-3 あなたが希望する働き方はどのような形態ですか。(〇は1つ)



〔全体〕

理想とする働き方は、「フルタイムだが残業のない仕事」が30.5%で最も多く、次いで、「自由な時間に行える仕事、家でできる仕事」21.7%、「フルタイムではない短時間の仕事」13.8%の順で続いている。

〔地域別〕

ほとんどの地域で「フルタイムだが残業のない仕事」の希望が最も多く、「県央地域」35.1%で最も多くなっている。また、「離島地域」では、「自由な時間に行える仕事、家でできる仕事」への希望が28.2%で最も多くなっている。

〔性別〕

女性は「残業もあるフルタイムの仕事」が男性よりも10ポイント低く、「家事・育児・介護等に専念したい」・「フルタイムではない短時間の仕事」が男性よりも約10ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

50歳代以下の年代では、フルタイムでの仕事（残業有+残業無）を希望する割合が最も高くなっているが、年齢の上昇に伴い「残業もあるフルタイムの仕事」・「フルタイムだが残業のない仕事」の割合が低くなり、60歳代では「フルタイムではない短時間の仕事」・「自由な時間に行える仕事、家でできる仕事」の割合が高くなっている。

2. 県政全般の重要度・総合的満足度

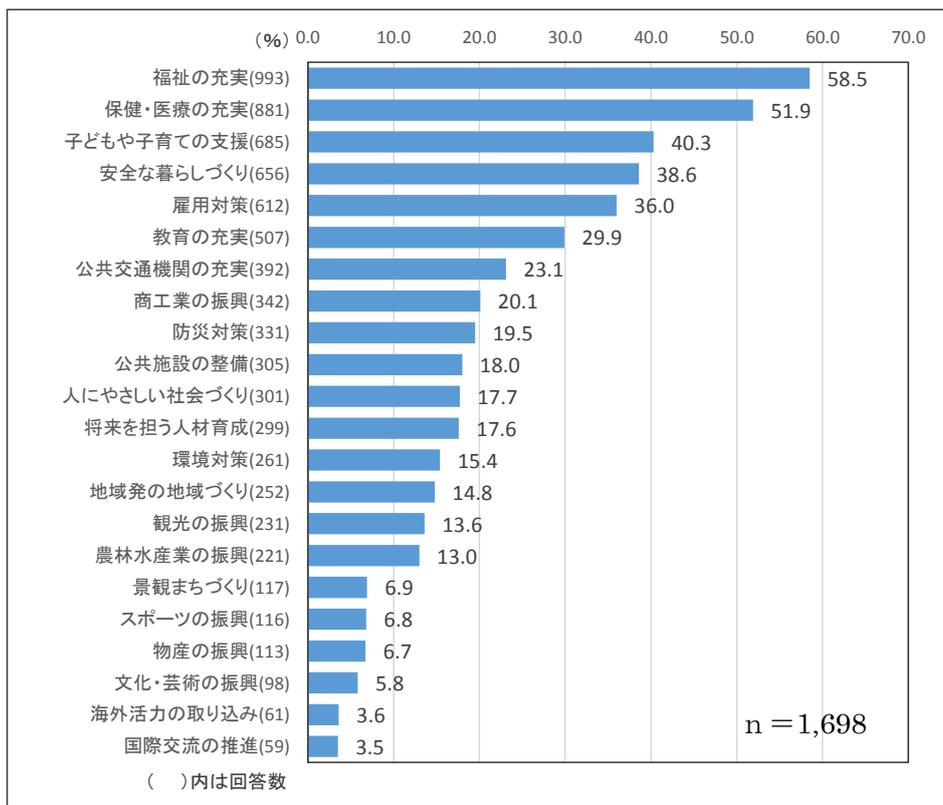
県の政策に対する県民の意向による施策の重要度を定期的に把握し、今後の県政運営のための基礎資料とするため、県の政策における重要度と総合的な満足度についてお尋ねしました。

今回の調査では、県民の考える政策の重要度の上位項目は、前回調査と比べ項目の変化はないものの順位の変動がありました。前回1位であった「雇用対策」が5位に順位を下げ、「福祉の充実」が1位となりました。また、政策の総合的な満足度は、満足度・不満度とも減少し、どちらともいえないが大きく増加をしています。

【県政全般の重要度】

〔問4〕 あなたは、今後、県がどのような分野に力を入れて行くべきだと思いますか。
(以下の1～22の中から5つまで選んで数字に○印をつけてください)

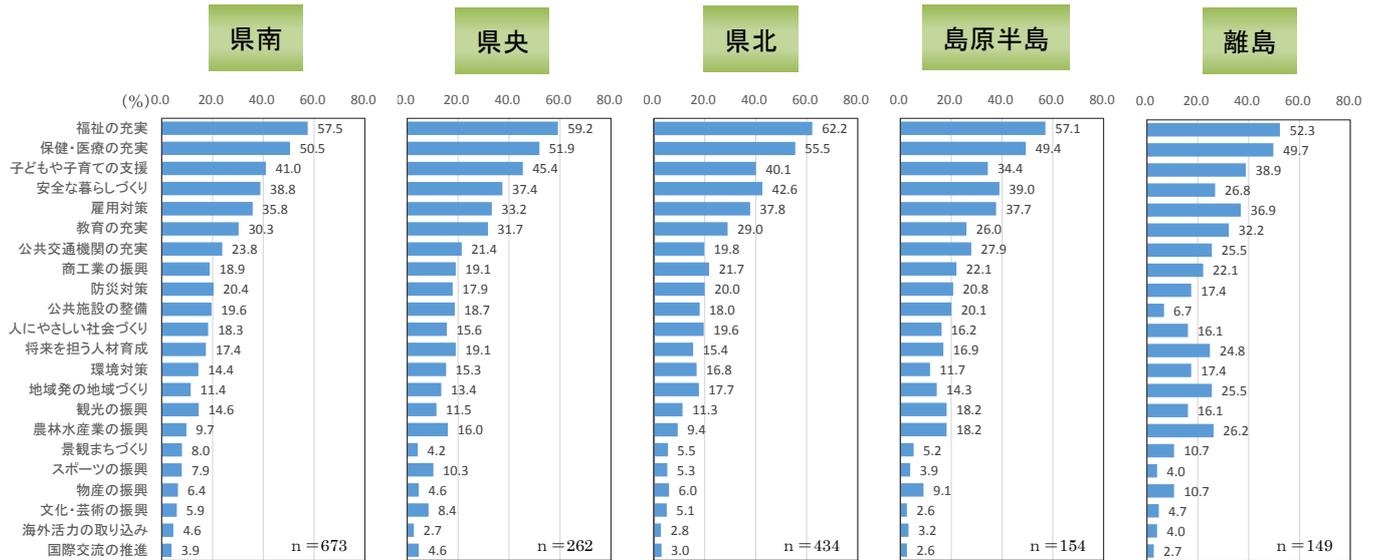
〔重要度の高い順〕



〔全体〕

今後、県が力を入れて行く分野としては「福祉の充実」が58.5%で最も多く、次いで、「保健・医療の充実」51.9%と50%以上で続き、以下、「子どもや子育ての支援」40.3%、「安全な暮らしづくり」38.6%、「雇用対策」36.0%の順となっている。

〔地域別〕



〔性別〕



〔地域別〕

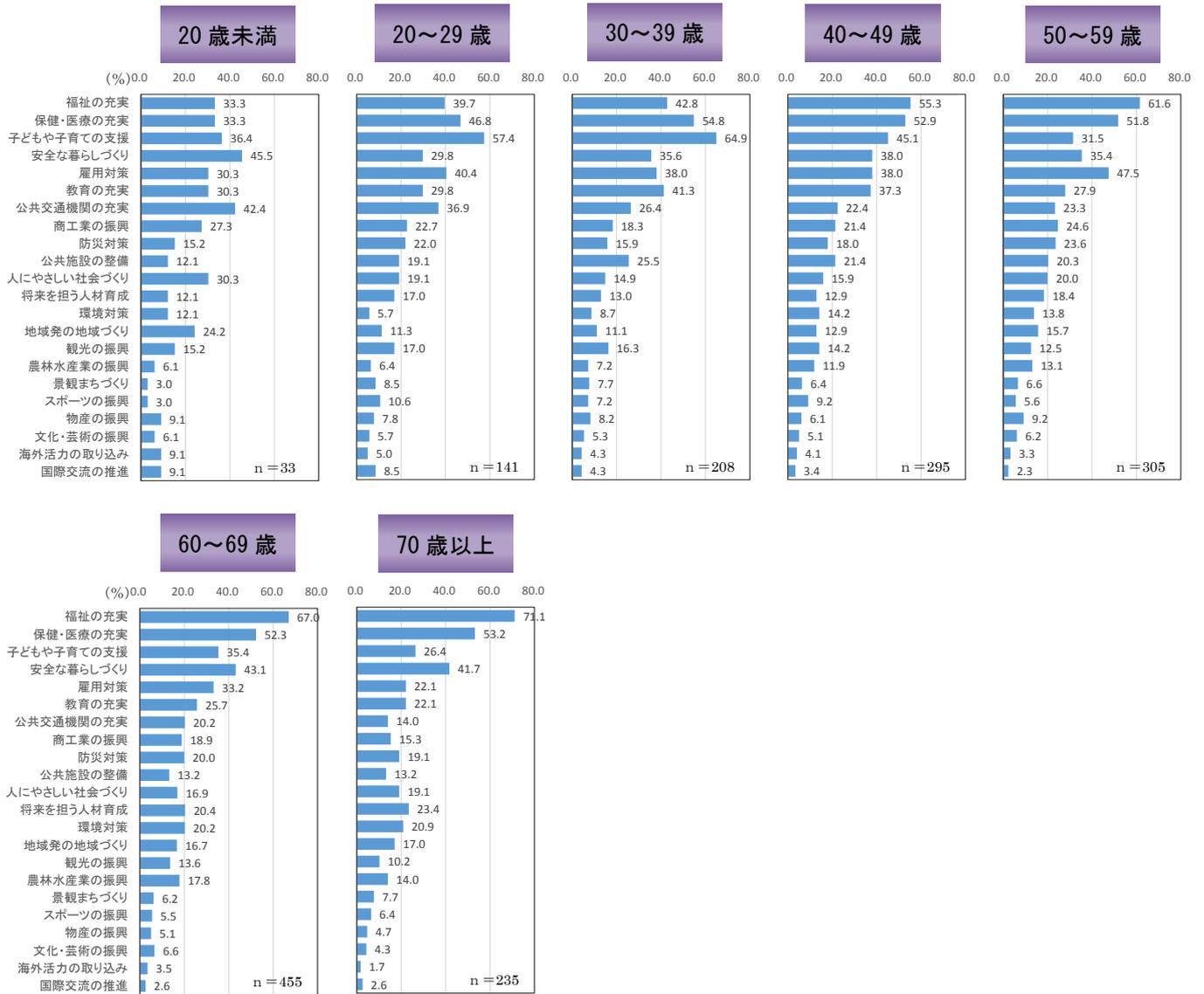
上位5項目の大きな相違は見られないが、県北地域は「子どもや子育ての支援」と「安全な暮らしづくり」、島原半島地域で「安全な暮らしづくり」と「雇用対策」の順位が入替わっており、離島地域で「安全な暮らしづくり」に変わり「教育の充実」が5位に入っている。

また、離島地域は、「将来を担う人材育成」や「地域発の地域づくり」、「農林水産業の振興」が他地域よりも高くなっている。

〔性別〕

上位5項目の相違は、男性で「安全な暮らしづくり」と「雇用対策」の順位が入替わっている。

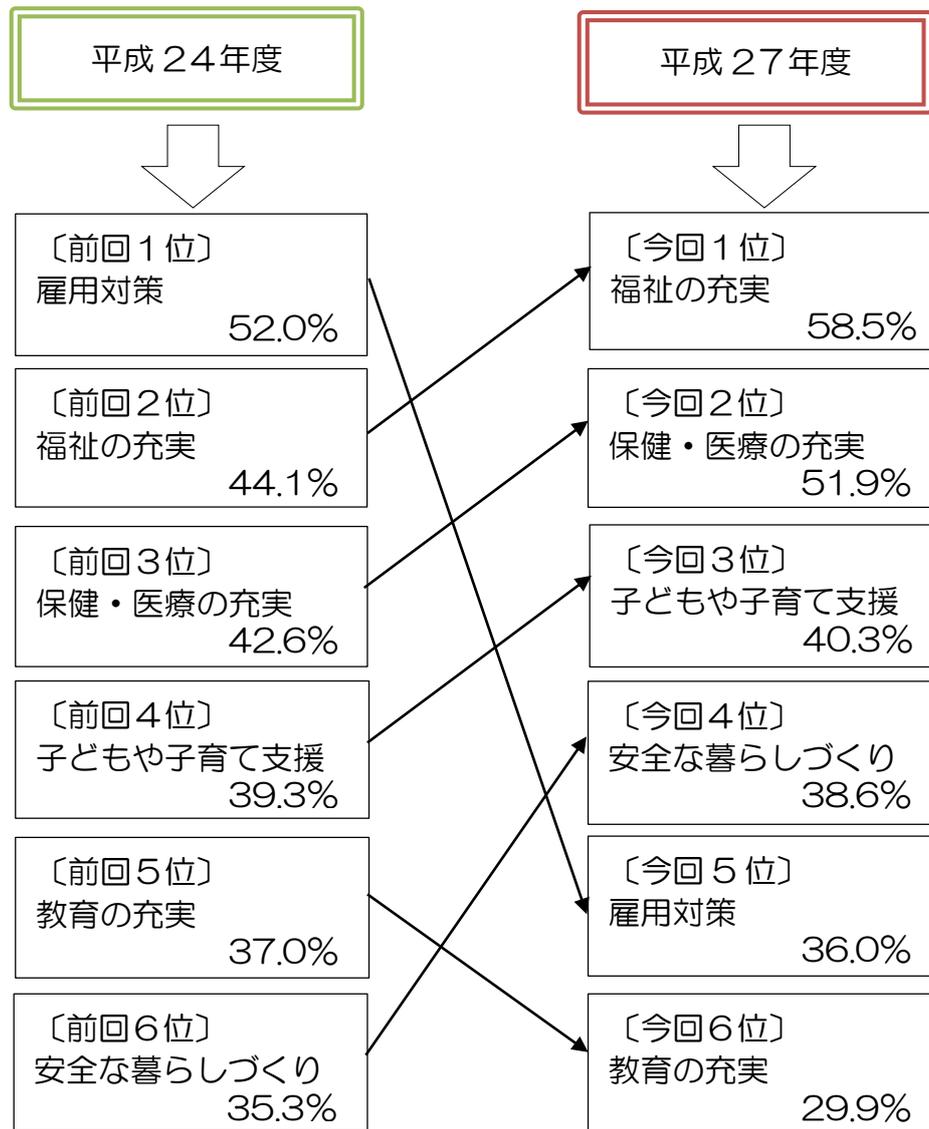
〔年齢別〕



〔年齢別〕

年齢の上昇に伴い「福祉の充実」の割合が高くなり、20~30歳代では「子どもや子育ての支援」が最も高くなっている。また、30歳代以上では「保健・医療の充実」が50%以上となっている。

「今後力を入れて行くべき分野」上位項目の前回調査との比較

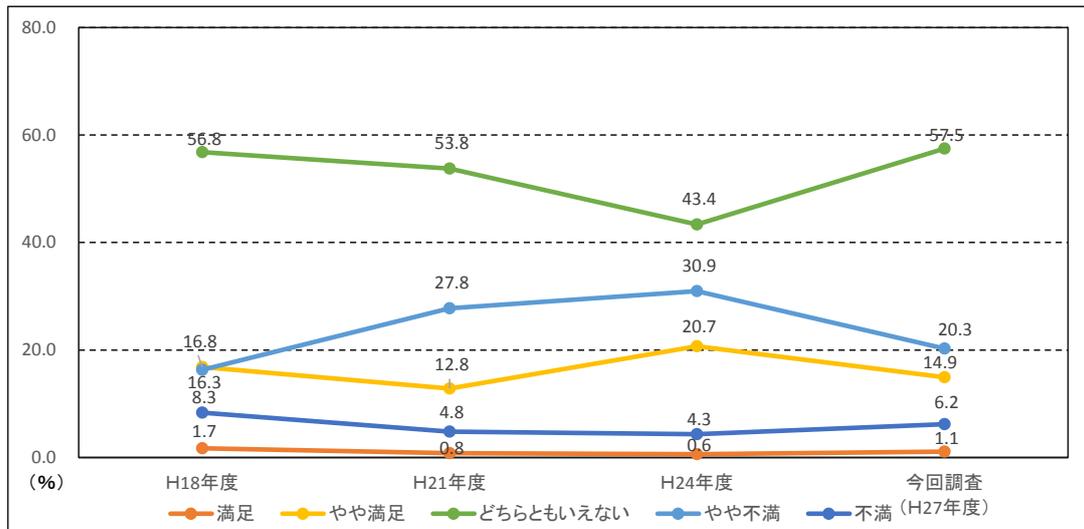
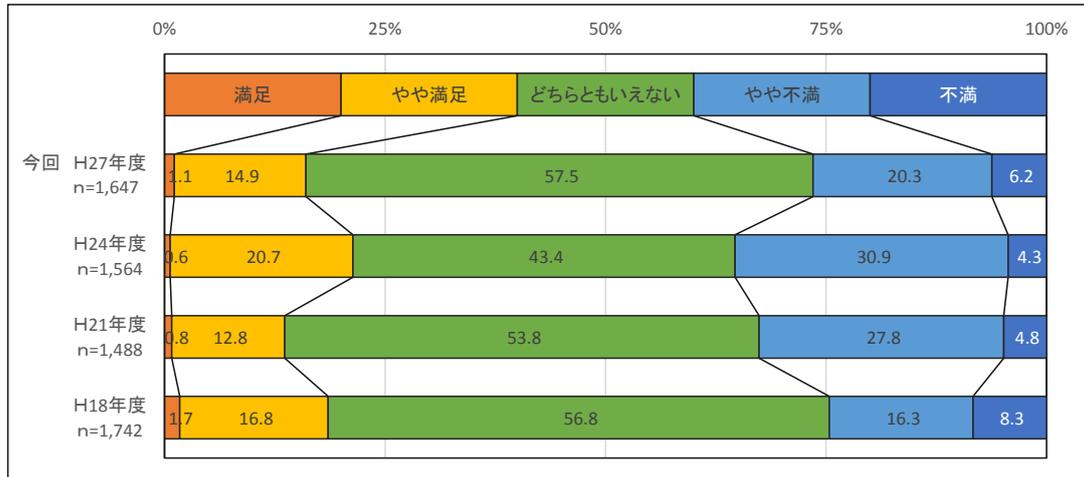


「今後力を入れて行くべき分野」の前回上位 6 項目の経年変化では、項目の変動はないものの、順位の変動があり、前回 1 位の「雇用対策」が 5 位、前回 5 位の「教育の充実」が 6 位に順位を下げ、他の項目は順位が繰り上がり、今回の 1 位の項目は「福祉の充実」となっている。これは、本調査を実施した平成 27 年 11 月～12 月における本県の有効求人倍率は 1.01 倍と 1.0 倍台で推移するなど、雇用環境が改善傾向にある反面、人口減少・少子高齢化が進行するなか、健康や将来の生活設計に不安を抱えている現状が背景にあるものと考えられる。

【県の政策の総合的な満足度】

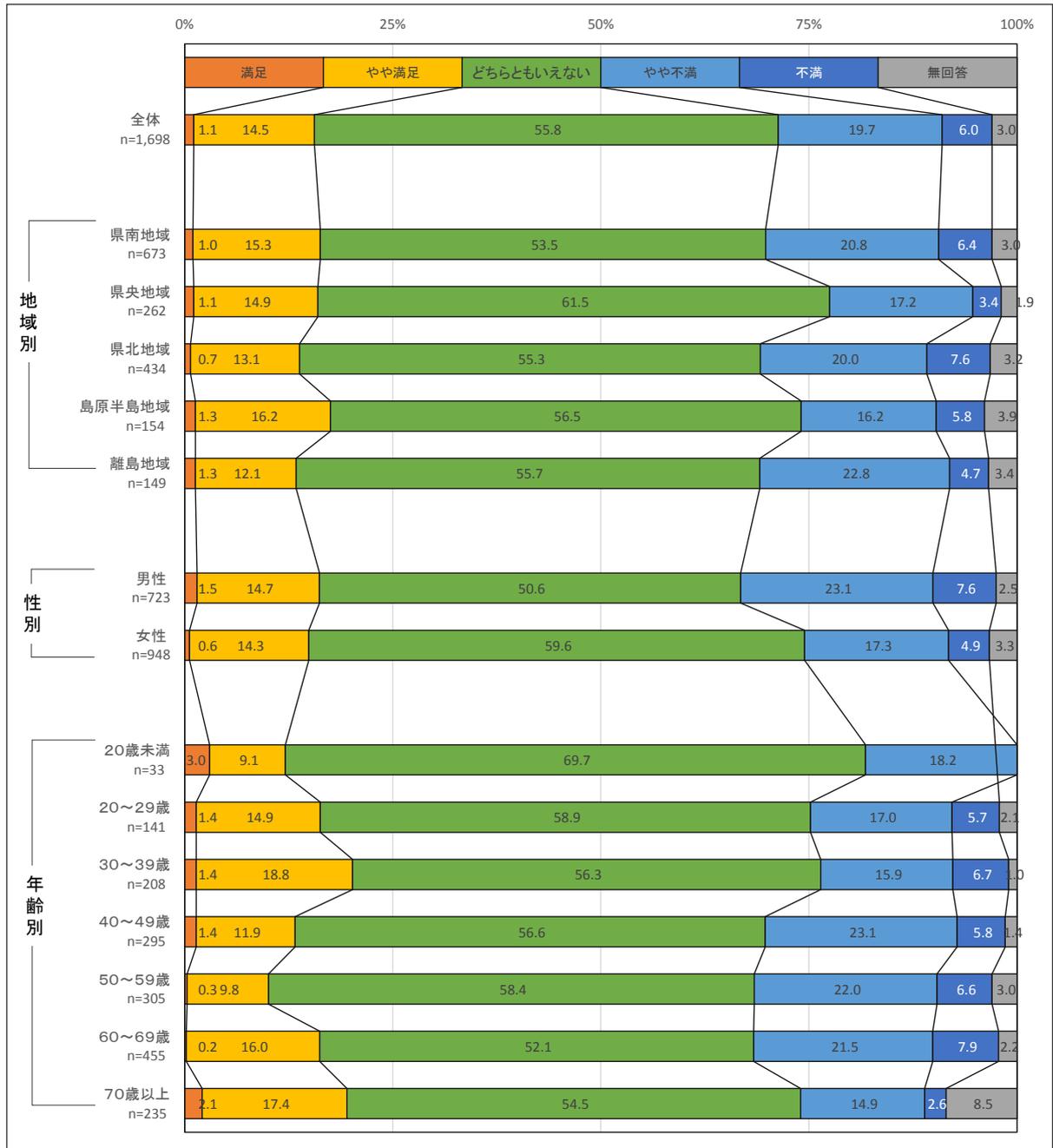
〔問5〕 県の政策の総合的な満足度をお聞かせ下さい。
 (問4の1～22の分野の総合評価)

〔県の政策の総合的な満足度の経年比較（無回答を除く）〕



過去の調査結果をもとに経年変化をみると、「満足」は1.1%でやや増加、「やや満足」は14.9%で5.8ポイント減少、「やや不満」は増加傾向にあったが、20.3%で10.6ポイント減少し、「不満」は6.2%で1.9ポイント増加している。「満足」「やや満足」の合計（満足度）が5.3ポイント減少し、「やや不満」「不満」の合計（不満度）も8.7ポイント減少しており、満足度と不満度の乖離が減少している。また、「どちらともいえない」は57.5%と14.1%増加し、約6割が明確な判断を避けた結果となっている。これは、少子高齢化、人口減少が進行するなか、福祉・保健・医療などへの要望が高まっている一方で、前回最も要望の高かった雇用対策において、雇用環境の改善が見られており、複合的な要因があるものと考えられる。

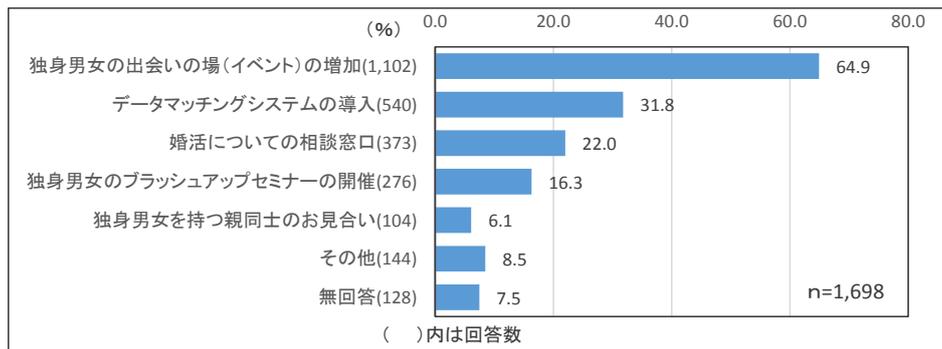
〔地域別・性別・年齢別施策満足度比較〕



3. 分野別取組について

結婚支援について

〔問6〕 現在、県では少子化対策として結婚支援を行っています。あなたは、県が支援する取組として、何が必要だと思いますか。(〇は2つまで)



〔地域別〕



〔調査結果 (ポイント)〕

県の結婚支援の取組として必要なものは
“独身男女の出会いの場 (イベント) の増加” がトップ

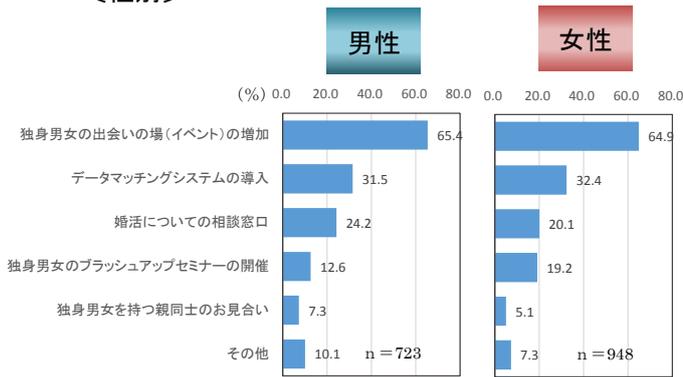
〔全体〕

県の結婚支援の取組として必要なものは、「独身男女の出会いの場 (イベント) の増加」が 64.9% で最も多く、次いで、「データマッチングシステムの導入」31.8%、「婚活についての相談窓口」22.0%、「独身男女のブラッシュアップセミナーの開催」16.3%、「独身男女を持つ親同士のお見合い」6.1% の順となっている。

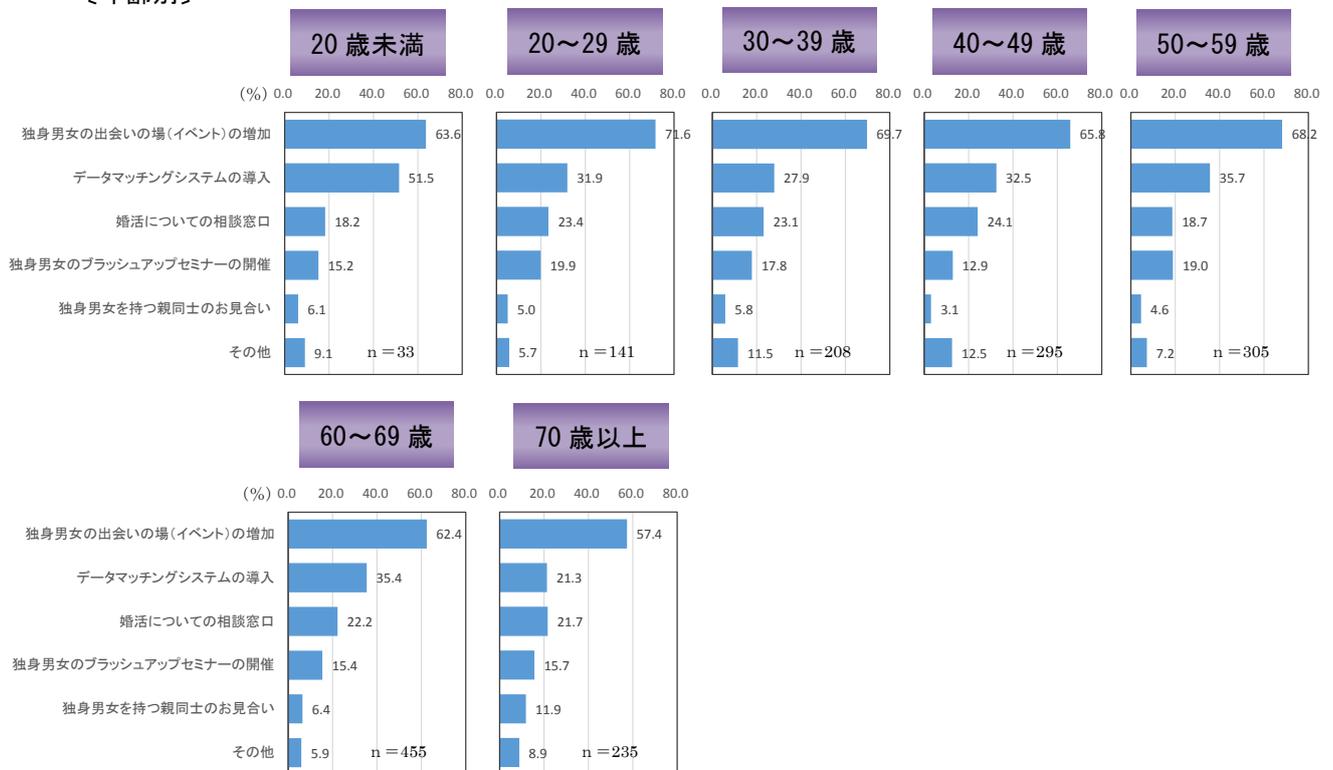
〔地域別〕

地域別での傾向の違いは見られないが、全体 1 位の「独身男女の出会いの場 (イベント) の増加」で離島地域・島原半島地域が 7 割を超えている。

〔性別〕



〔年齢別〕



〔性別〕

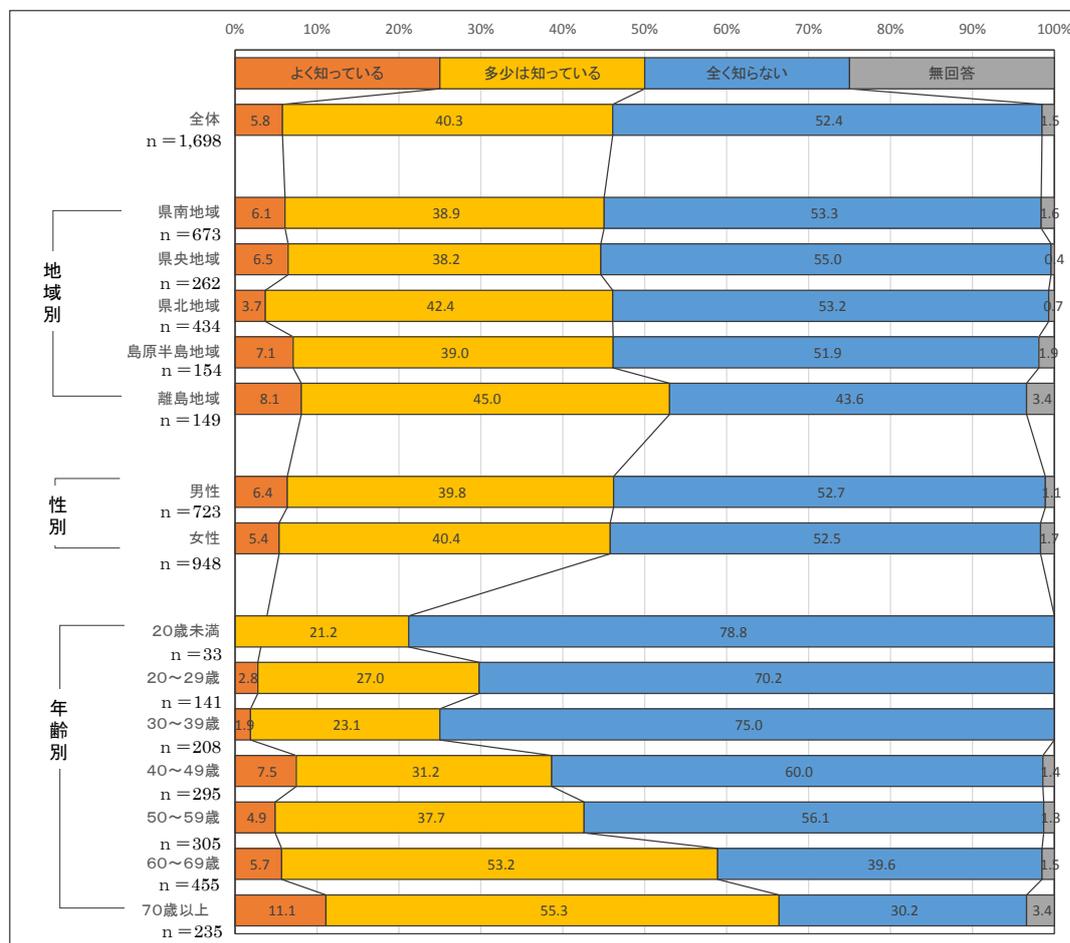
性別での傾向の違いは見られないが、男性は「婚活についての相談窓口」が、女性は「独身男女のブラッシュアップセミナーの開催」が多くなっている。

〔年齢別〕

年齢別での傾向の違いは見られないが、全体1位の「独身男女の出会いの場（イベント）の増加」が最も多いのは「20～29歳」の71.6%、次いで、「30～39歳」69.7%であり、適齢期といわれる世代は出会いの場を求めていることが分かる。

障害者施策（障害者差別禁止条例）について

〔問7〕あなたは、障害のある人に対する差別の禁止等を定めた「障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例」を知っていますか。（○は1つ）



〔調査結果（ポイント）〕

「障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例」
認知度は約5割

〔全体〕

「障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例」の認知度（「よく知っている」+「多少知っている」）は46.1%と5割を切っている。

〔地域別〕

離島地域が53.1%で最も高く、次いで、県北地域・島原半島地域46.1%、県南地域45.0%、県央地域が44.7%となっている。

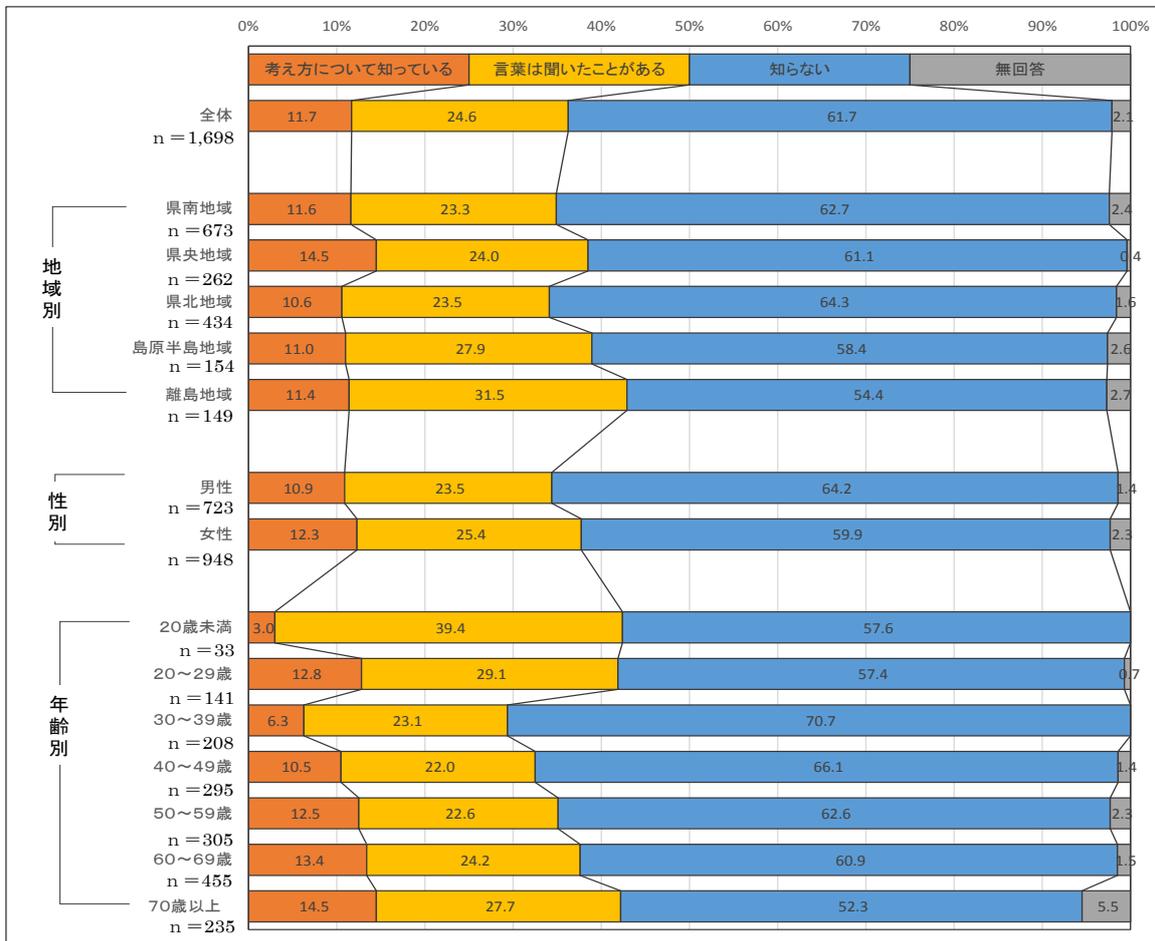
〔性別〕

「男性」46.2%、「女性」45.8%と、男性の認知度がやや高くなっている。

〔年齢別〕

「70歳以上」が66.4%で最も高く、次いで、「60~69歳」58.9%、「50~59歳」42.6%、「40~49歳」38.7%、「20~29歳」29.8%、「30~39歳」25.0%、「20歳未満」21.2%と続いており、年齢の上昇に伴い認知度が高い傾向にある。

〔問 8〕 障害がある人が障害のない人と同じように生活できるよう、社会や会社などが無理のない範囲で必要な変更や工夫を行うことを「合理的配慮」と言いますが、この条例では、「合理的配慮」を怠ることも差別としています。あなたはこのような「合理的配慮」について知っていますか。(〇は1つ)



〔調査結果 (ポイント)〕

「合理的配慮」についての認知度は約 4 割

〔全体〕

「合理的配慮」についての認知度（「考え方について知っている」＋「言葉は聞いたことがある」）は 36.3%と 4 割を切っている。

〔地域別〕

離島地域が 42.9%で最も高く、次いで、島原半島地域 38.9%、県央地域 38.5%、県南地域 34.9%、県北地域が 34.1%となっている。

〔性別〕

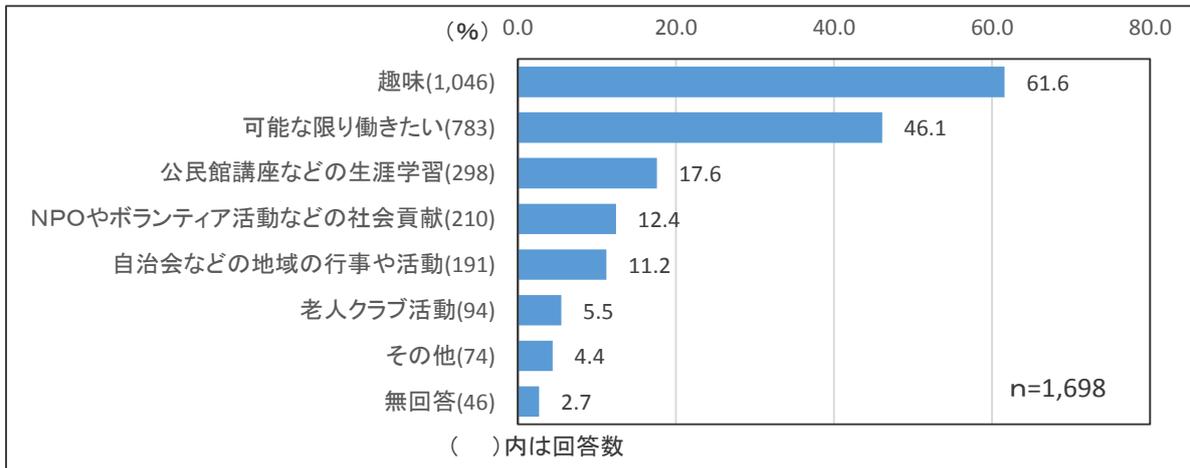
「男性」 34.4%、「女性」 37.7%と、女性の認知度が 3.3 ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

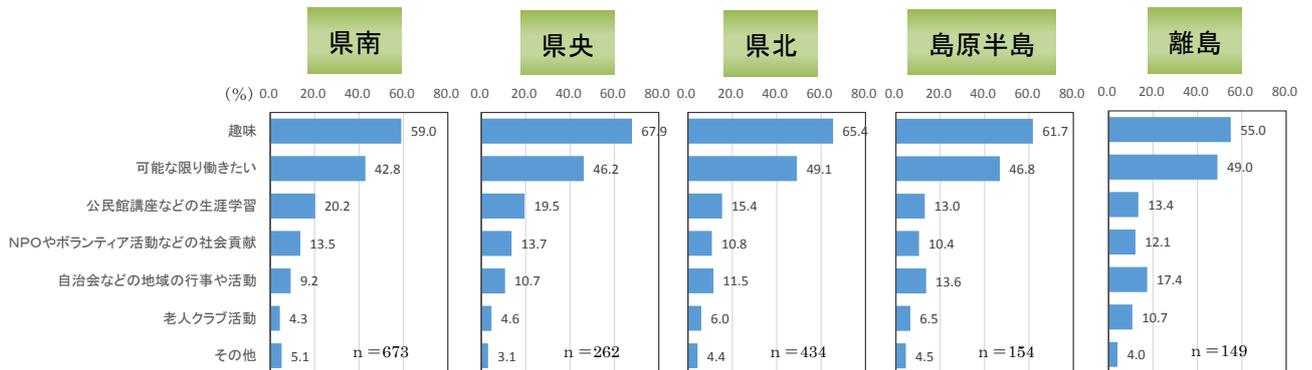
「20 歳未満」が 42.4%で最も高く、次いで、「70 歳以上」 42.2%、「20～29 歳」 41.9%、「60～69 歳」 37.6%、「50～59 歳」 35.1%、「40～49 歳」 32.5%と続き、「30～39 歳」が 29.4%で最も低くなっている。

だれもが活躍できる社会づくりについて

〔問 9〕 あなたが65歳以降の高齢期を迎えたときに（65歳以上の方は現在）行いたいことは何ですか。（〇は2つまで）



〔地域別〕



〔調査結果（ポイント）〕

高齢期を迎えたときに行いたいことは
“趣味”と“可能な限り働きたい”

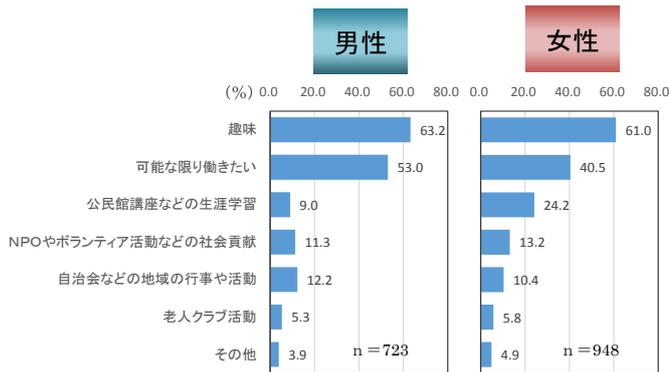
〔全体〕

高齢期を迎えたときに行いたいことは「趣味」が 61.6%で最も多く、次いで、「可能な限り働きたい」46.1%、「公民館講座などの生涯学習」17.6%、「NPOやボランティア活動などの社会貢献」12.4%、「自治会などの地域の行事や活動」11.2%の順で続いている。

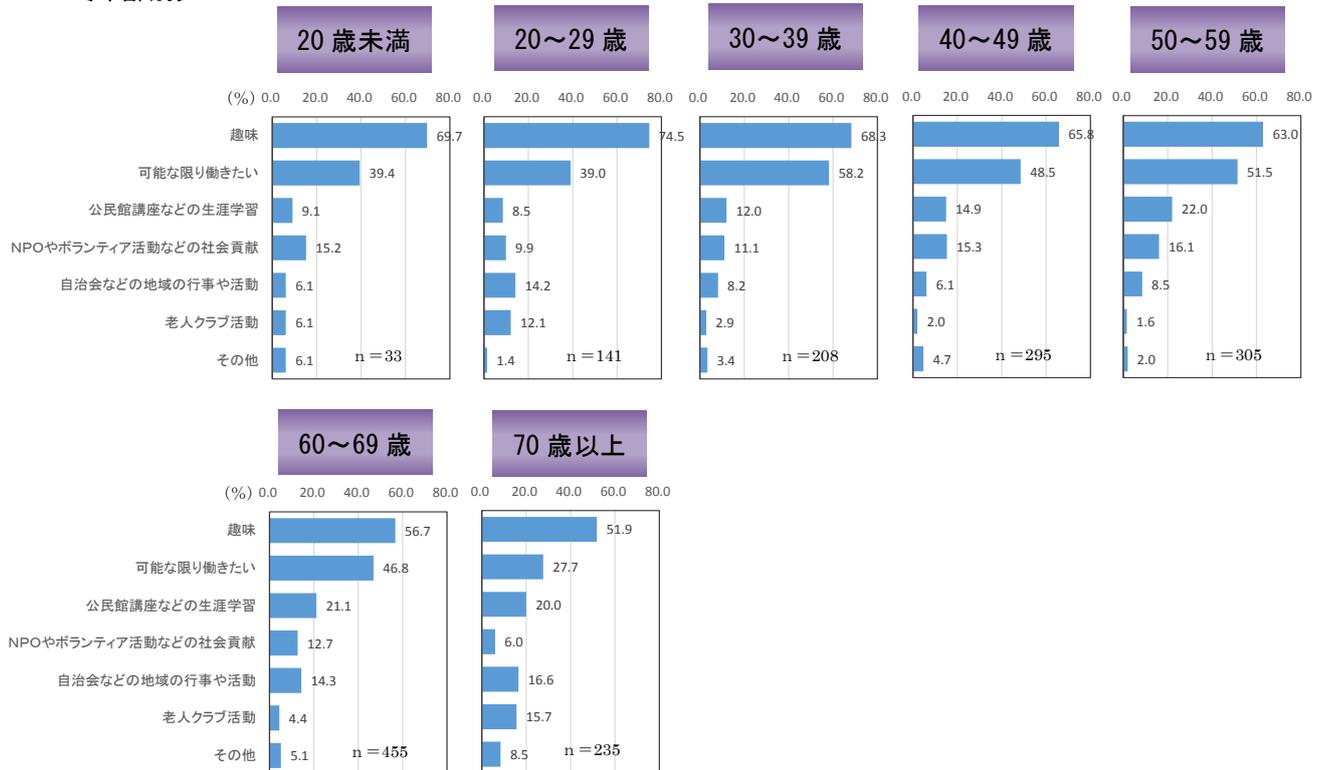
〔地域別〕

地域別での大きな相違は見られないが、島原半島地域と離島地域では「自治会などの地域の行事や活動」が3位の項目になっている。

〔性別〕



〔年齢別〕



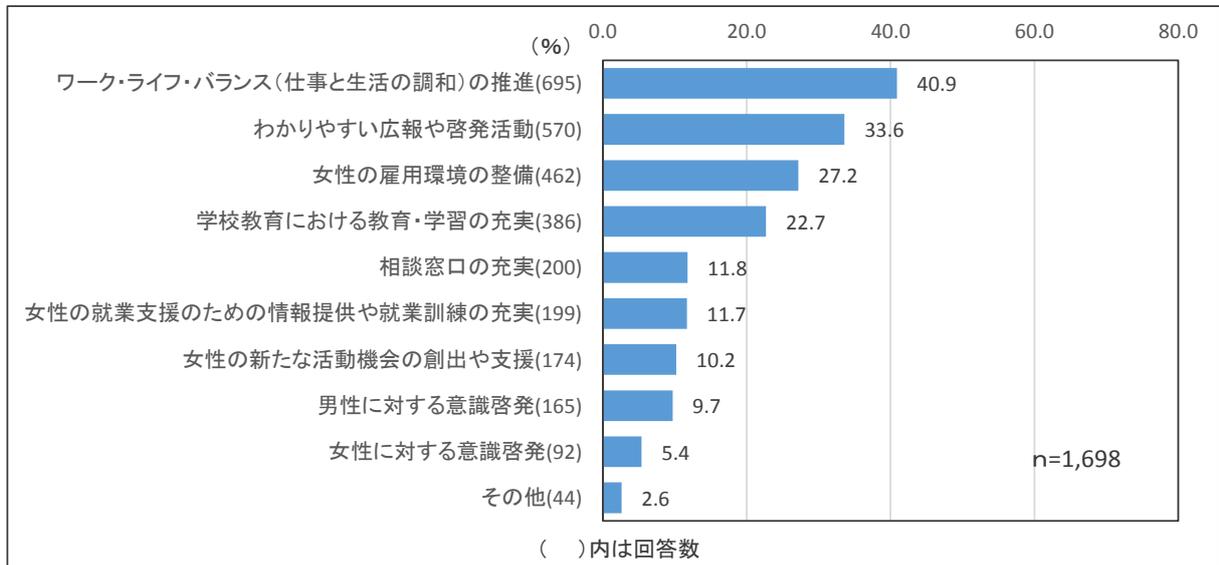
〔性別〕

「男性」と比べ「女性」のほうが「公民館講座などの生涯学習」が15.2ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

「自治会などの地域の行事や活動」・「公民館講座などの生涯学習」の項目は年齢が高くなると多い傾向にあり、「老人クラブ活動」は「70歳以上」で多くなっている。また、全体2位の「可能な限り働きたい」は「30~39歳」が58.2%で最も多く、40~60歳代も全体を上回っている。

〔問10〕 あなたは、性別にかかわらず、個人の個性と能力を發揮することができる「男女共同参画社会」実現のために、どのような取組が必要だと思いますか。
(○は2つまで)



〔地域別〕



〔調査結果 (ポイント)〕

「男女共同参画社会」実現のための取組は
“ワーク・ライフ・バランスの推進” や “啓発活動”

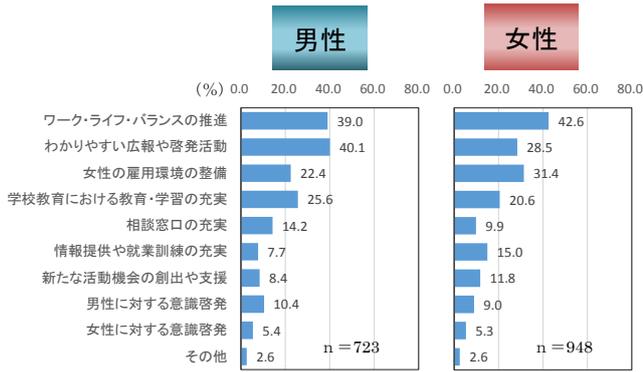
〔全体〕

「男女共同参画社会」実現のための取組は「ワーク・ライフ・バランスの推進」が40.9%で最も多く、次いで、「わかりやすい広報や啓発活動」33.6%、「女性の雇用環境の整備」27.2%、「学校教育における教育・学習の充実」22.7%、「相談窓口の充実」11.8%の順で続いている。

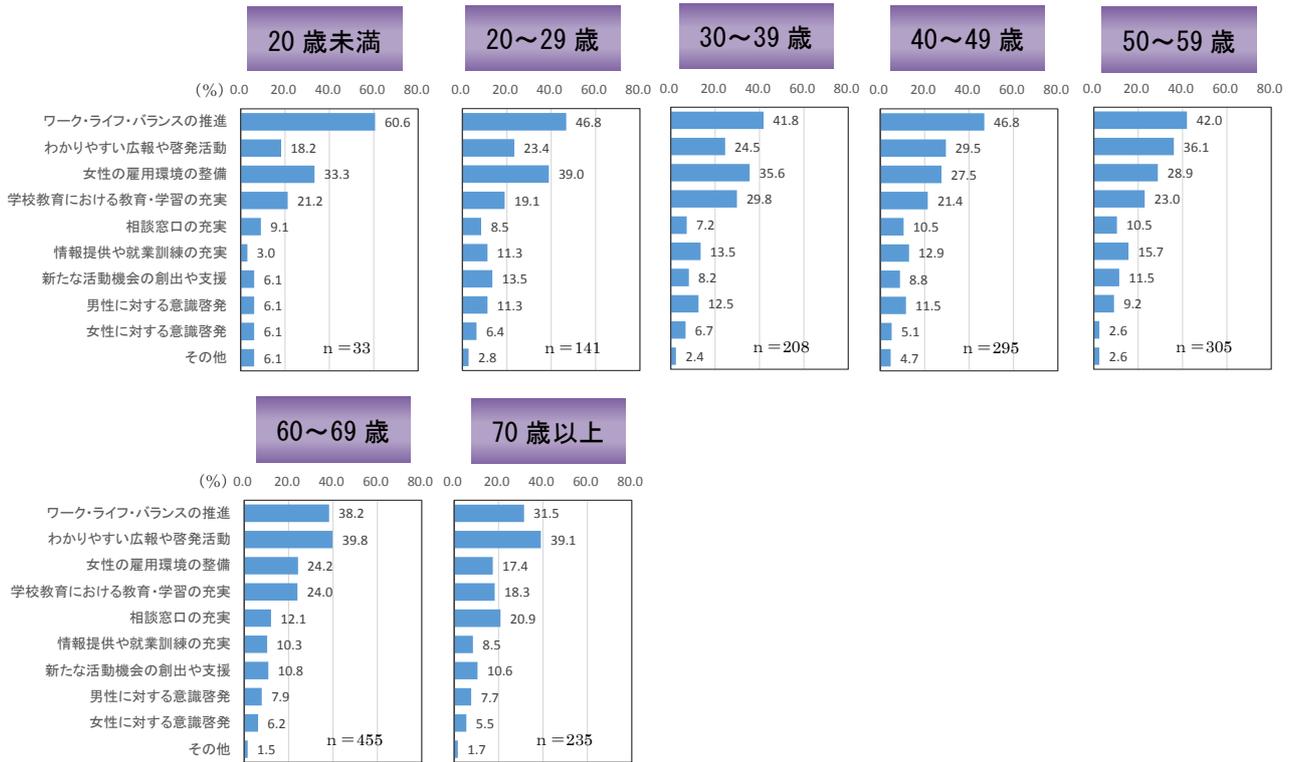
〔地域別〕

上位5項目でみると、県南地域は「相談窓口の充実」に代わり、「情報提供や就業訓練の充実」、県央地域では「相談窓口の充実」に代わり、「男性に対する意識啓発」、島原半島地域は「学校教育における教育・学習の充実」に代わり、「情報提供や就業訓練の充実」の項目が5位以内に入っている。また、全体1位の項目である「ワーク・ライフ・バランスの推進」は県央地域が46.9%で最も多くなっている。

〔性別〕



〔年齢別〕



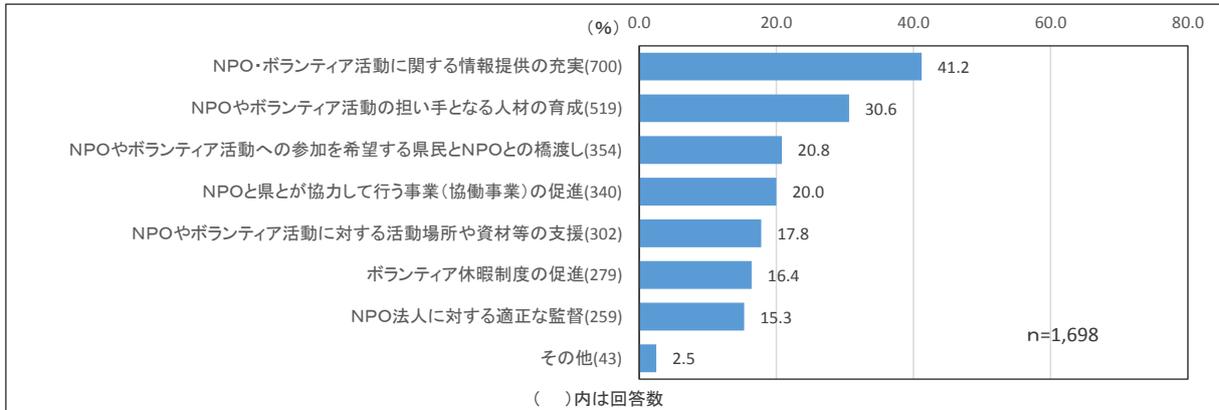
〔性別〕

「女性」は「女性の雇用環境の整備」が31.4%で2位の項目となり、男性よりも9ポイント高くなっている。また、「情報提供や就業訓練の充実」も5位に順位を上げ、男性よりも7.3ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

「わかりやすい広報や啓発活動」の項目は年齢の上昇とともに増加傾向にあり、60歳代以上では約40%と最も多くなっている。「ワーク・ライフ・バランスの推進」・「女性の雇用環境の整備」の項目は年齢の上昇とともに減少傾向にある。30歳代以下では、「女性の雇用環境の整備」が30%以上で「わかりやすい広報や啓発活動」に代わり2位となっている。

〔問 1 1〕 あなたは、今後、NPO・ボランティア活動が一層活発になるためには、どのような取組に力をいれていくべきだと思いますか。(〇は2つまで)



〔地域別〕



〔調査結果 (ポイント)〕

**NPO・ボランティア活動が一層活発になるための取組は
“情報提供の充実” や “人材の育成”**

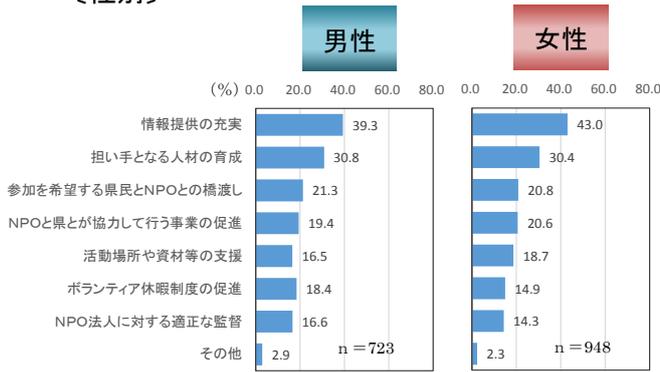
〔全体〕

今後、NPO・ボランティア活動が一層活発になるための取組は「情報提供の充実」が41.2%で最も多く、次いで、「担い手となる人材の育成」30.6%、「参加を希望する県民とNPOとの橋渡し」20.8%、「NPOと県とが協力して行う事業の促進」20.0%、「活動場所や資材等の支援」17.8%の順で続いている。

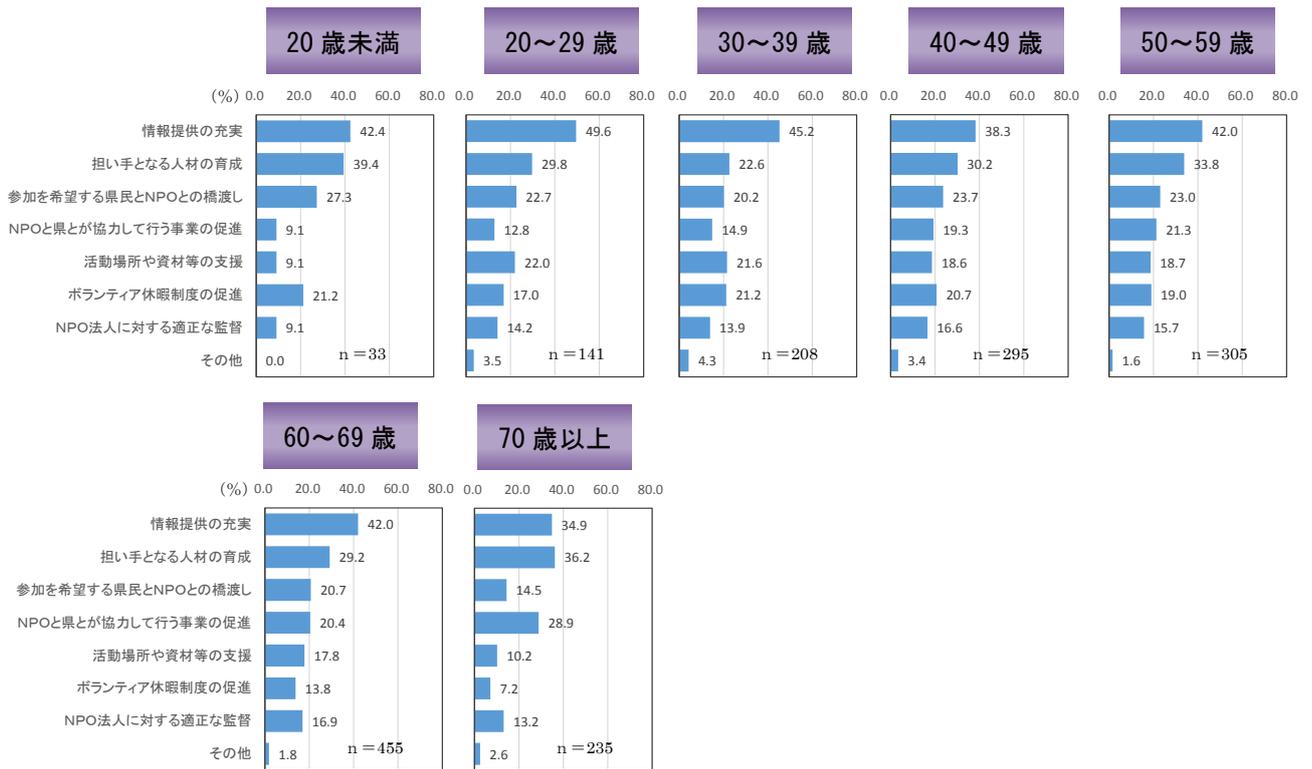
〔地域別〕

離島地域で「担い手となる人材の育成」が38.3%で「情報提供の充実」に代わり1位となっている。そのほかは大きな相違はみられない。

〔性別〕



〔年齢別〕



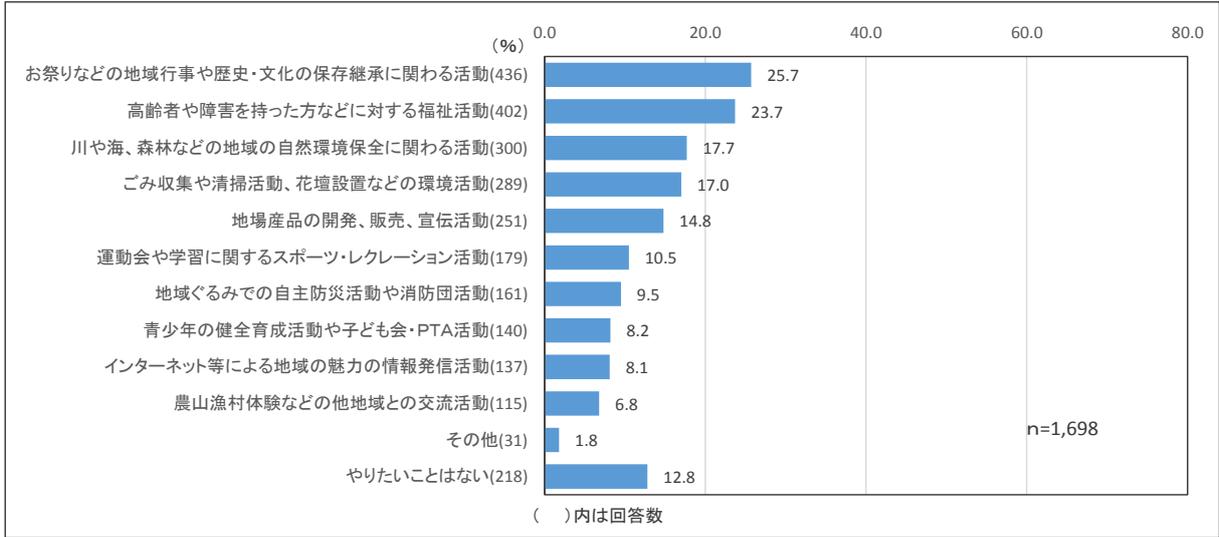
〔性別〕

性別での大きな相違は見られないが、「男性」は「ボランティア休暇制度の促進」が 18.4%で「活動場所や資材等の支援」に代わり、5位となっている。

〔年齢別〕

年齢別に全体順位と異なる傾向がみられ、特に、50歳代以下で、全体6位の「ボランティア休暇制度の促進」が5位以内に入っている。

〔問12〕 あなたは、お住まいの地域の活力を向上させるため、どのようなものに参加したいと思いますか。(〇は2つまで)



〔地域別〕



〔調査結果 (ポイント)〕

地域の活力を向上させるために参加したい活動は
 “お祭りなどの地域行事や歴史・文化の保存継承” や “福祉”、
 一方 “ない” も約1割

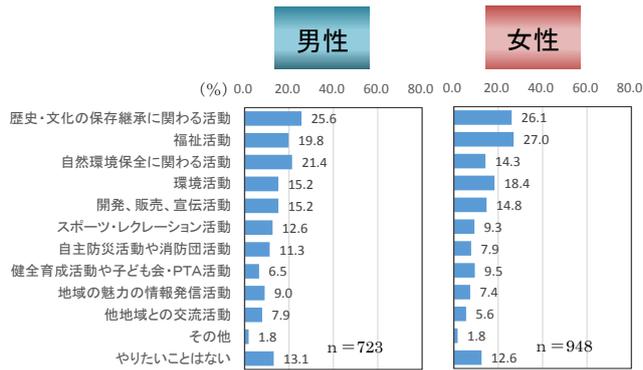
〔全体〕

地域の活力を向上させるために参加したい活動は、「お祭りなどの地域行事や歴史・文化の保存継承に関わる活動」が25.7%で最も多く、次いで、「福祉活動」23.7%、「自然環境保全に関わる活動」17.7%、「環境活動」17.0%、「開発、販売、宣伝活動」14.8%の順で続いている。一方、「やりたいことはない」が12.8%となっている。

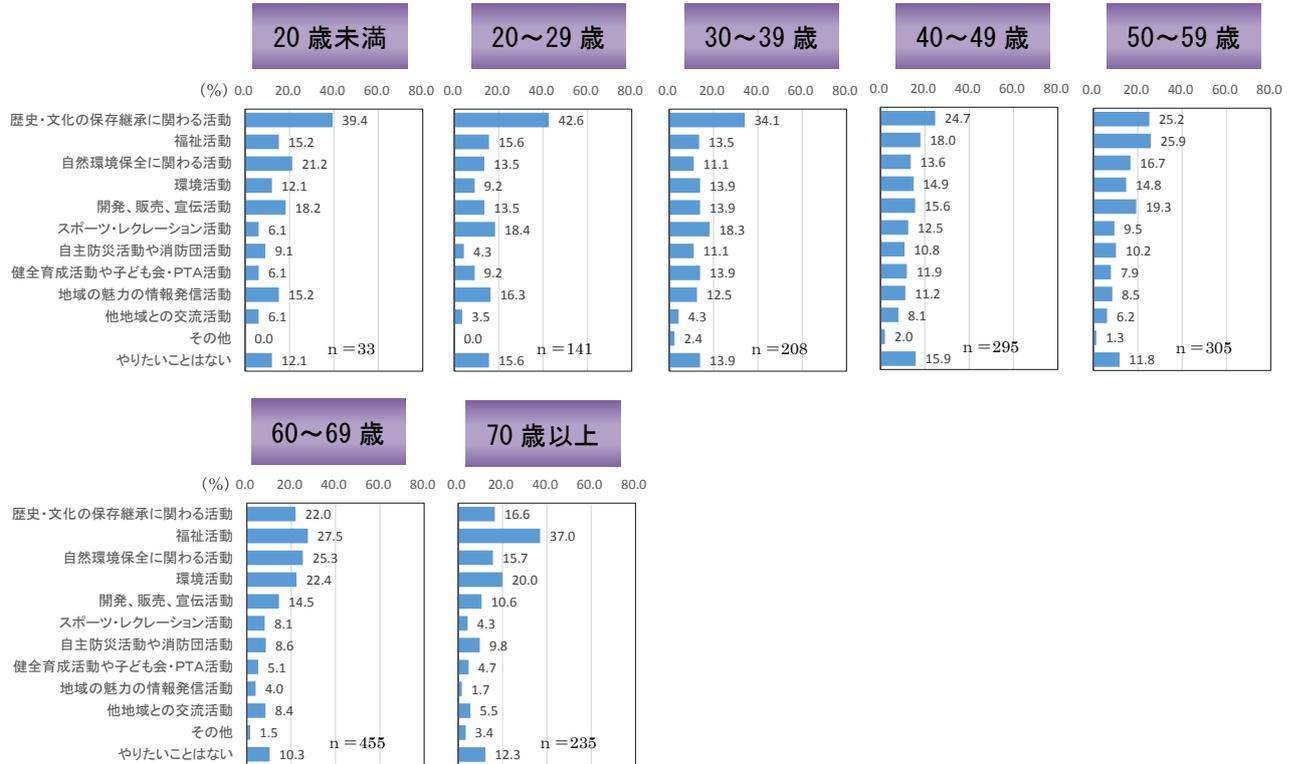
〔地域別〕

県北・島原半島地域では「福祉活動」への関心が最も高くなっている。県央地域では「スポーツ・レクリエーション活動」が15.3%と他地域に比べ多くなっている。また、島原半島地域では、「開発、販売、宣伝活動」が21.4%と他地域に比べ多くなっている。

〔性別〕



〔年齢別〕



〔性別〕

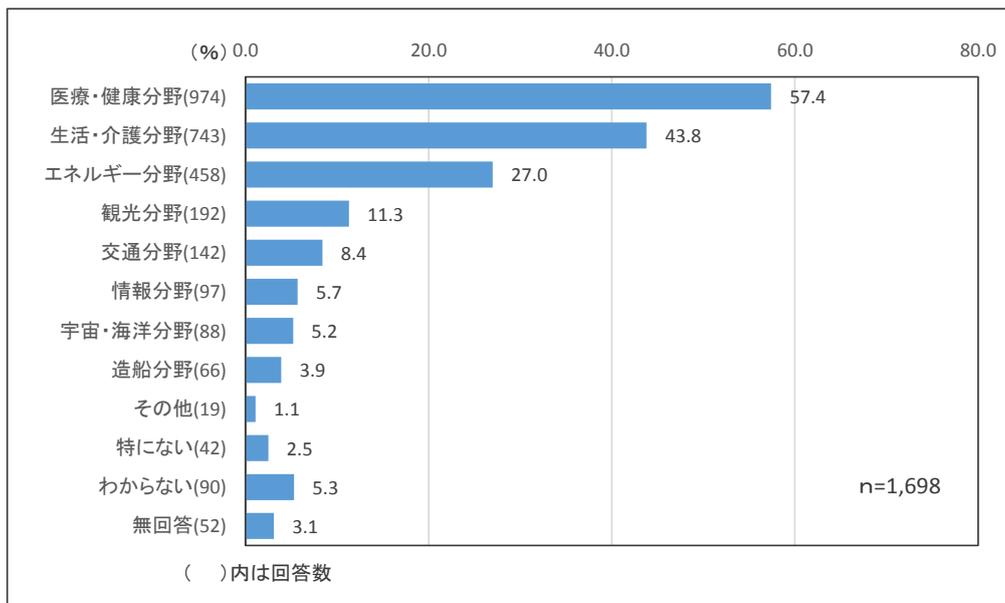
「男性」は「自然環境保全に関わる活動」、「女性」は「福祉活動」や「環境活動」が高くなっている。

〔年齢別〕

「福祉活動」の項目は年齢の上昇とともに増加傾向にあり、「お祭りなどの地域行事や歴史・文化の保存継承に関わる活動」・「スポーツ・レクリエーション活動」の項目は年齢の上昇とともに減少傾向にある。20歳代以下では「地域の魅力の情報発信活動」、20~30歳代は「スポーツ・レクリエーション活動」が他の年代に比べて高くなっている。

科学技術の活用について

〔問 1 3〕 情報技術やロボット技術など、科学技術の発展は目覚ましいものがあり、今後、県では成長市場として地場企業の参入可能性等を検討していきたいと考えています。あなたは、科学技術がどのような分野に活用されると良いと思いますか。(〇は2つまで)



〔地域別〕



〔調査結果（ポイント）〕

科学技術が活用されると良いと思う分野は
“医療・健康分野”と“生活・介護分野”

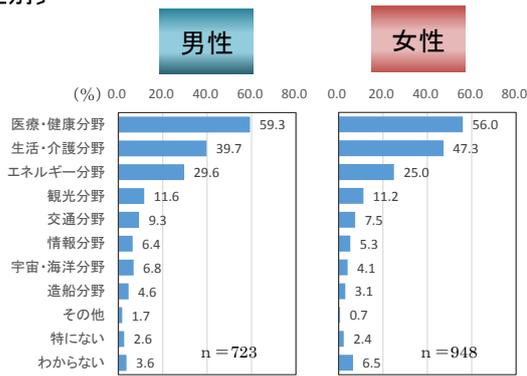
〔全体〕

科学技術が活用されると良いと思う分野は「医療・健康分野」が57.4%で最も多く、次いで、「生活・介護分野」43.8%、「エネルギー分野」27.0%、「観光分野」11.3%、「交通分野」8.4%の順で続いている。

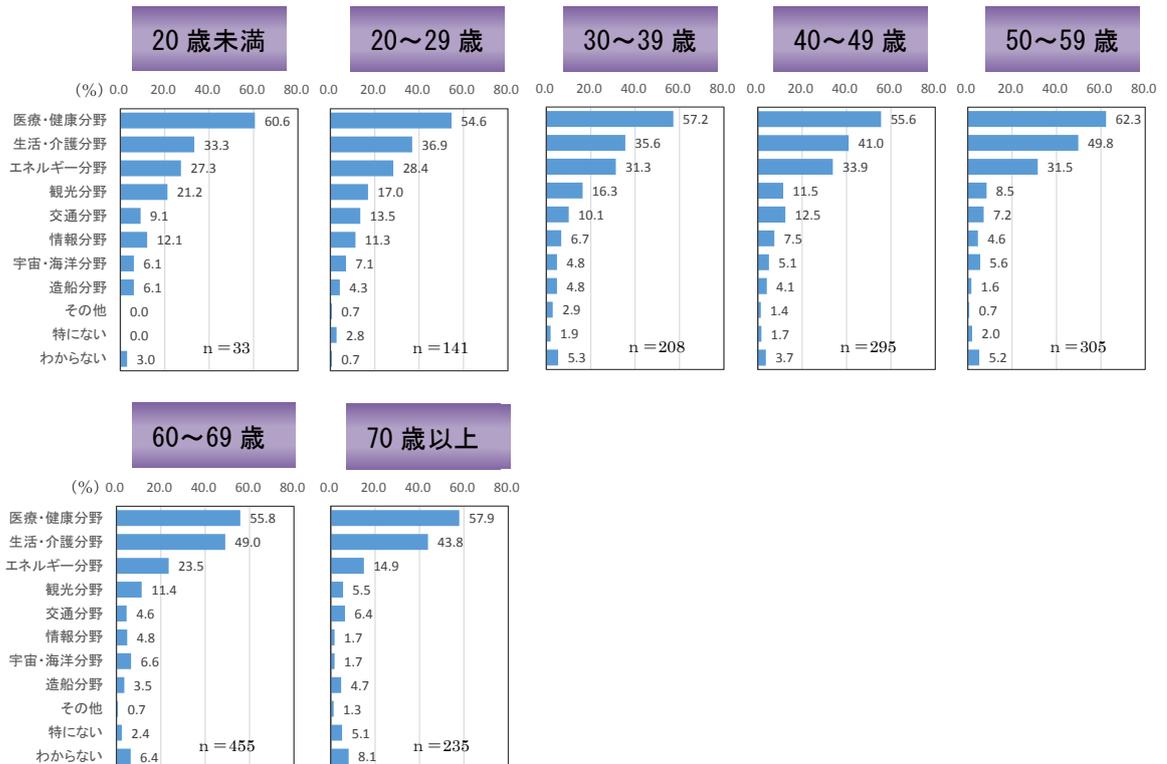
〔地域別〕

地域別での大きな傾向の違いは見られないが、県央地域では「エネルギー分野」と「情報分野」、島原半島地域では「生活・介護分野」と「交通分野」、離島地域では「生活・介護分野」と「宇宙・海洋分野」が他地域に比べ多くなっている。

〔性別〕



〔年齢別〕



〔性別〕

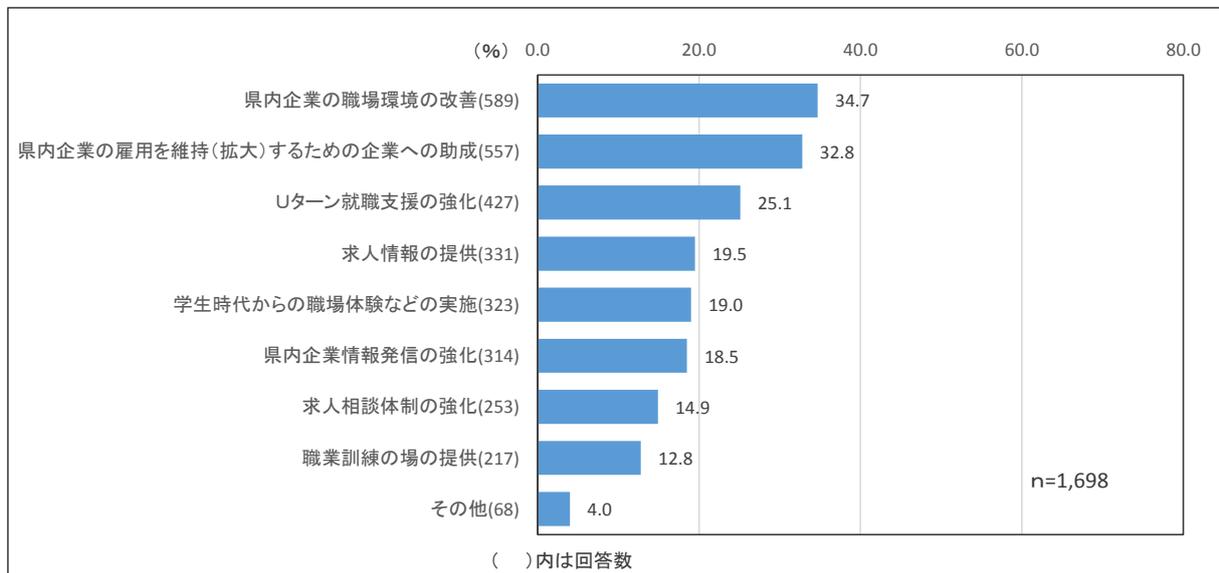
性別での大きな傾向の違いは見られないが、「女性」では「生活・介護分野」が「男性」よりも7.6ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

「医療・健康分野」はいずれの年代も6割前後と多くなっており、「生活・介護分野」の項目は年齢の上昇とともに増加傾向にある。20歳代以下では「情報分野」、30歳代以下では「観光分野」が他の年代に比べ多くなっている。

雇用対策・人材育成について

〔問14〕あなたは、新卒者や若者が県内で就職をしてもらうための雇用対策として、今後、県でどのような取組が必要だと思いますか。(〇は2つまで)



〔地域別〕



〔調査結果(ポイント)〕

雇用対策に必要な取組は
“企業の職場環境の改善”や“雇用維持(拡大)のための助成”

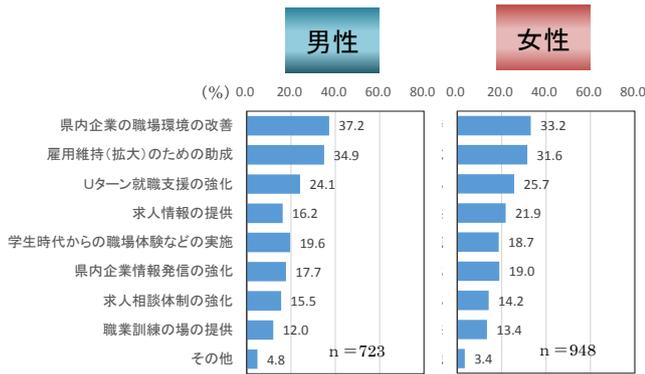
〔全体〕

雇用対策として必要がある取組は「県内企業の職場環境の改善」が34.7%で最も多く、次いで、「雇用維持(拡大)のための助成」32.8%、「Uターン就職支援の強化」25.1%、「求人情報の提供」19.5%、「学生時代からの職場体験などの実施」19.0%の順が続いている。

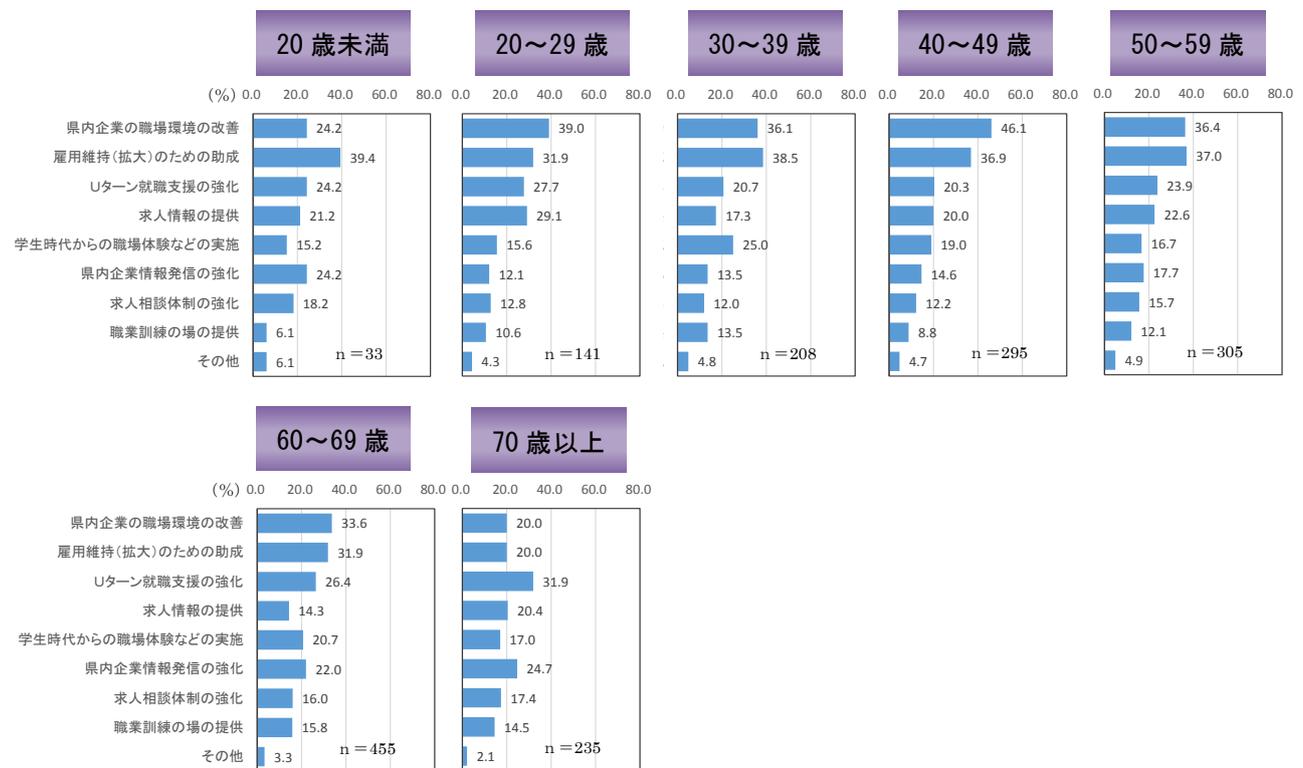
〔地域別〕

県北地域と離島地域で「Uターン就職支援の強化」、県央地域と島原半島地域で「求人情報の提供」、離島地域で「県内企業情報発信の強化」が他地域に比べ多くなっている。

〔性別〕



〔年齢別〕



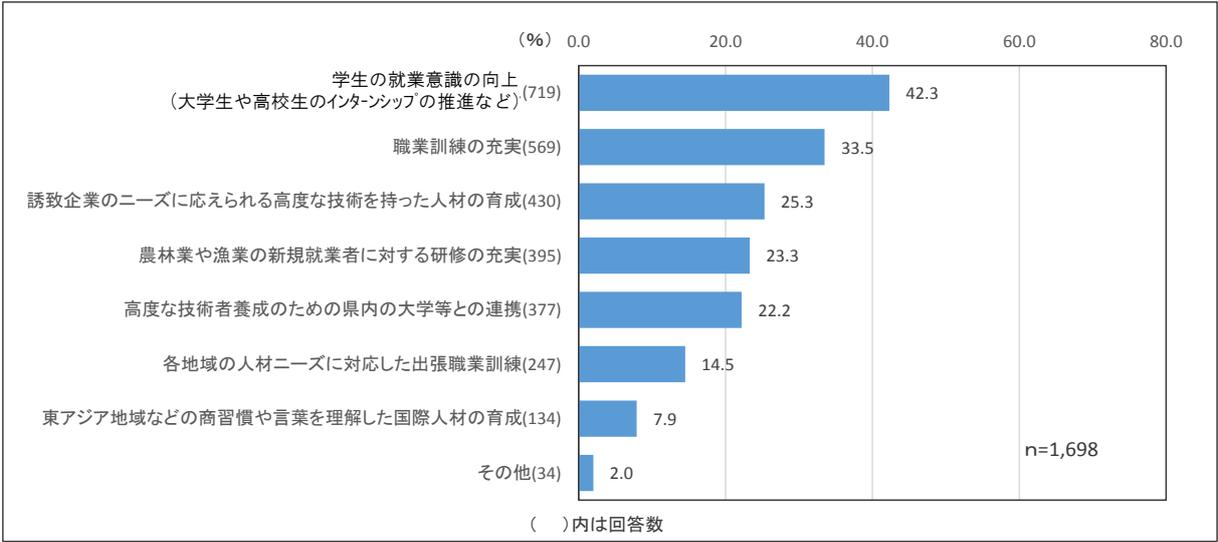
〔性別〕

性別での大きな傾向の違いは見られないが、「女性」では「求人情報の提供」が「男性」より 5.7 ポイント高くなっている。

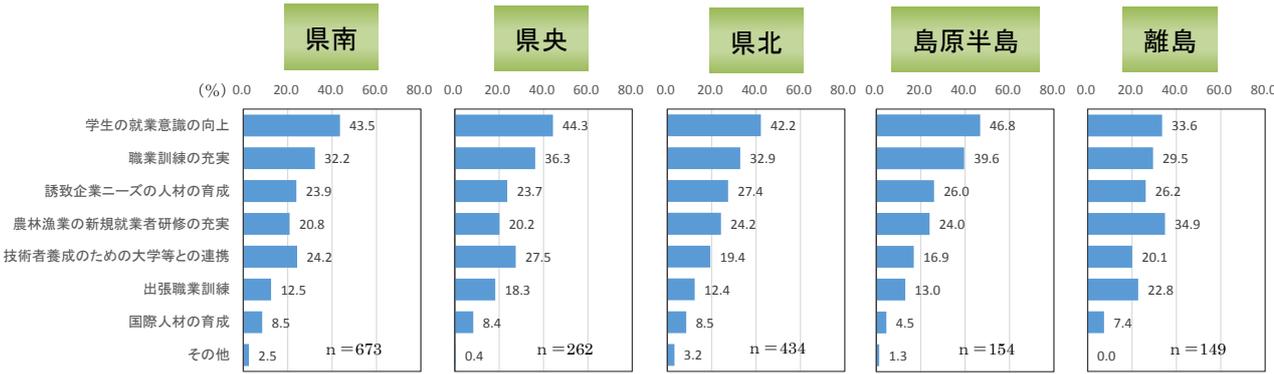
〔年齢別〕

20歳未満、30~50歳代で「雇用維持(拡大)のための助成」が全体を上回っている。20歳代では「求人の情報」、30歳代では「学生時代からの職場体験などの実施」が他の年代に比べ多くなっている。また、全体1位の項目である「県内企業の職場環境の改善」は「40~49歳」が46.1%で最も多く、全体よりも11.4ポイント高くなっている。

〔問15〕あなたは、県内の産業を支える人材を育成するために、今後、県はどのような支援に力を入れて行くべきだと思いますか。(〇は2つまで)



〔地域別〕



〔調査結果 (ポイント)〕

産業を支える人材育成に必要な支援は
 “学生の就業意識の向上” や “職業訓練の充実”

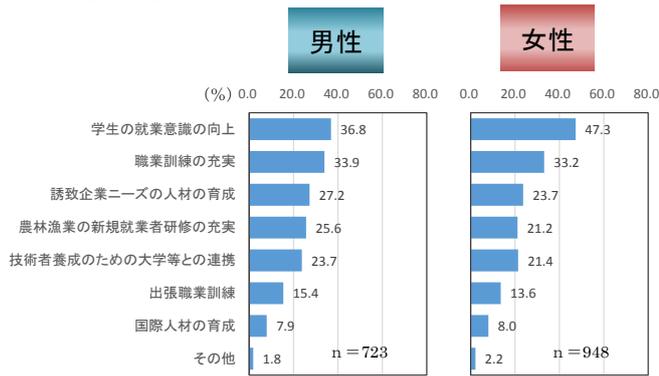
〔全体〕

産業を支える人材育成に必要な支援は「学生の就業意識の向上」が 42.3%で最も多く、次いで、「職業訓練の充実」 33.5%、「誘致企業ニーズの人材の育成」 25.3%、「農林漁業の新規就業者研修の充実」 23.3%、「技術者養成のための大学等との連携」 22.2%の順で続いている。

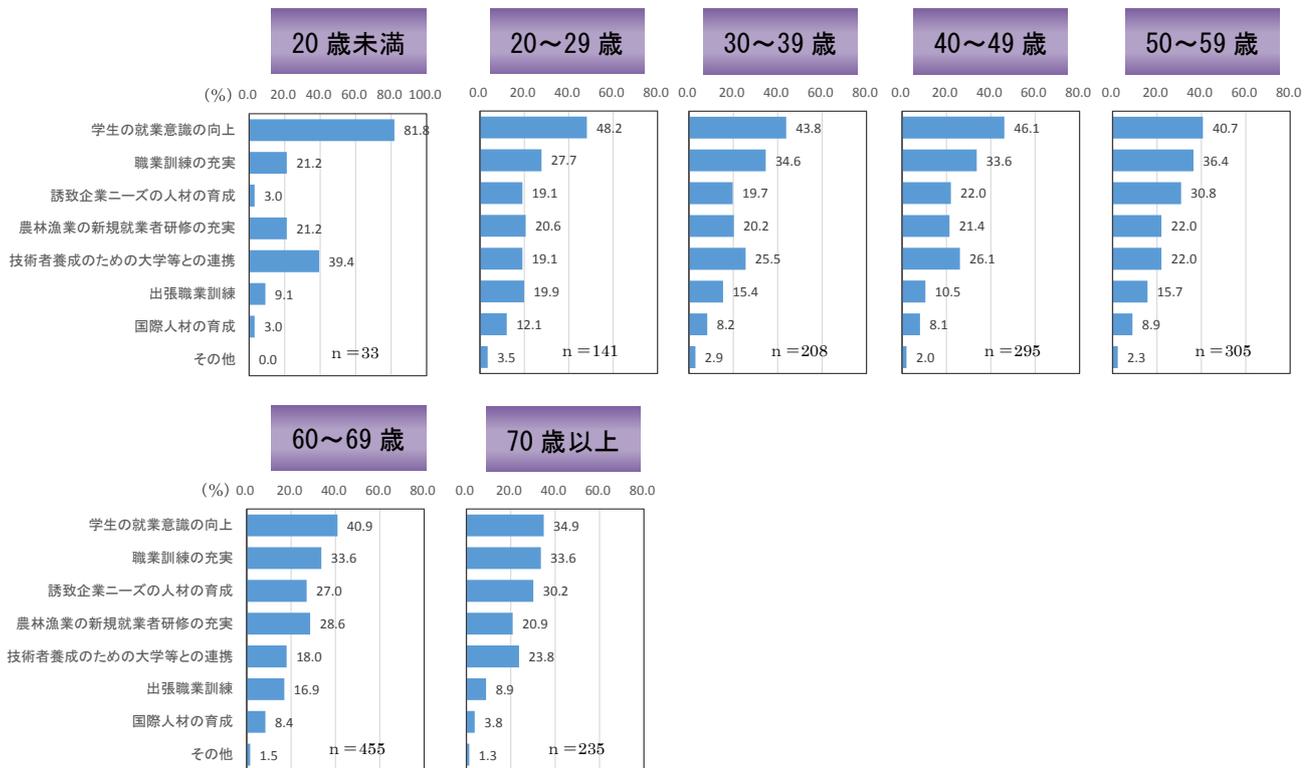
〔地域別〕

離島地域では、「農林漁業の新規就業者研修の充実」「出張職業訓練」、県南地域、県央地域で「技術者養成のための大学等との連携」が他地域に比べ多くなっている。

〔性別〕



〔年齢別〕



〔性別〕

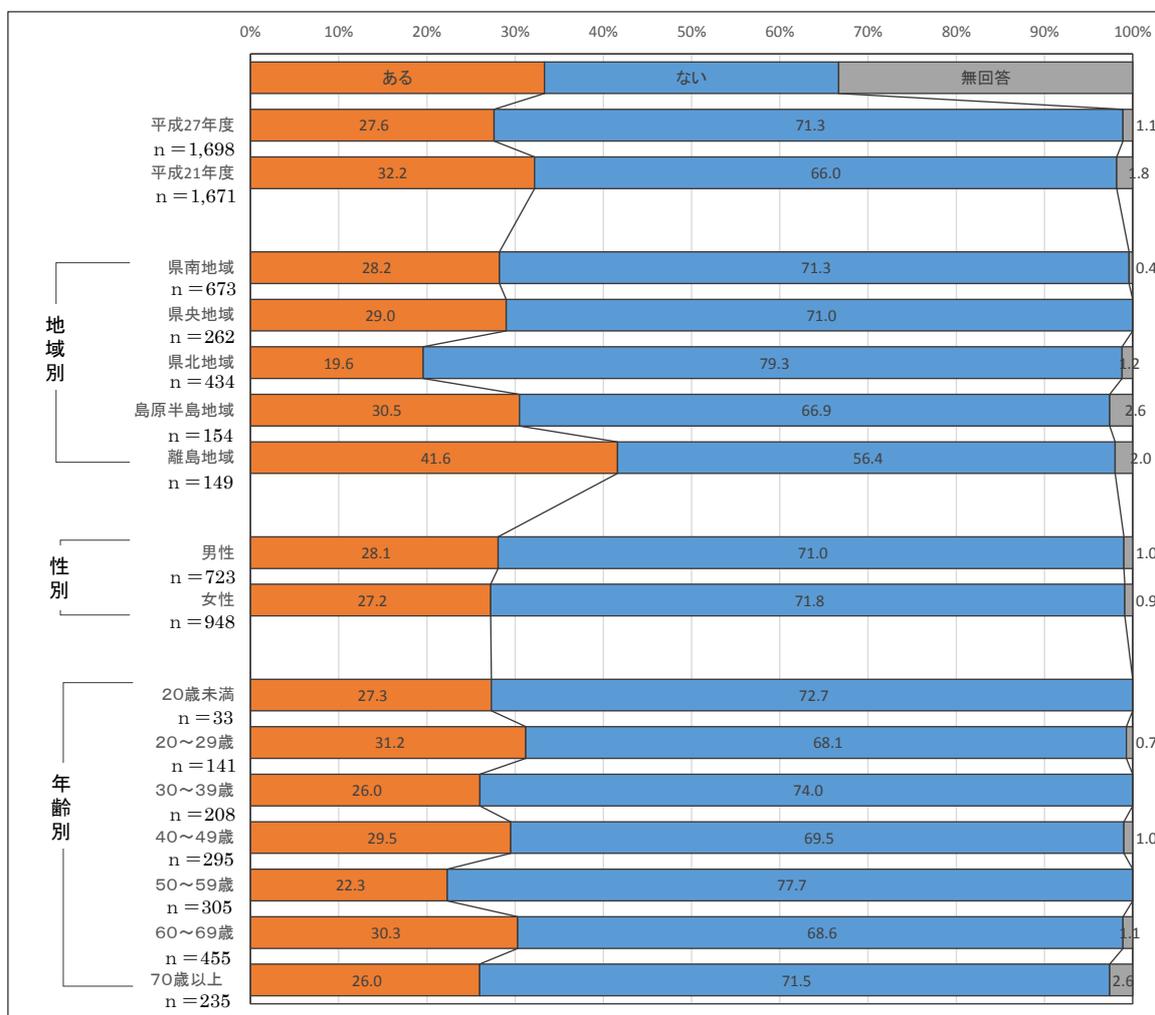
性別での大きな傾向の違いは見られないが、「女性」では「学生の就業意識の向上」が「男性」よりも10.5ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

20歳未満、30~40歳代で「技術者養成のための大学等との連携」が他の年代に比べ多くなっている。

離島との交流について

〔問16〕あなたは、過去1年間に県内で宿泊をとまなう旅行をしたことがありますか。(〇は1つ)



〔調査結果 (ポイント)〕

過去1年間に県内で宿泊をとまなう旅行経験者は約3割

〔全体〕

過去1年間に県内で宿泊をとまなう旅行の経験は「ある」27.6%となっている。

〔地域別〕

離島地域が41.6%で最も高く、次いで、島原半島地域30.5%、県央地域29.0%、県南地域28.2%、県北地域が19.6%となっている。

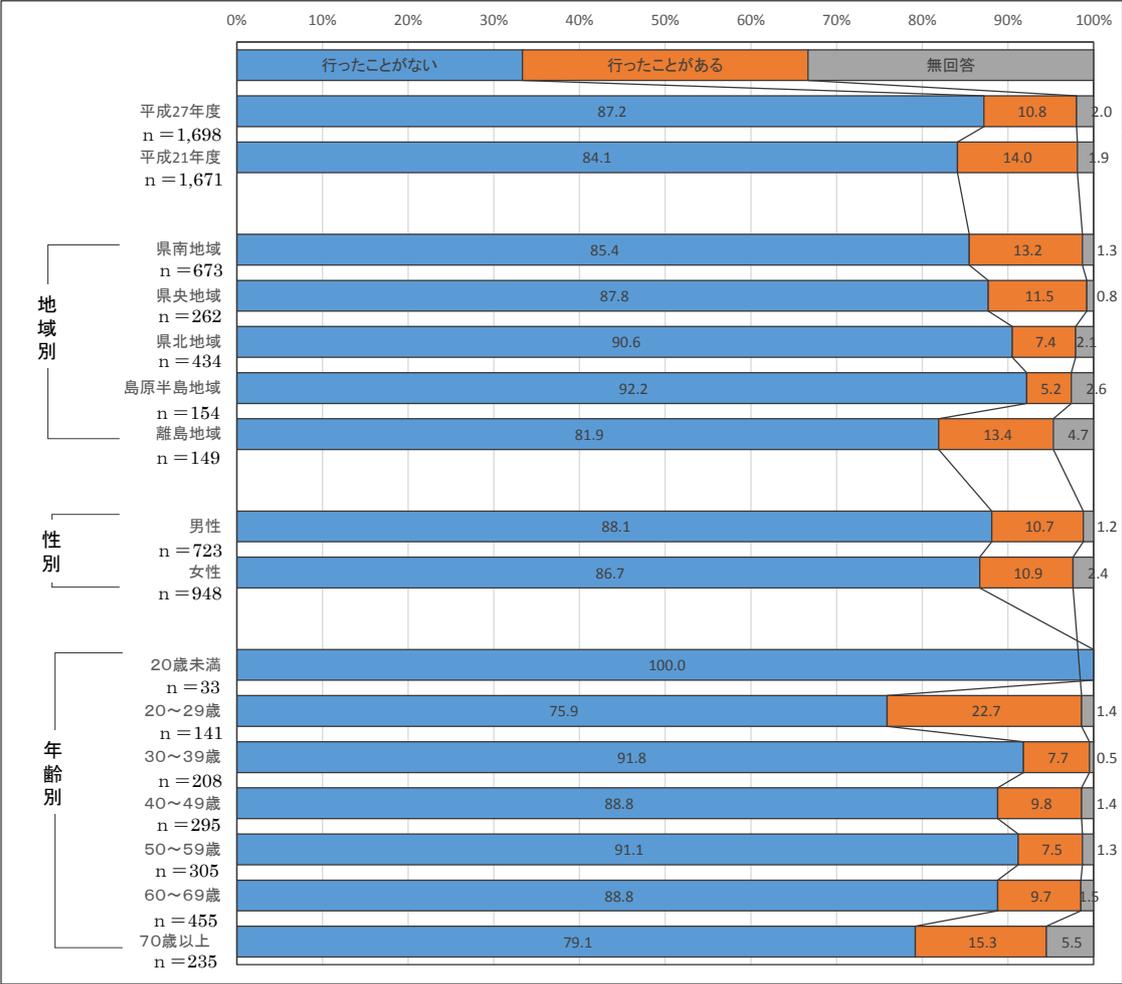
〔性別〕

「男性」28.1%、「女性」27.2%と男性が0.9ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

「20~29歳」が31.2%で最も高く、次いで、「60~69歳」30.3%、「40~49歳」29.5%、「20歳未満」27.3%、「30~39歳」・「70歳以上」26.0%と続き、「50~59歳」が22.3%で最も低くなっている。

〔問17〕あなたは、過去1年間に観光目的で県内の離島地域に行ったことがありますか（日帰り旅行を含む）。行ったことがある人は、該当するもの全て選んでください。（○は該当するもの全て）



〔調査結果（ポイント）〕

観光目的での離島地域訪問経験者は約1割
訪問先は“上五島”“下五島”が多い

〔全体〕

過去1年間に観光目的で離島地域訪問の経験は「行ったことがある」10.8%となっている。また、訪問先は上五島が33.7%で最も多い。

〔地域別〕

離島地域訪問の経験は離島地域が13.4%で最も高く、次いで、県南地域13.2%、県央地域11.5%、県北地域7.4%、島原半島地域が5.2%となっている。

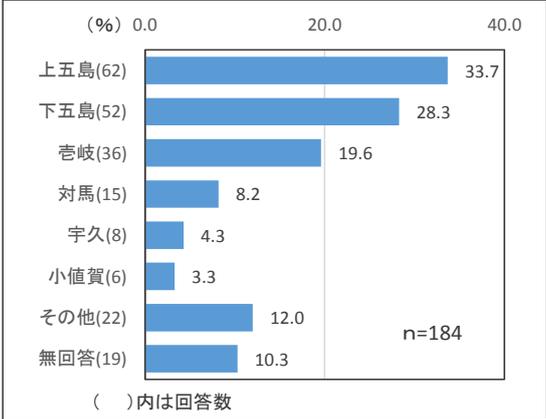
〔性別〕

「男性」10.7%、「女性」10.9%であった。

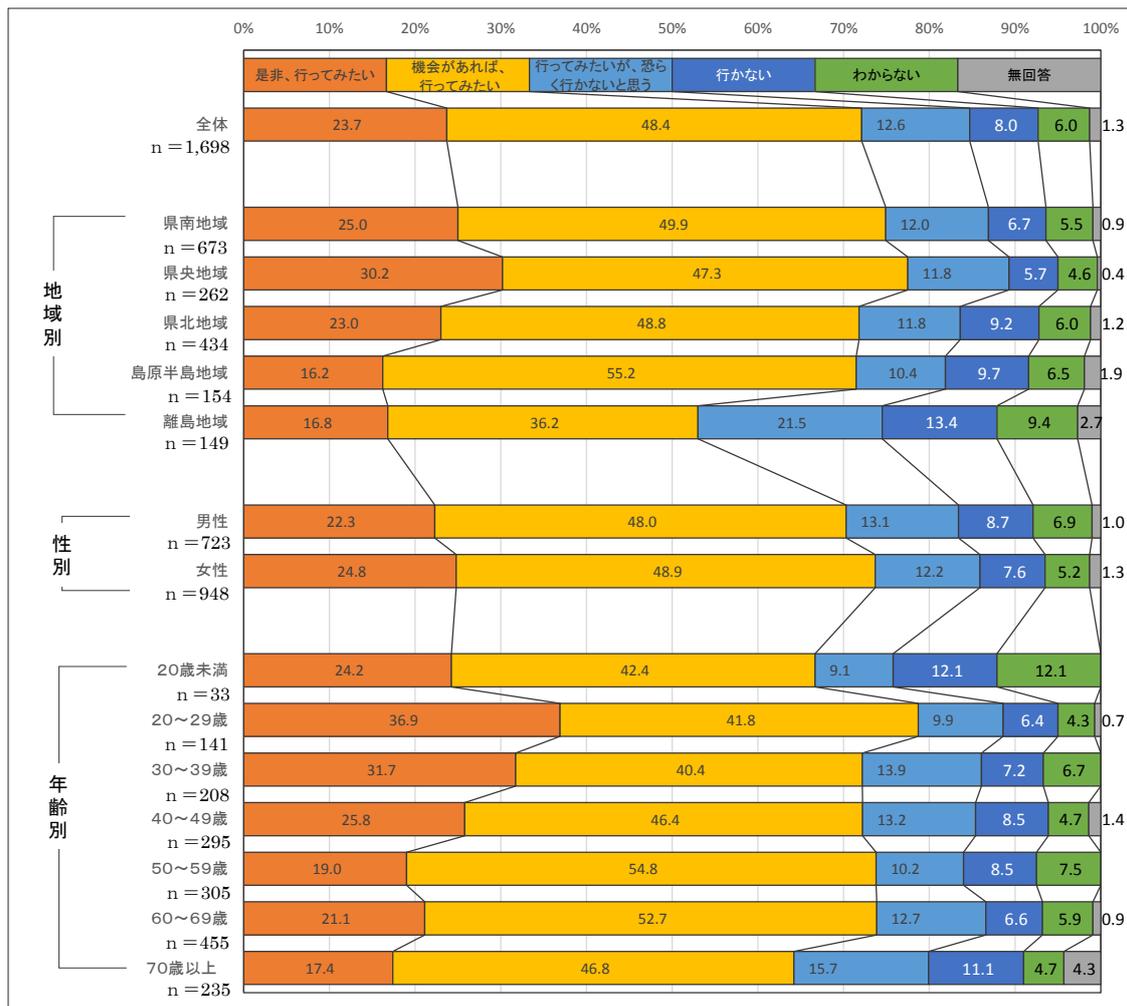
〔年齢別〕

「20～29歳」が22.7%で最も高く、次いで、「70歳以上」15.3%、「40～49歳」9.8%と続き、「20歳未満」が0%で最も低くなっている。

〔行った事がある島〕



〔問18〕 今後、あなたは県内の離島へ観光で行ってみたいと思いますか。(〇は1つ)



〔調査結果 (ポイント)〕

離島観光の訪問希望者は約7割

〔全体〕

県内の離島への観光について、「機会があれば、行ってみたい」が48.4%で最も高く、次いで、「是非、行ってみたい」23.7%、「行ってみたいが、恐らく行かないと思う」12.6%、「行かない」8.0%となっている。

〔地域別〕

「行ってみたい」は県央地域が77.5%で最も高く、次いで、県南地域74.9%、県北地域71.8%、島原半島地域71.4%、離島地域が53.0%となっている。

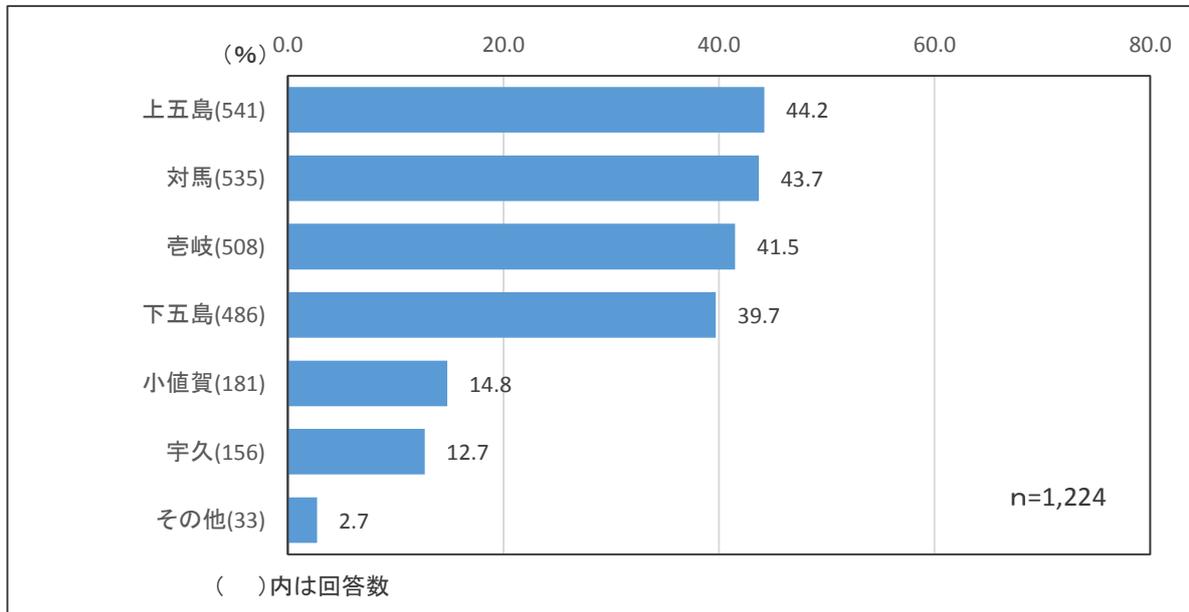
〔性別〕

「男性」70.3%、「女性」73.7%と3.4ポイント女性が高くなっている。

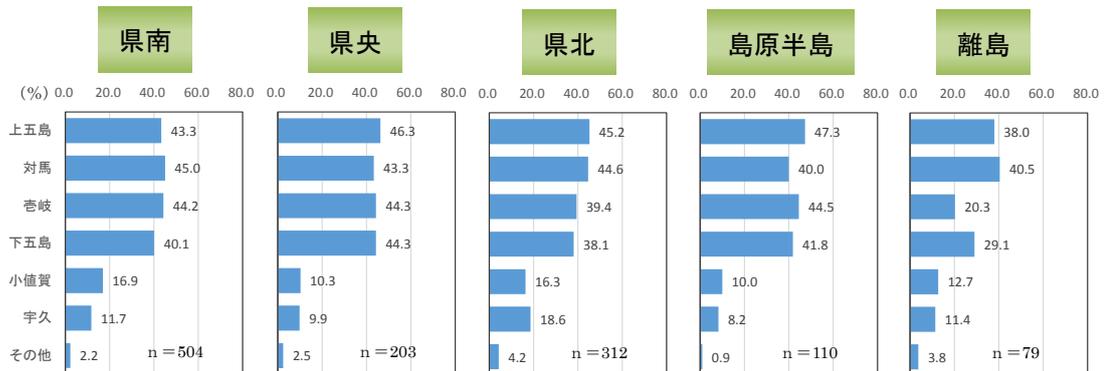
〔年齢別〕

「20~29歳」が78.7%で最も高く、次いで、「50~59歳」・「60~69歳」73.8%、「40~49歳」72.2%、「30~39歳」72.1%、「20歳未満」66.6%と続き、「70歳以上」が64.2%で最も低くなっている。

〔問19〕上記問18で「1. 是非、行ってみたい」「2. 機会があれば、行ってみたい」を選択した方にお聞きします。具体的にはどの島に行ってみたいと思いますか。(〇はいくつでも)



〔地域別〕



〔調査結果 (ポイント)〕

希望訪問先は“上五島”“対馬”“壱岐”“下五島”が多い

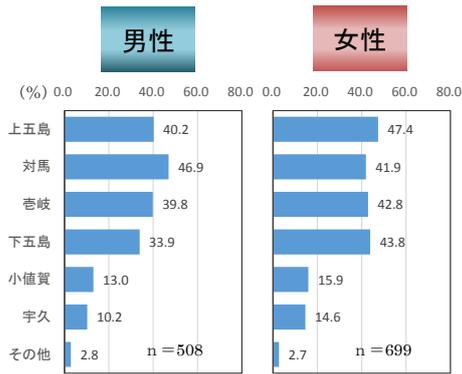
〔全体〕

訪問したい島は「上五島」が44.2%で最も多く、次いで、「対馬」43.7%、「壱岐」41.5%、「下五島」39.7%、「小値賀」14.8%、「宇久」12.7%の順となっている。

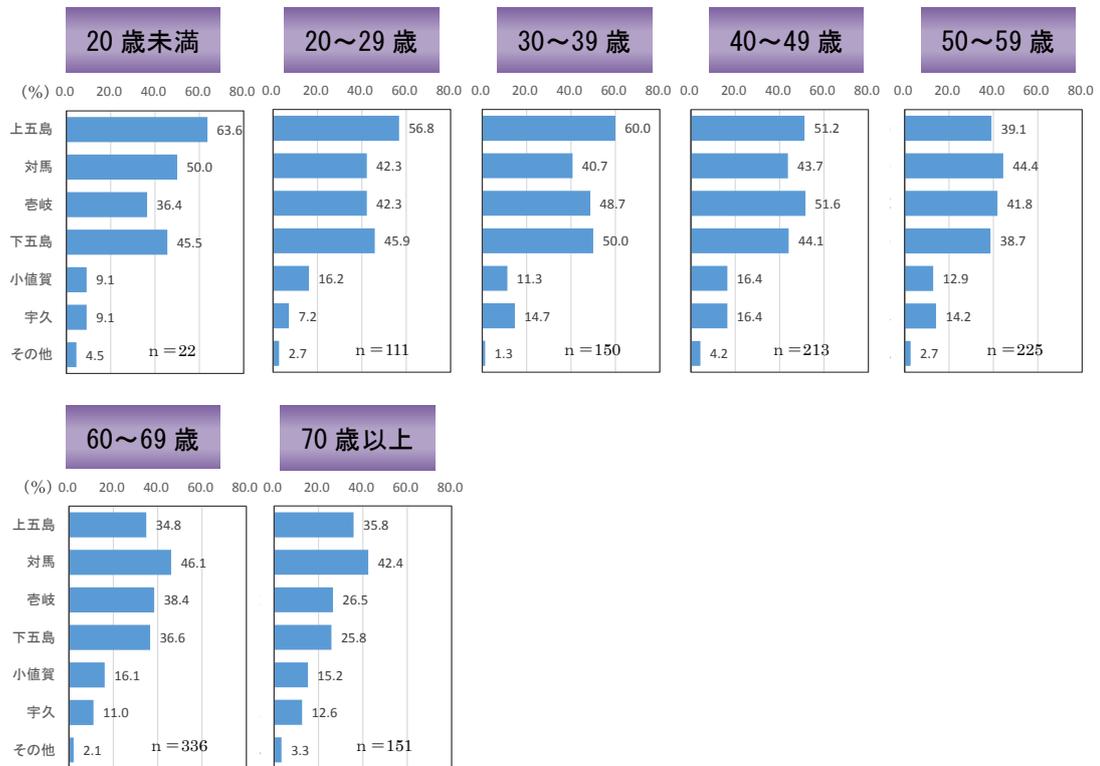
〔地域別〕

地域別での大きな傾向の違いは見られないが、県北地域で「宇久」が他地域に比べ多くなっている。

〔性別〕



〔年齢別〕



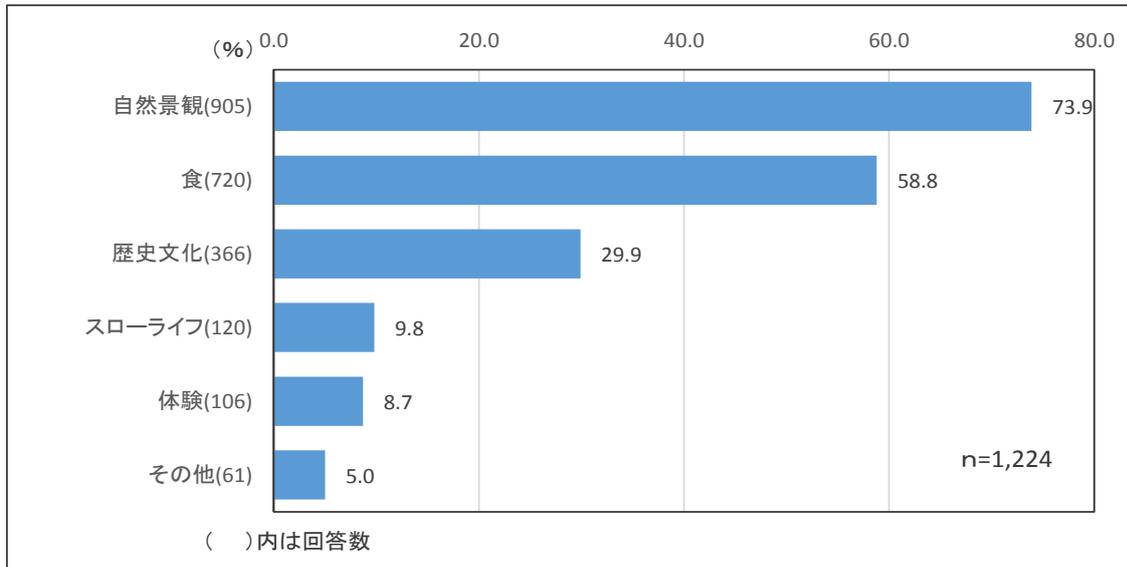
〔性別〕

「男性」は「対馬」が1位、「女性」は「上五島」に次いで、「下五島」が2位で、「壱岐」、「対馬」の順となっている。

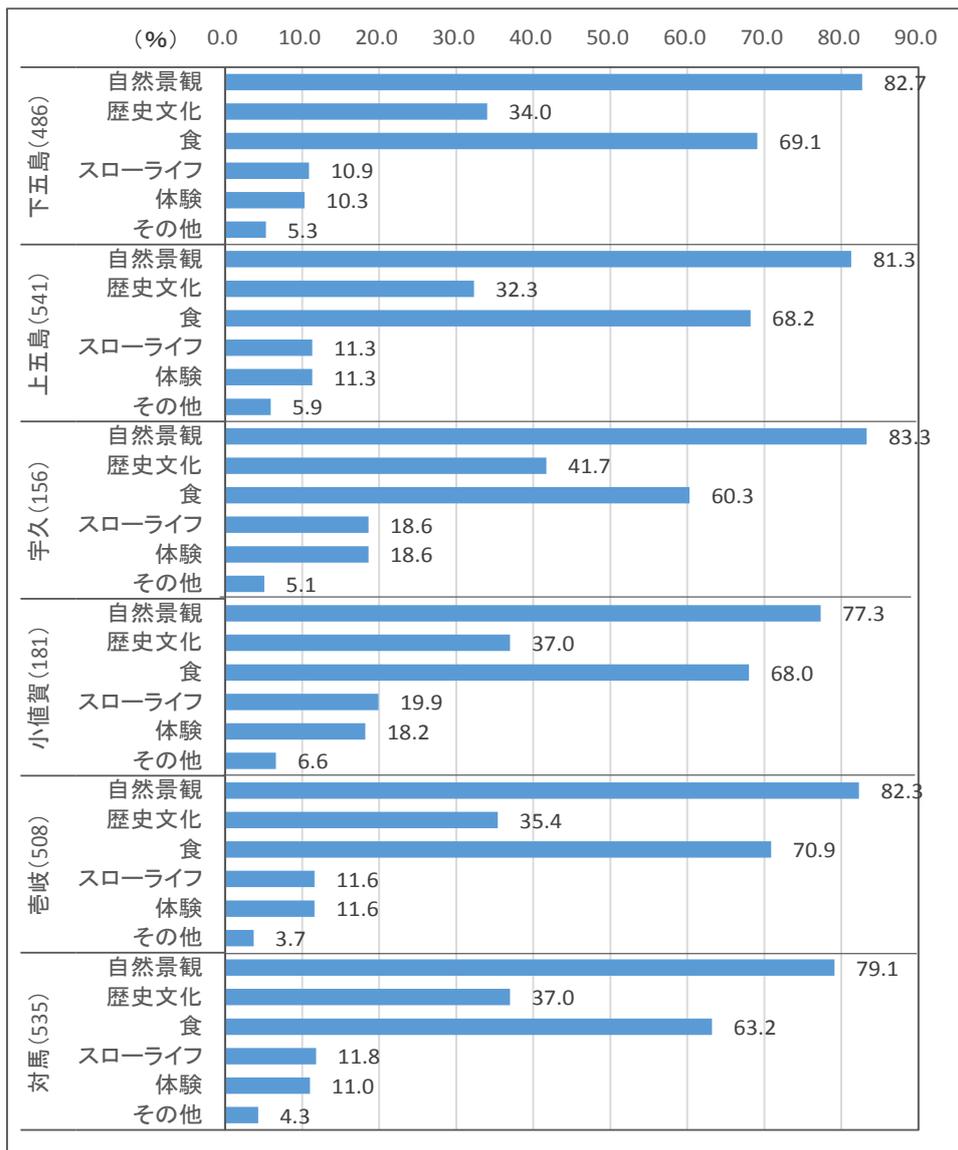
〔年齢別〕

39歳以下の年代は「上五島」が1位であるが、40歳代は「壱岐」が1位、50歳以上の年代は「対馬」が1位となっている。

〔問20〕上記問19でその島を選択したその理由をお聞かせください。(〇はいくつでも)



〔選択島別〕



〔調査結果（ポイント）〕

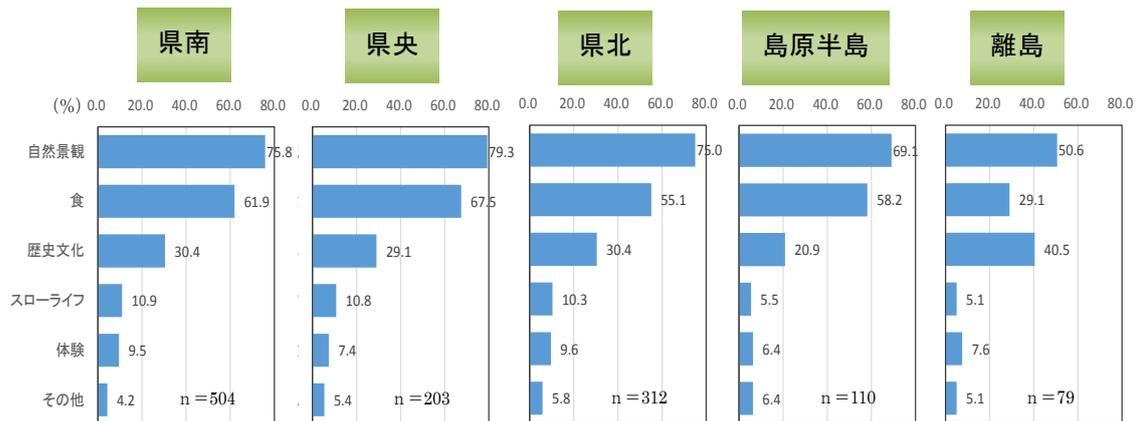
訪問理由は“自然景観”と“食”で選ぶ傾向が強い

〔全体〕

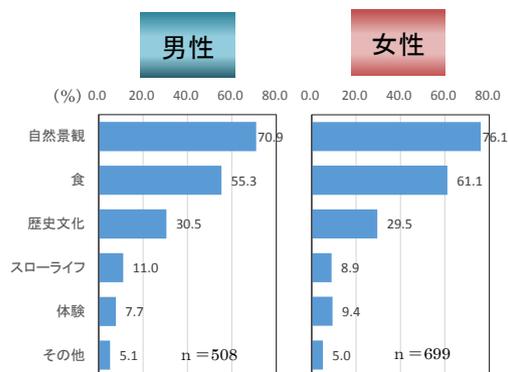
訪問したい理由は「自然景観」が73.9%で最も多く、次いで、「食」58.8%、「歴史文化」29.9%、「スローライフ」9.8%、「体験」8.7%の順となっており、それぞれの島の自然や食に魅力を感じていると考えられる。

選択した島別にみると、「宇久」「小値賀」では「スローライフ」や「体験」が他の島に比べ多くなっている。

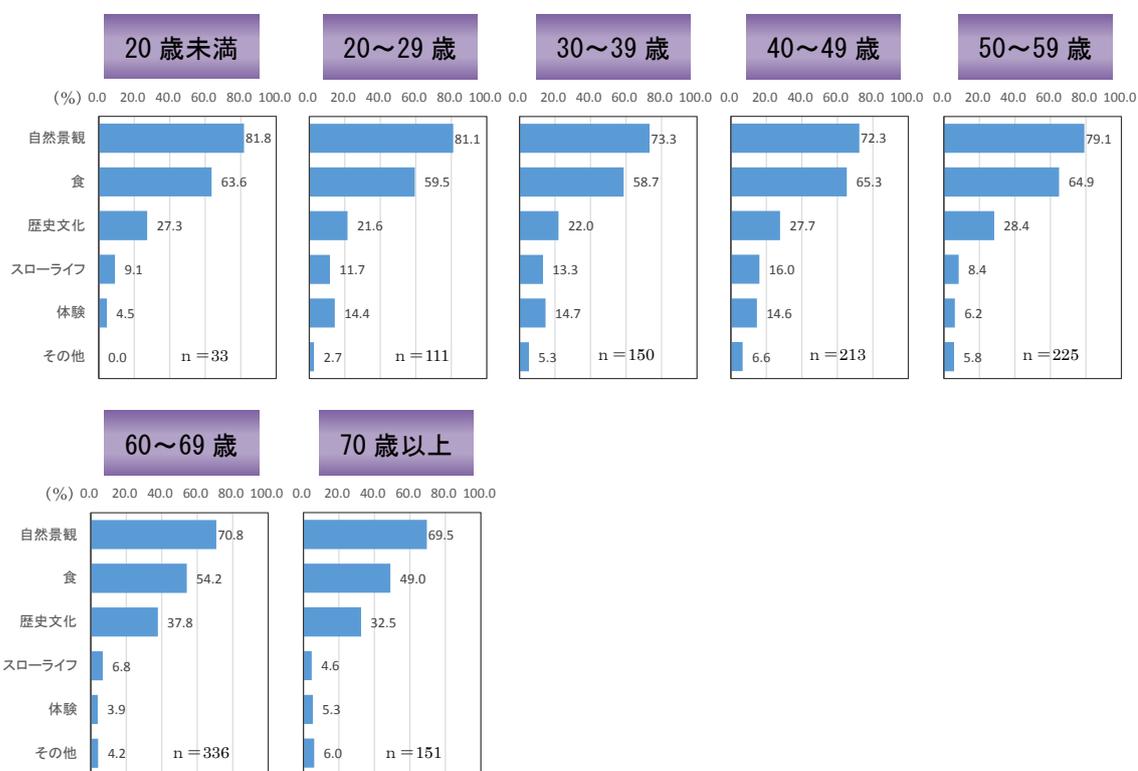
〔地域別〕



〔性別〕



〔年齢別〕



〔地域別〕

離島地域で「食」が3位となった以外全体の傾向との相違は見られない。

〔性別〕

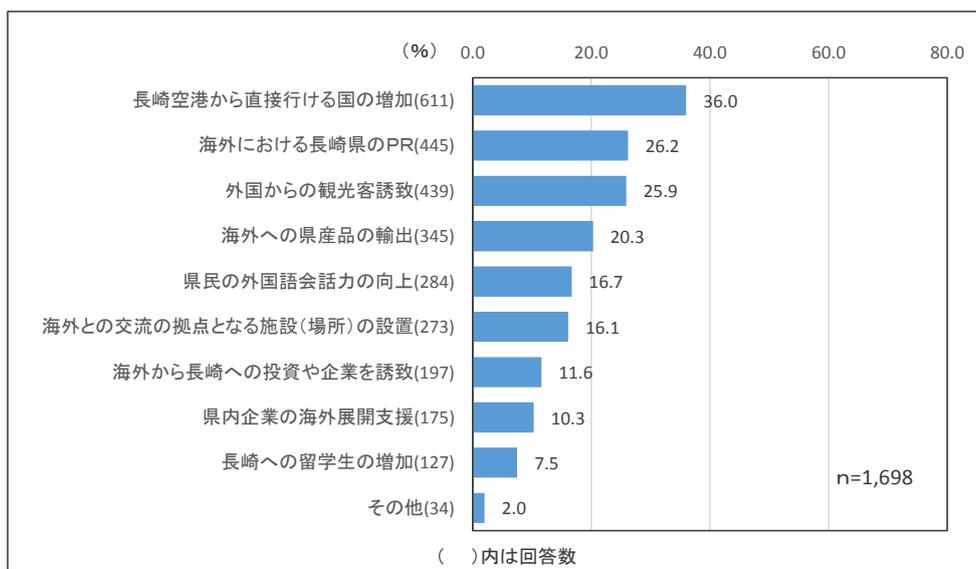
性別での大きな傾向の違いは見られないが、「自然景観」・「食」・「体験」はやや女性が多く、「歴史文化」・「スローライフ」は男性がやや多くなっている。

〔年齢別〕

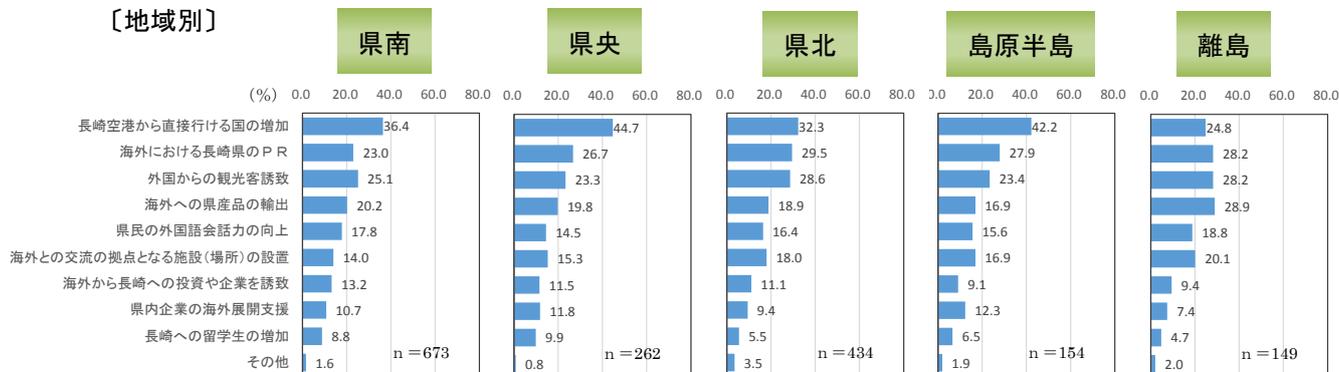
年齢別での大きな傾向の違いは見られないが、60歳代以上では、「歴史文化」が他の年代に比べ多くなっている。

海外の活力の取り込みについて

〔問 2 1〕 近年、アジアの国々は目覚ましい経済発展を遂げており、今後、長崎県が元気になるためには、これらの国々の活力を取り込む必要があると考えています。そこで、あなたは、海外の活力を長崎県に取り込むためにはどのような取組が必要だと思いますか。(〇は2つまで)



〔地域別〕



〔調査結果 (ポイント)〕

“直接行ける国の増加” がトップ
“海外でのPR” や “観光客誘致” も多い

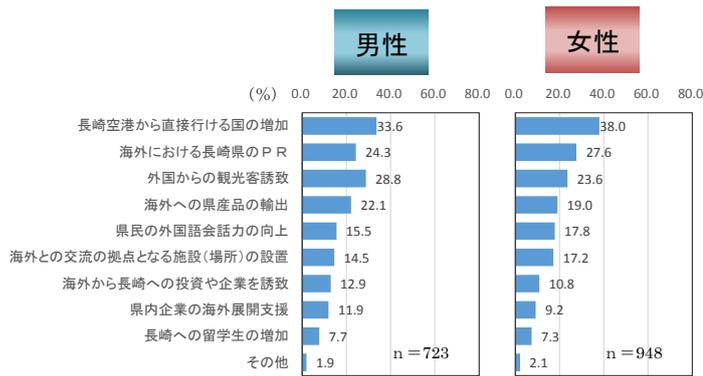
〔全体〕

海外の活力を取り込むための取組は「長崎空港から直接行ける国の増加」が 36.0%で最も多く、次いで、「海外における長崎県のPR」26.2%、「外国からの観光客誘致」25.9%、「海外への県産品の輸出」20.3%、「県民の外国語会話力の向上」16.7%の順で続いている。

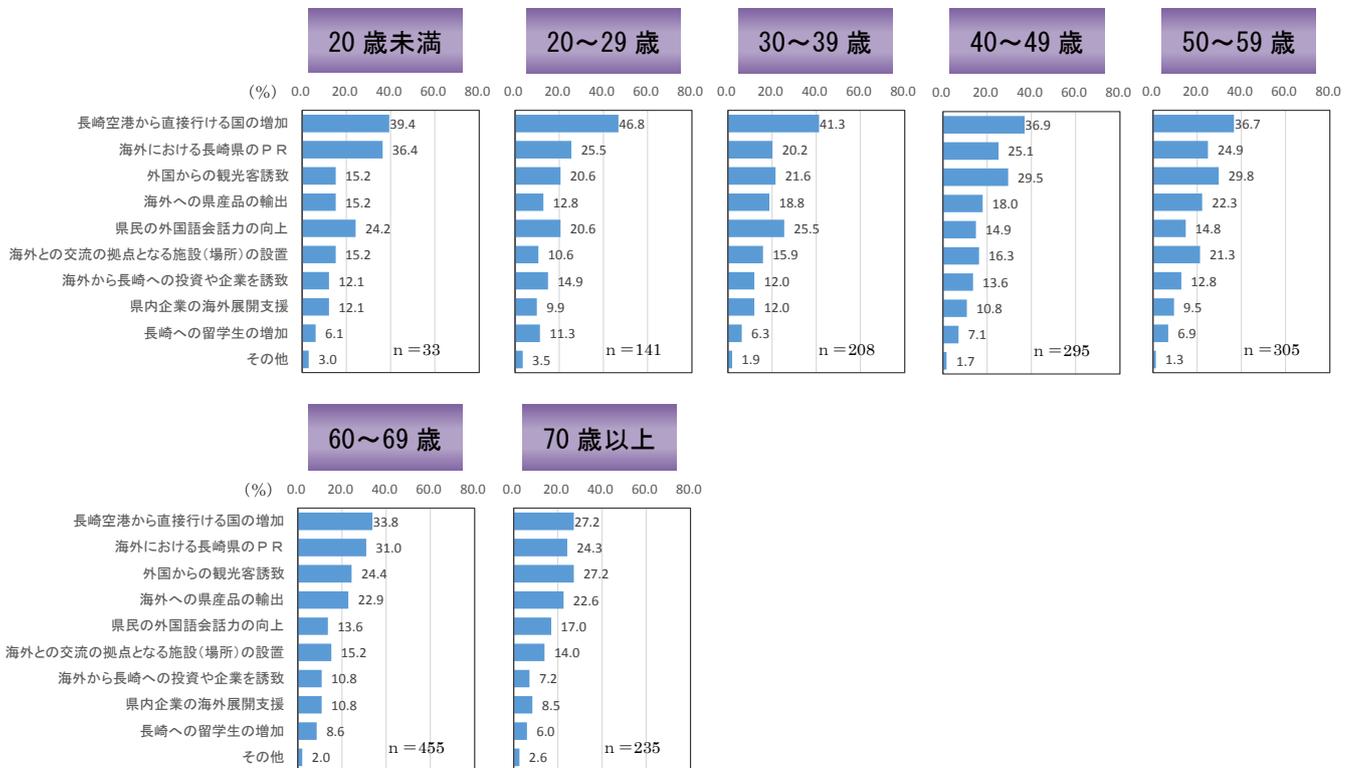
〔地域別〕

全体1位の項目「長崎空港から直接行ける国の増加」は県央地域、島原半島地域が40%以上で他項目よりも多くなっている。また、離島地域では「海外への県産品の輸出」が他地域に比べて多くなっている。

〔性別〕



〔年齢別〕



〔性別〕

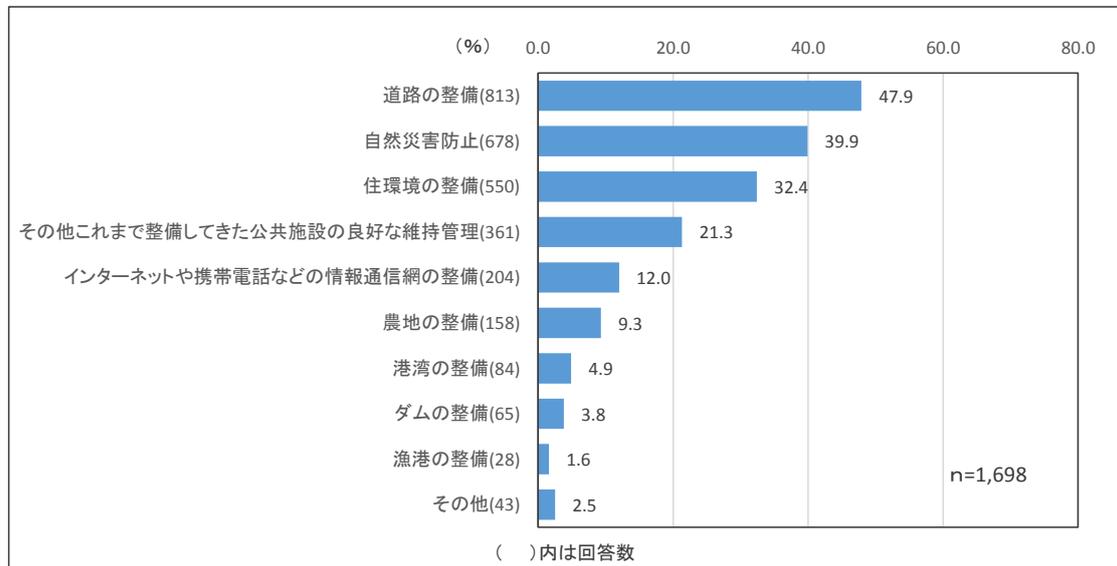
性別での大きな相違は見られないが、「男性」は「外国からの観光客誘致」が「海外における長崎県のPR」に代わり2位となっている。

〔年齢別〕

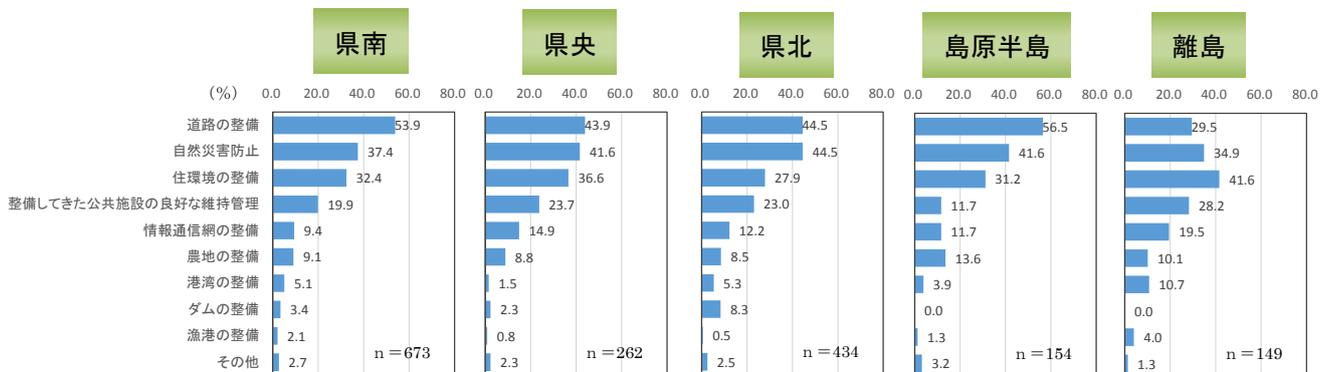
年齢別での大きな傾向の違いは見られないが、30歳代以下では「県民の外国語会話力の向上」が他の年代に比べ多くなっている。また、50歳代では「海外との交流の拠点となる施設(場所)の設置」が他の年代に比べ多くなっている。

公共施設の整備・維持管理について

〔問 2 2〕 あなたは、公共施設の整備・維持管理について以下の中で必要だと思うのは何ですか。（〇は2つまで）



〔地域別〕



〔調査結果（ポイント）〕

“道路の整備”がトップ、
“自然災害防止”や“住環境の整備”も多い

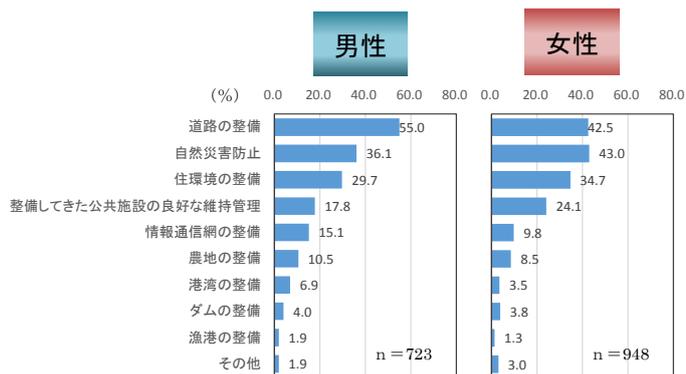
〔全体〕

公共施設の整備・維持管理のために必要なのは「道路の整備」が47.9%で最も多く、次いで、「自然災害防止」39.9%、「住環境の整備」32.4%、「整備してきた公共施設の良好な維持管理」21.3%、「情報通信網の整備」12.0%の順で続いている。

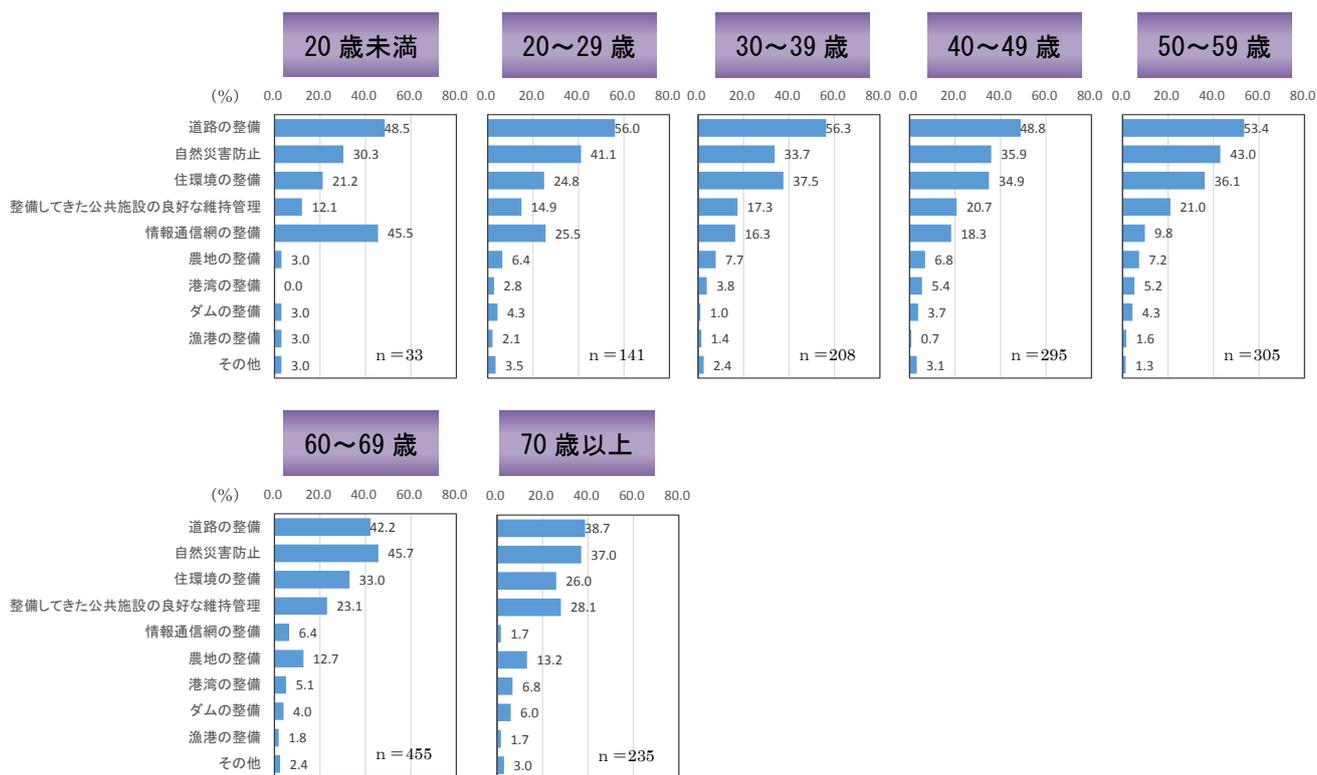
〔地域別〕

県北地域では「道路の整備」と「自然災害防止」が同率で1位となっており、離島地域では「住環境の整備」が1位となっている。また、県南地域、島原半島地域では「道路の整備」が他の項目を大きく上回っている。

〔性別〕



〔年齢別〕



〔性別〕

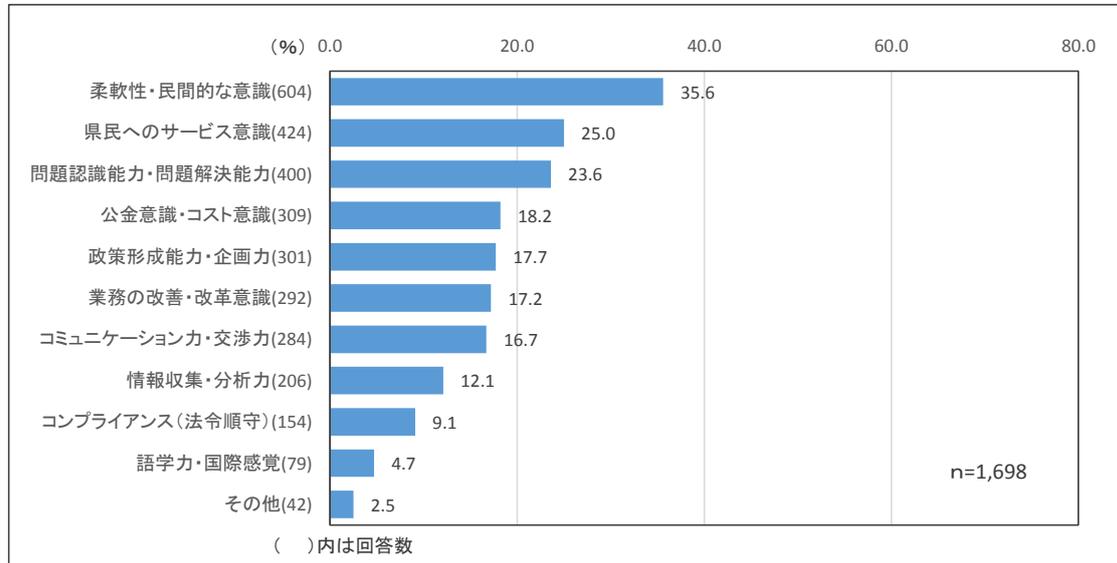
「女性」は「自然災害防止」が「道路の整備」に代わり 1 位となっている。

〔年齢別〕

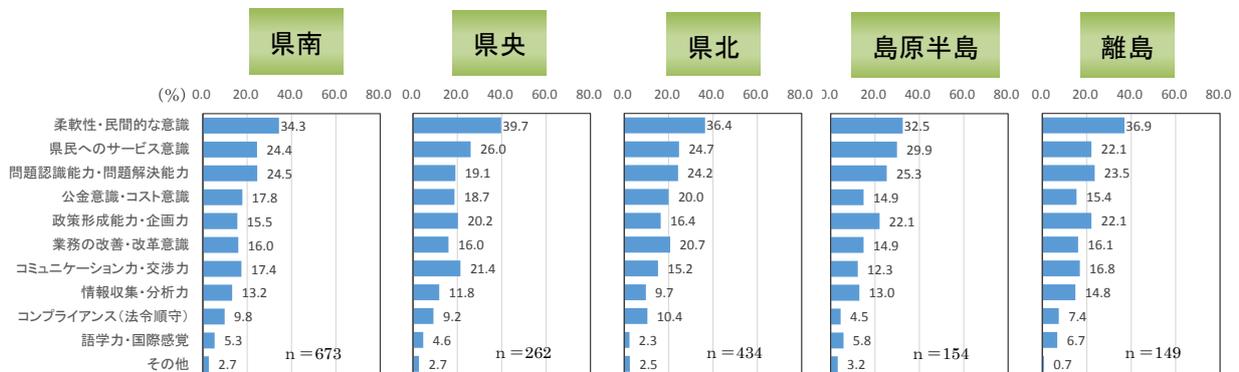
20 歳代以下では「情報通信網の整備」が他の年代と比べて多くなっている。30 歳代では「住環境の整備」が、60 歳代では「自然災害防止」が多くなっている。

県職員について

〔問23〕あなたは、県の職員が持つべき意識や能力の中で、どれが重要だと思いますか。(〇は2つまで)



〔地域別〕



〔調査結果 (ポイント)〕

“柔軟性・民間的な意識” がトップ
 “県民へのサービス意識” や “問題の認識・解決能力” も多い

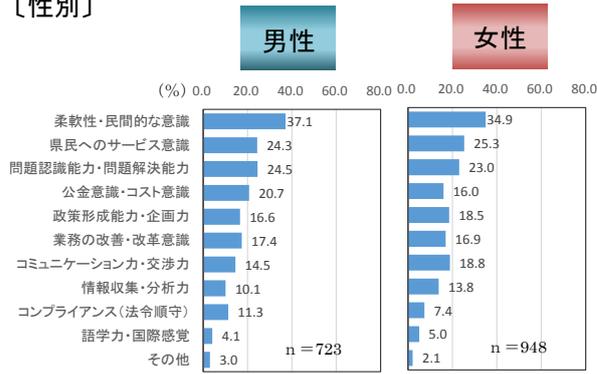
〔全体〕

県職員が持つべき意識や能力の中で重要なのは「柔軟性・民間的な意識」が 35.6%で最も多く、次いで、「県民へのサービス意識」 25.0%、「問題認識能力・問題解決能力」 23.6%、「公金意識・コスト意識」 18.2%、「政策形成能力・企画力」 17.7%の順で続いている。

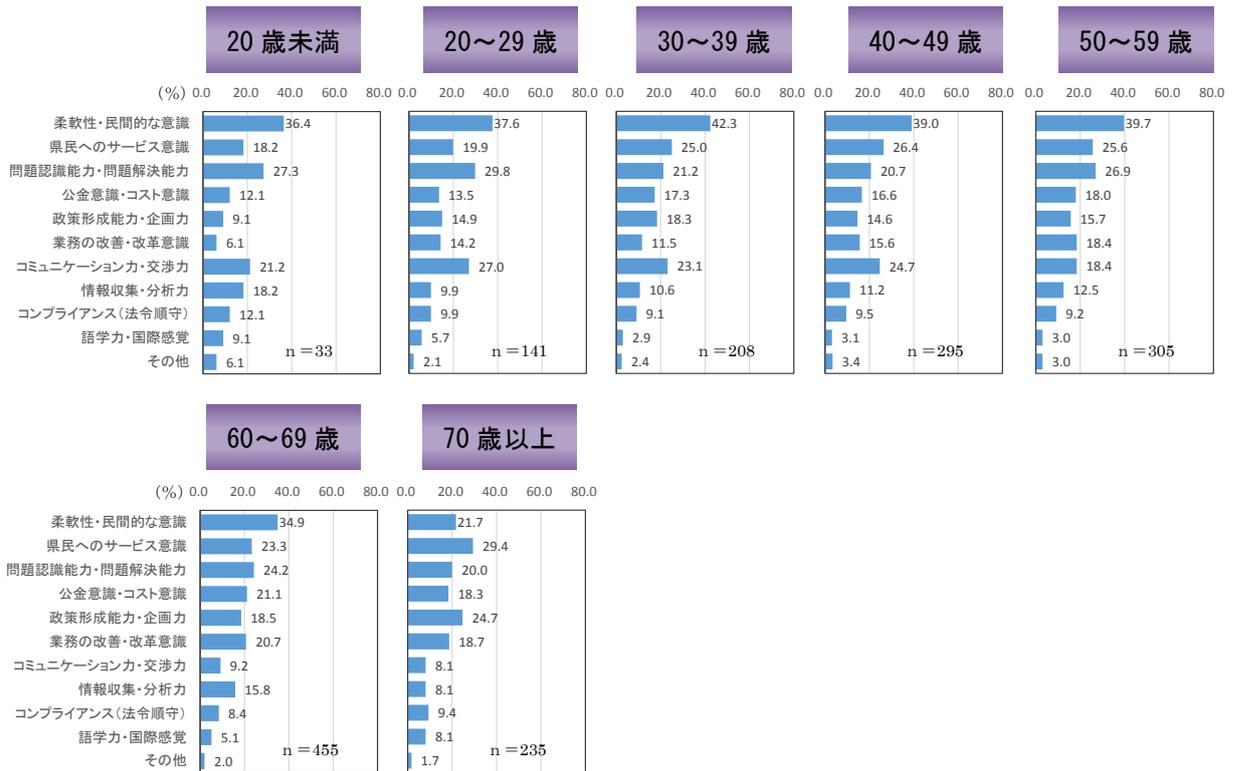
〔地域別〕

上位5項目で見ると、「公金意識・コスト意識」に代わり「コミュニケーション力・交渉力」が県央地域で3位、離島地域で5位となっている。また、全体1位の項目である「柔軟性・民間的な意識」は県央地域が 39.7%で最も多くなっている。

〔性別〕



〔年齢別〕



〔性別〕

「男性」は「公金意識・コスト意識」や「コンプライアンス（法令遵守）」、「女性」は「コミュニケーション力・交渉力」が多くなっている。

〔年齢別〕

「70歳以上」では「県民へのサービス意識」が「柔軟性・民間的な意識」よりも多くなっている。また、「コミュニケーション力・交渉力」は40歳代以下の年代が多くなっている。

調 査 票

県政世論調査 調査票

◎はじめに、あなたご自身のことについてお尋ねします。

問A あなたのお住まいはどちらですか。(○は1つ)

- | | | |
|---------|----------|-----------|
| 1. 長崎市 | 8. 対馬市 | 15. 時津町 |
| 2. 佐世保市 | 9. 壱岐市 | 16. 東彼杵町 |
| 3. 島原市 | 10. 五島市 | 17. 川棚町 |
| 4. 諫早市 | 11. 西海市 | 18. 波佐見町 |
| 5. 大村市 | 12. 雲仙市 | 19. 小値賀町 |
| 6. 平戸市 | 13. 南島原市 | 20. 佐々町 |
| 7. 松浦市 | 14. 長与町 | 21. 新上五島町 |

問B あなたの出身地はどちらですか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|-----------|-------|
| 1. 現在お住まいの市町 | 2. 県内の他市町 | 3. 県外 |
|--------------|-----------|-------|

問C 長崎県内での居住年数(通算)をお教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|---------------|----------------|----------|
| 1. 5年未満 | 3. 10年以上～20年未満 | 5. 30年以上 |
| 2. 5年以上～10年未満 | 4. 20年以上～30年未満 | |

問D あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

- | | |
|------|------|
| 1. 男 | 2. 女 |
|------|------|

問E あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| 1. 20歳未満 | 4. 40～49歳 | 7. 70歳以上 |
| 2. 20～29歳 | 5. 50～59歳 | |
| 3. 30～39歳 | 6. 60～69歳 | |

問F あなたの家族形態をお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|------------|---------------------|--------|
| 1. 単身世帯 | 3. 二世帯世帯(親と子ども) | 5. その他 |
| 2. 夫婦のみの世帯 | 4. 三世帯世帯(祖父母・親・子ども) | |

◎ここからは、各設問についてお答えください。

日常生活について

問 1 日常生活についての満足度についてお聞きします。(それぞれ該当するものに○を1つ)

	満足度 (それぞれ○をつけてください)				
	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満
1 住んでいる家 (住宅)	5	4	3	2	1
2 自分および家族の健康	5	4	3	2	1
3 子育て	5	4	3	2	1
4 子供の教育	5	4	3	2	1
5 今の仕事の内容	5	4	3	2	1
6 収入	5	4	3	2	1
7 老後・将来の生活設計	5	4	3	2	1
8 娯楽・レジャー	5	4	3	2	1
9 教養・文化活動	5	4	3	2	1
10 交際・人間関係	5	4	3	2	1
11 ボランティア活動への参加	5	4	3	2	1
12 日常使う道路	5	4	3	2	1
問 2 現在の日常生活の総合的満足度	5	4	3	2	1

問3 あなたの日常生活についてお聞きします。

3-1 現在1番優先していることは何ですか。(○は1つ)

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. 仕事 (学生の場合は学習) | 6. ボランティア活動 |
| 2. 子育て | 7. 地域活動 |
| 3. 家族サービス | 8. 友人・知人との付き合い |
| 4. 介護 | 9. 生涯学習 |
| 5. 趣味 | 10. その他 () |

3-2 今後の希望として、1番優先したいことは何ですか。(○は1つ)

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. 仕事 (学生の場合は学習) | 6. ボランティア活動 |
| 2. 子育て | 7. 地域活動 |
| 3. 家族サービス | 8. 友人・知人との付き合い |
| 4. 介護 | 9. 生涯学習 |
| 5. 趣味 | 10. その他 () |

3-3 あなたが希望する働き方はどのような形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1. 残業もあるフルタイムの仕事 | 5. 家事・育児・介護等に専念したい |
| 2. フルタイムだが残業のない仕事 | 6. 働きたくない |
| 3. フルタイムではない短時間の仕事 | 7. その他 () |
| 4. 自由な時間にできる仕事、家でできる仕事 | |

県政全般について

問 4 あなたは、今後、県がどのような分野に力を入れて行くべきだと思いますか。
 (以下の1～22の中から5つまで選んで数字に○印をつけてください)

	【分野】	【取組の内容】
1	子どもや子育ての支援	地域ぐるみでの支援体制、保育の充実、子育て相談、子どもの健全育成など
2	教育の充実	学力向上、命の大切さなどの道徳教育 など
3	保健・医療の充実	医療体制・施設の充実、健康づくりの支援、各種サービスの充実 など
4	福祉の充実	高齢者や障害者、その他支援を必要とする人が安心して暮らせる環境づくり など
5	人にやさしい社会づくり	男女共同参画、バリアフリー※ ¹ 、人権教育・啓発、消費生活の安全・安心、NPO※ ² 、ボランティア など
6	将来を担う人材育成	地域を支えるリーダーの育成、各産業の人材育成 など
7	物産の振興	農林水産品等のブランド化、県産品の販路拡大など
8	農林水産業の振興	農林水産業の生産性・収益性の向上、農地・森林などの整備、漁港・漁場の整備 など
9	商工業の振興	県内企業の支援、企業誘致、起業・創業※ ³ 支援、商店街の活性化 など
10	雇用対策	企業振興等による雇用の拡大、就職情報の提供、職業訓練 など
11	観光の振興	自然、歴史文化などを活かした旅行商品や観光地づくり、受入体制の整備、PR 強化 など
12	景観まちづくり	景観まちづくりの推進、自然景観・文化的景観の保全・創出など
13	国際交流の推進	海外との友好交流、被爆県としての国際貢献・平和貢献 など
14	海外活力の取り込み	海外からの観光客誘致、国際航空路線の強化、海外への県産品の輸出促進、企業の海外展開支援、地域で活躍する国際人材の育成・活用 など
15	地域発の地域づくり	地域コミュニティ※ ⁴ の活性化、交流人口の拡大、UI ターン※ ⁵ の促進など
16	文化・芸術の振興	文化に触れる機会の充実、伝統文化・芸能の継承 など
17	スポーツの振興	スポーツに親しめる地域の環境づくり など
18	防災対策	自然災害の防止、建築物の耐震化、防災都市づくり など
19	安全な暮らしづくり	犯罪防止、治安対策、食の安全・安心 など
20	環境対策	地球温暖化防止、水質の保全、自然公園の整備、ごみ対策 など
21	公共交通機関の充実	新幹線や JR 在来線、バス、航路、航空路線の充実 など
22	公共施設の整備	道路、公園、港湾、河川、ダムなどの公共施設の整備、補修 など

※1：バリアフリー

障害者や高齢者の生活に不便な障害を取り除こうという考え方。道や床の段差をなくしたり、電卓や電話のボタンなどに印を付けたりするのがその例。

※2：NPO

政府や企業などではできない社会的問題に、非営利で取り組む民間団体。

※3：起業・創業

新しく事業をはじめること。

※4：地域コミュニティ

日常生活のふれあいや協働の活動、共通の経験を通して生み出されるお互いのつながりや信頼関係を築きながら、自分たちが住んでいる地域をみんなの力で自主的に住みよくしていく地域社会。

※5：U I ターン

Uターン・・・その土地の出身者が都会から戻って就職、居住を行うこと。

Iターン・・・都会から地方への就職、居住を行うこと

県政全般の満足度について

問5 県の政策の総合的な満足度をお聞かせ下さい。

(問4の1～22の分野の総合評価)

満足	やや満足	どちらとも いえない	やや 不満	不満
5	4	3	2	1

だれもが活躍できる社会づくりについて

問9 あなたが65歳以降の高齢期を迎えたときに（65歳以上の方は現在）行いたいことは何ですか。（〇は2つまで）

1. 可能な限り働きたい
2. NPOやボランティア活動などの社会貢献
3. 自治会などの地域の行事や活動
4. 老人クラブ活動
5. 公民館講座などの生涯学習
6. 趣味
7. その他（ ）

問10 あなたは、性別にかかわらず、個人の個性と能力を発揮することができる「男女共同参画社会」実現のために、どのような取組が必要だと思いますか。（〇は2つまで）

1. わかりやすい広報や啓発活動
2. 男性に対する意識啓発
3. 女性に対する意識啓発
4. 学校教育における教育・学習の充実
5. 女性の新たな活動機会の創出や支援
6. 女性の就業支援のための情報提供や就業訓練の充実
7. 女性の雇用環境の整備
8. ワーク・ライフ・バランス※（仕事と生活の調和）の推進
9. 相談窓口の充実
10. その他（ ）

※ワーク・ライフ・バランス：「仕事と生活の調和」のこと。仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できること。

問 1 1 あなたは、今後、NPO・ボランティア活動が一層活発になるためには、どのような取組に力をいれていくべきだと思いますか。(〇は2つまで)

1. NPO・ボランティア活動に関する情報提供の充実
2. NPOやボランティア活動の担い手となる人材の育成
3. NPOやボランティア活動に対する活動場所や資材等の支援
4. NPOやボランティア活動への参加を希望する県民とNPOとの橋渡し
5. ボランティア休暇制度の促進
6. NPO法人に対する適正な監督
7. NPOと県とが協力して行う事業（協働事業）の促進
8. その他（)

問 1 2 あなたは、お住まいの地域の活力を向上させるため、どのようなものに参加したいと思いますか。(〇は2つまで)

1. 地域ぐるみでの自主防災活動や消防団活動
2. 高齢者や障害を持った方などに対する福祉活動
3. ごみ収集や清掃活動、花壇設置などの環境活動
4. 青少年の健全育成活動や子ども会・PTA活動
5. お祭りなどの地域行事や歴史・文化の保存継承に関わる活動
6. 運動会や学習に関するスポーツ・レクリエーション活動
7. インターネット等による地域の魅力の情報発信活動
8. 川や海、森林などの地域の自然環境保全に関わる活動
9. 農山漁村体験などの他地域との交流活動
10. 地場産品の開発、販売、宣伝活動
11. その他（)
12. やりたいことはない

科学技術の活用について

問 1 3 情報技術やロボット技術など、科学技術の発展は目覚ましいものがあり、今後、県では成長市場として地場企業の参入可能性等を検討していきたく考えています。あなたは、科学技術がどのような分野に活用されると良いと思いますか（○は2つまで）

1. 医療・健康分野 (医療技術・治療薬、健康の維持・増進など)
2. エネルギー分野 (地球環境の保全や水素社会などの新エネルギーの創出・活用など)
3. 生活・介護分野 (生活や作業の補助、または介護を支援するロボットなど)
4. 交通分野 (次世代自動車や新型航空機など次世代の交通手段の創出など)
5. 情報分野 (インターネットや膨大な情報（ビッグデータ）の処理技術など)
6. 宇宙・海洋分野 (宇宙や海洋などの探査や利活用など)
7. 観光分野 (観光客への自動ガイドシステム（翻訳システム）など)
8. 造船分野 (環境負荷の低い新たな造船技術の開発など)
9. その他 ()
10. 特にない
11. わからない

雇用対策・人材育成について

問 1 4 あなたは、新卒者や若者が県内で就職をしてもらうための雇用対策として、今後、県でどのような取組が必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 求人相談体制の強化
2. 求人情報の提供
3. 職業訓練の場の提供
4. 学生時代からの職場体験などの実施
5. 県内企業情報発信の強化
6. 県内企業の雇用を維持(拡大)するための企業への助成
7. Uターン就職支援の強化
8. 県内企業の職場環境の改善
9. その他 ()

問 1 5 あなたは、県内の産業を支える人材を育成するために、今後、県はどのような支援に力を入れて行くべきだと思いますか。(○は2つまで)

1. 職業訓練(県高等技術専門学校や民間機関での職業訓練)の充実
2. 学生の就業意識の向上(大学生や高校生のインターンシップ[※]の推進など)
3. 各地域の人材ニーズに対応した出張職業訓練
(食品加工の技術者指導や従業員の意識改革講座など)
4. 高度な技術者養成のための県内の大学等との連携
5. 誘致企業のニーズに応えられる高度な技術を持った人材の育成
6. 東アジア地域などの商習慣や言葉を理解した国際人材の育成
7. 農林業や漁業の新規就業者に対する研修の充実
8. その他 ()

※インターンシップ：学生が在学中に自分の選考に関連する企業に体験入社する制度

海外の活力の取り込みについて

問 2 1 近年、アジアの国々は目覚ましい経済発展を遂げており、今後、長崎県が元気になるためには、これらの国々の活力を取り込む必要があると考えています。

そこで、あなたは、海外の活力を長崎県に取り込むためにはどのような取組が必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 外国からの観光客誘致
2. 長崎空港から直接行ける国の増加
3. 海外への県産品の輸出
4. 県内企業の海外展開支援
5. 海外における長崎県のPR
6. 海外から長崎への投資や企業を誘致
7. 県民の外国語会話力の向上
8. 長崎への留学生の増加
9. 海外との交流の拠点となる施設(場所)の設置
10. その他()

公共施設の整備・維持管理について

問 2 2 あなたは、公共施設の整備・維持管理について以下の中で必要だと思うのは何ですか。(○は2つまで)

1. 道路の整備
2. 自然災害防止(河川・海岸保全、がけ崩れ対策など)
3. ダムの整備(水資源の安定的な確保)
4. 港湾の整備(防波堤、岸壁、旅客ターミナル)
5. 漁港の整備
6. 農地の整備(土地改良など)
7. 住環境の整備(下水道・公園・公営住宅など)
8. インターネットや携帯電話などの情報通信網の整備
9. その他これまで整備してきた公共施設の良好な維持管理
10. その他()

県職員について

問 2 3 あなたは、県の職員が持つべき意識や能力の中で、どれが重要だと思いますか。
(○は2つまで)

1. 政策形成能力・企画力
2. 情報収集・分析力
3. コンプライアンス（法令順守）
4. コミュニケーション力・交渉力
5. 業務の改善・改革意識
6. 問題認識能力・問題解決能力
7. 公金意識・コスト意識
8. 柔軟性・民間的な意識
9. 県民へのサービス意識
10. 語学力・国際感覚
11. その他（

）

最後までご協力ありがとうございました。ご記入もれがないか、もう一度確認され、同封の封筒（切手は不要です）に入れて、ご返送ください。